日本ジオパークネットワーク　ガイド（案内人・解説者）実態調査

選択式設問

p.2 ～ p.12　１．回答者について
（１）～（13）回答

p.13　２．平成30年（2018年）４月から平成31年（2019年）３月までの間のガイド実績
（14）、（15）回答

p.14 ～ 19　３．ガイド活動をして感じたことや変わったことについて
（16）～（26）回答

p.20　４．これからのガイド活動について
（27）回答

自由回答式設問

p.21 ～ p.36　（28）回答

p.37 ～ p.50　（29）回答

p.51 ～ p.66　（30）回答

p.67 ～ p.80　（31）回答

p.81 ～ p.95　（32）回答

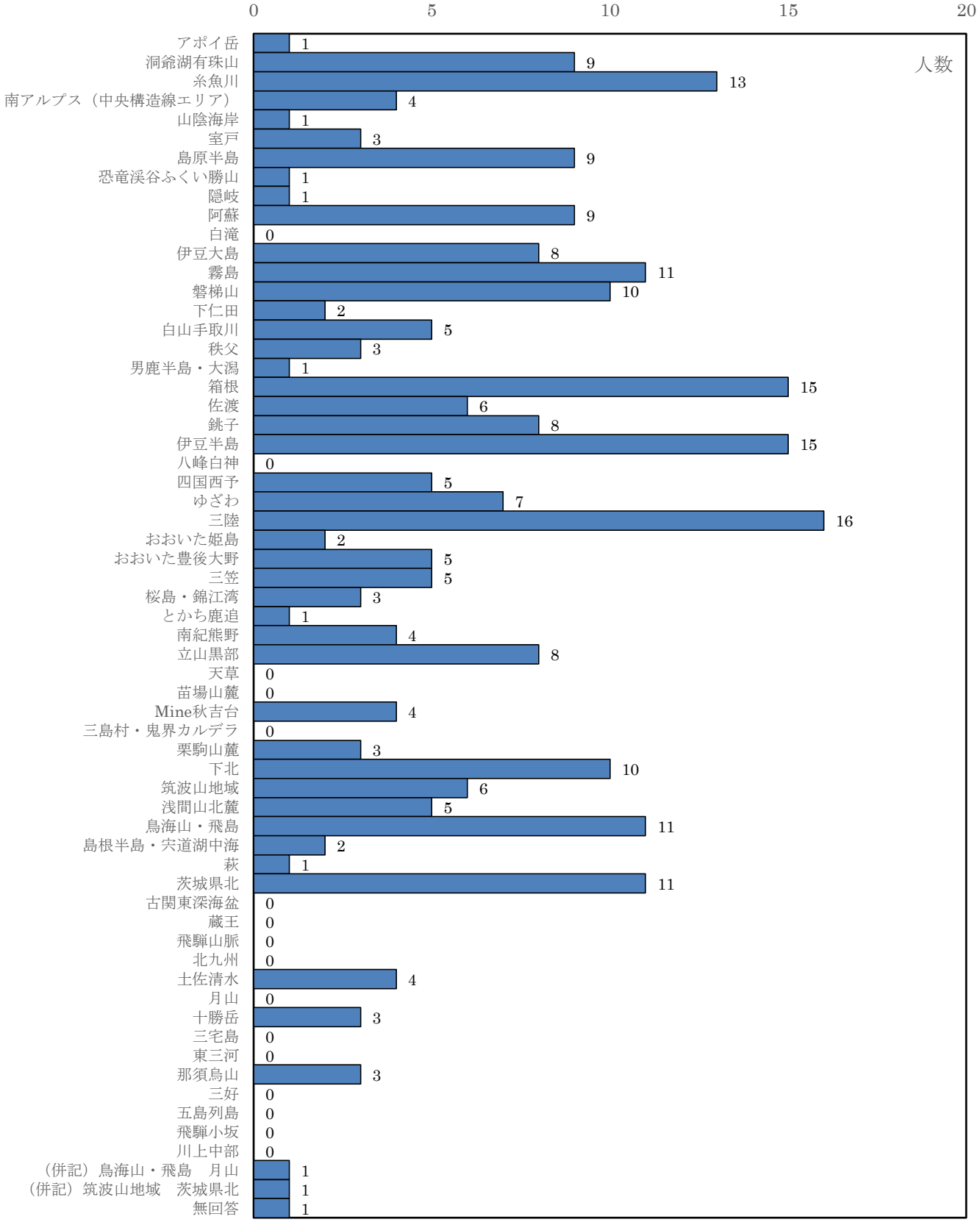
p.96 ～ p.112　（33）回答

p.113 ～ p.127（34）回答

選択式設問回答まとめ

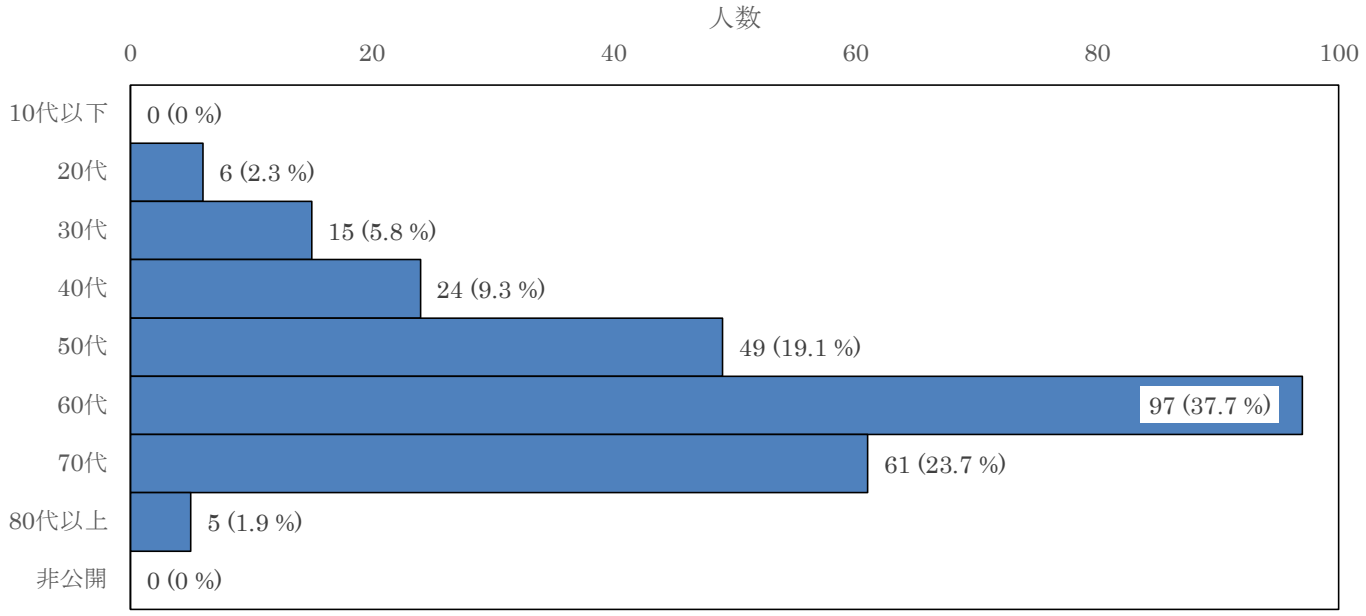
１．回答者について

（１）関わっているジオパーク/構想地域名、または市町村名



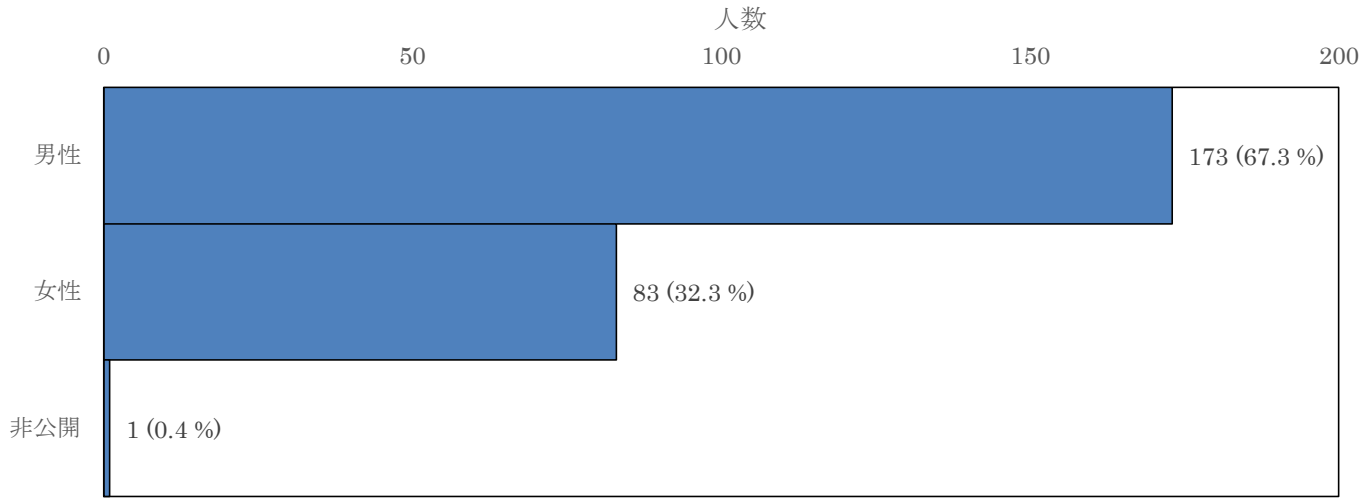
回答数 257 人

（２）年齢



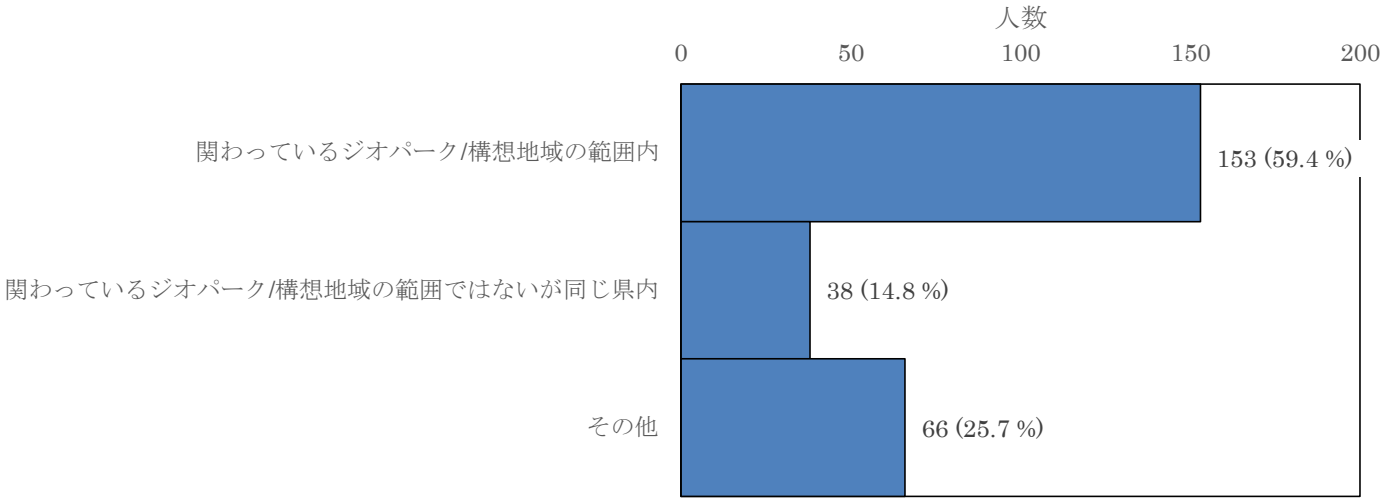
回答数 257 人

（３）性別



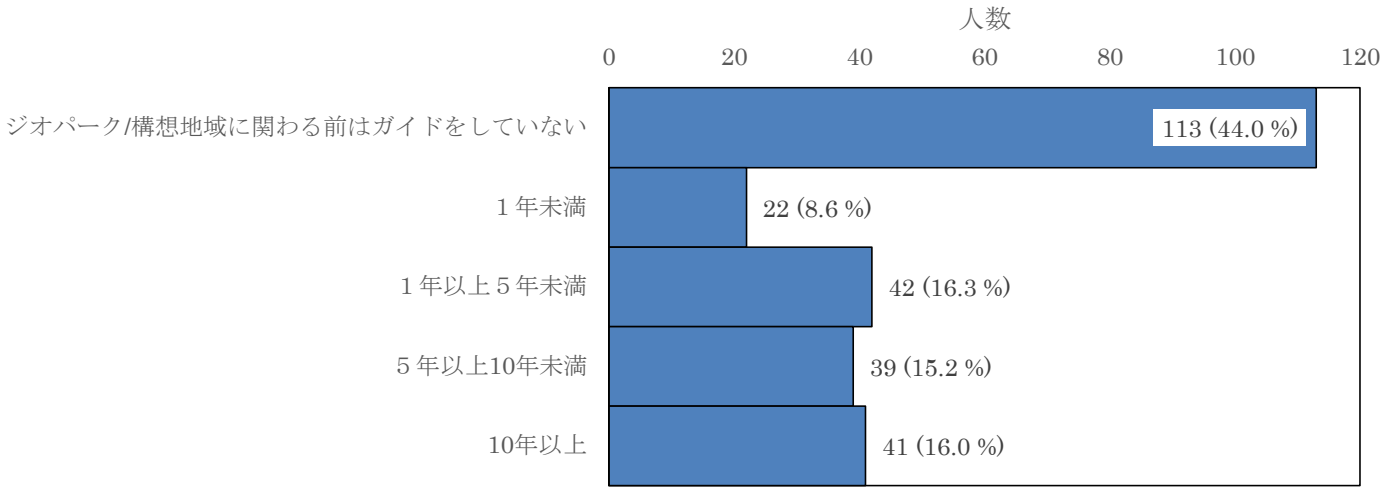
回答数 257 人

（4）出身地



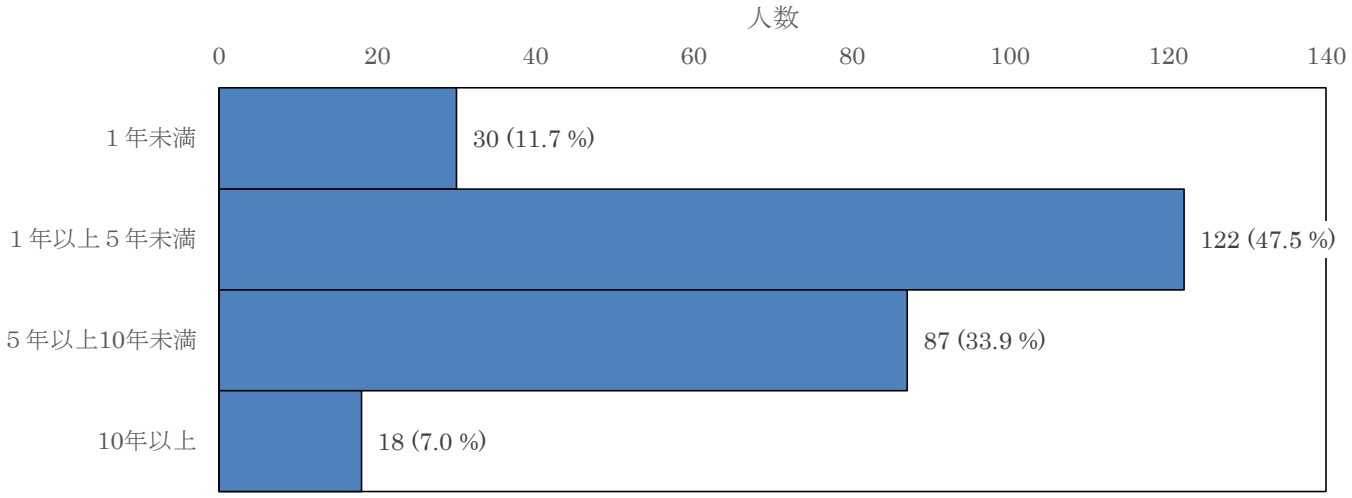
回答数 257 人

（5）ジオパーク/構想地域に関わる前のガイド歴



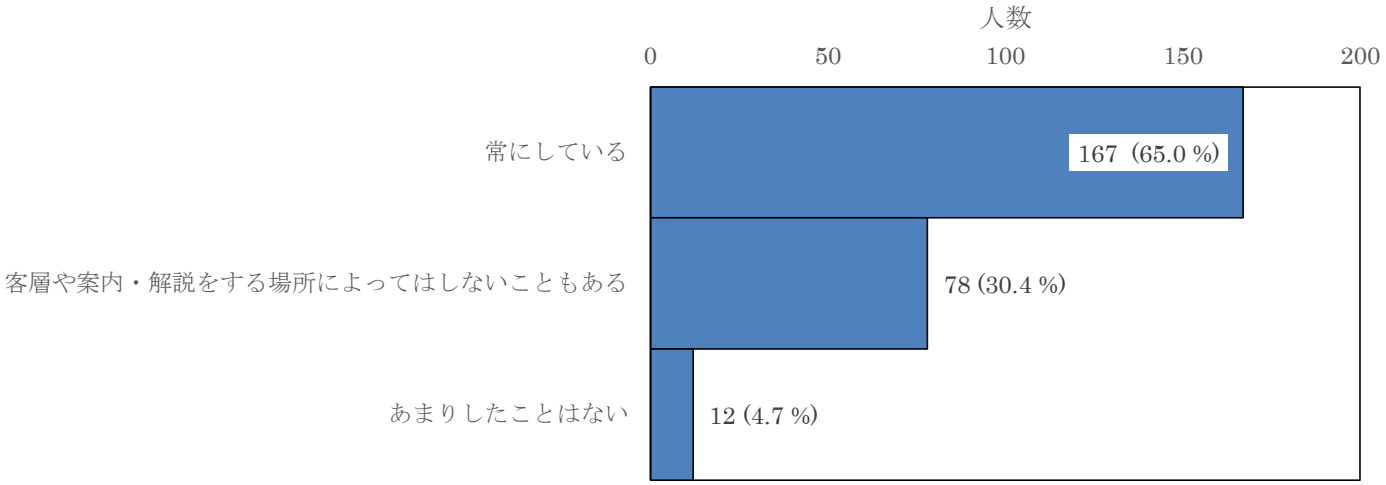
回答数 257 人

（６）ジオパーク/構想地域に関わりだした後のガイド歴



回答数 257 人

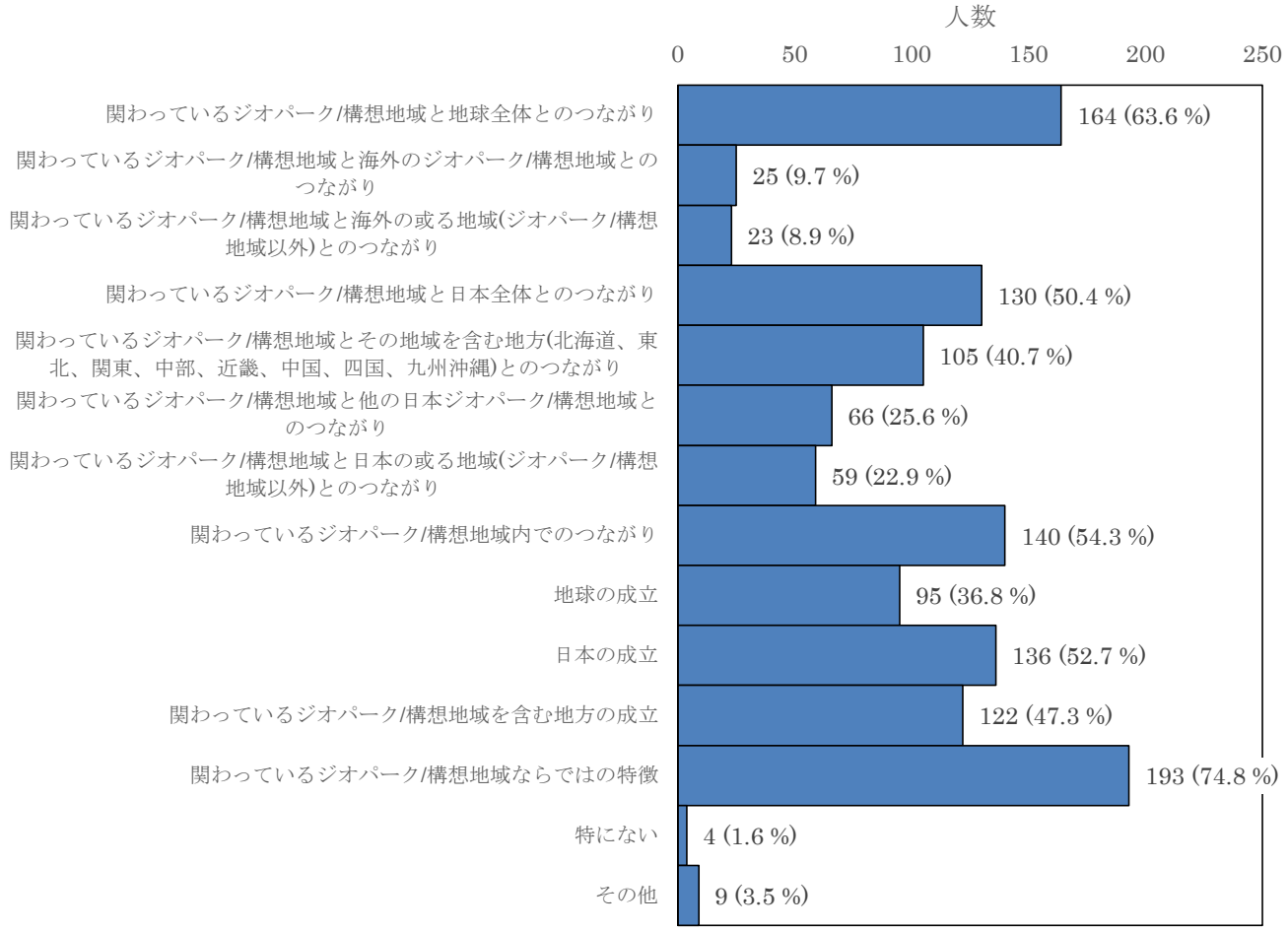
（７）ジオパーク/構想地域のストーリーや地域の大地の成り立ちを意識した案内・解説



回答数 257 人

（8）案内・解説する際に意識して話すように心がけていること（複数回答可）

※つながりには地形、地質、自然、文化など様々なものを含むとします。



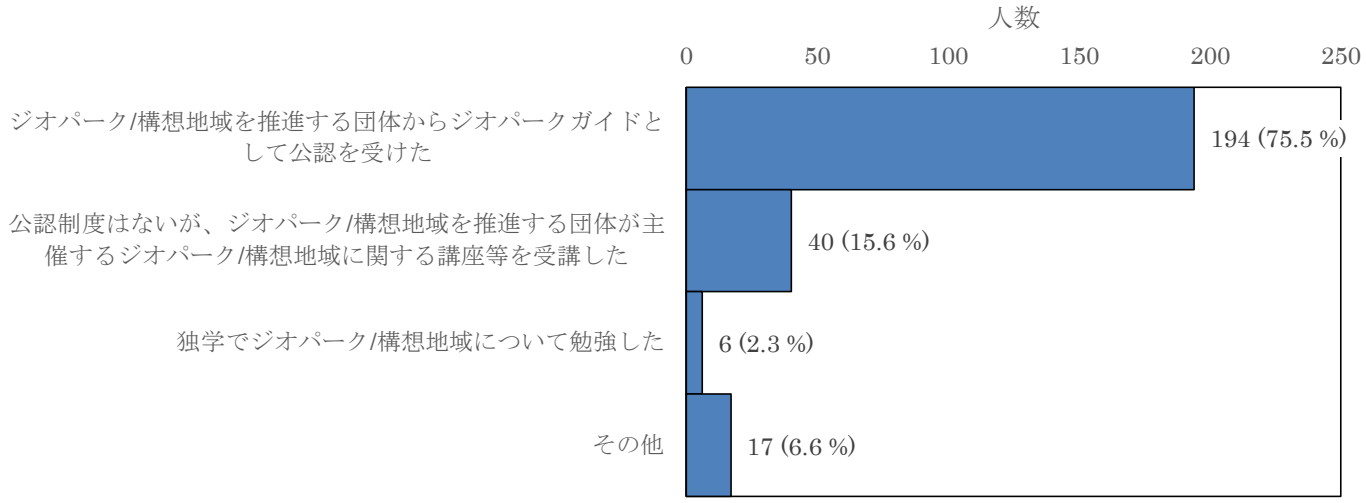
回答数 257 人

※（ ）内は選択した人数を回答数（257 人）で割ったもの

その他選択者の記述

お客さんの居住地との関わり（判っているとき）
地球生命史や人類史との関り
天災は忘れた頃に来る。
地形・地質的要因がもたらす自然環境、それを活かして作られる地域の特産品
地域が生んだ　文人　芸術家　芸人　スポーツ選手の紹介
お客様の出身地や仕事先、馴染みのある場所などはお客様とのつながりがある場合に話をします。あとは地球の動きの中での自分が関わるジオパークのことを話します。なのでチェックした項目は意識して話すというよりも知識としてもっていて必要があれば引き出しから出す程度です。
ガイド認定は取得したが実際にガイドしたことはまだないです。
島原半島の大地の成り立ち
火山の噴火災害は一時，恵の期間は長い。だから人はその下で暮らす。

（9）ジオパーク/構想地域に関わるガイドになった経緯

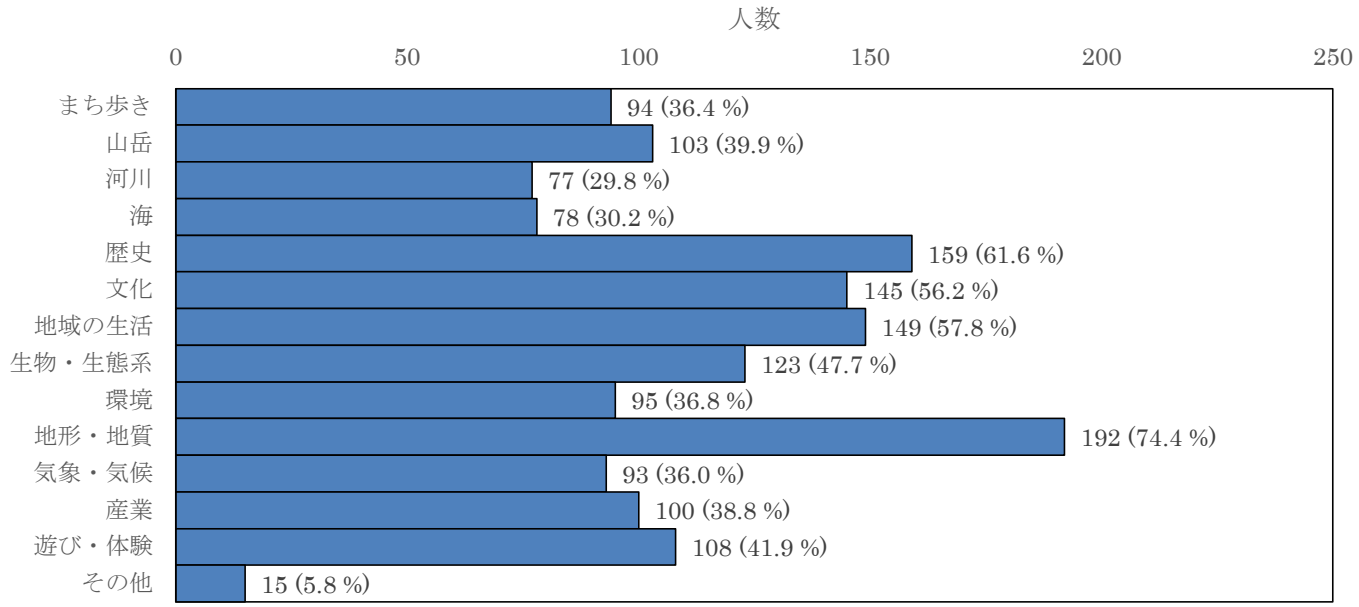


回答数 257 人

その他選択者の記述

311 の災害をきっかけに地域について学びたいと思った
関係者からのすすめで
ジオパーク構想以前からガイドを行っていた
ジオパークに認定される前から、ジオサイトでのガイドを行なっていたから
仕事柄(自然・環境・観光・防災などの情報提供)
部署に配属されたから
臨時職員として事務局に配置された
構想地域に関する講座を受講しジオサポータとしてガイド活動
ジオパーク関係者にお誘いいただいたので
ジオパーク推進協議会の方々と一緒に活動していて、それまでガイドしていた内容と合致していた
職業柄ジオパークに関わるため
ジオパーク認定審査の時にジオパークと出会い、以後一緒に歩んできた感じです。
認定をうけるために講座を受講中（現在は、サポーター）
事務局員としてガイドを実施
知人にｼﾞｵﾊﾟｰｸについて興味がある。今度教えてと言われた事がきっかけです。
全職場ジオとの関係あり。ジオ検定初級、ジオサイトの研修、実施試験に合格し、認定される。
ガイドをしていたエリアがジオパークになったから

（10）案内・解説をするうえで得意・好きな分野（複数回答可）



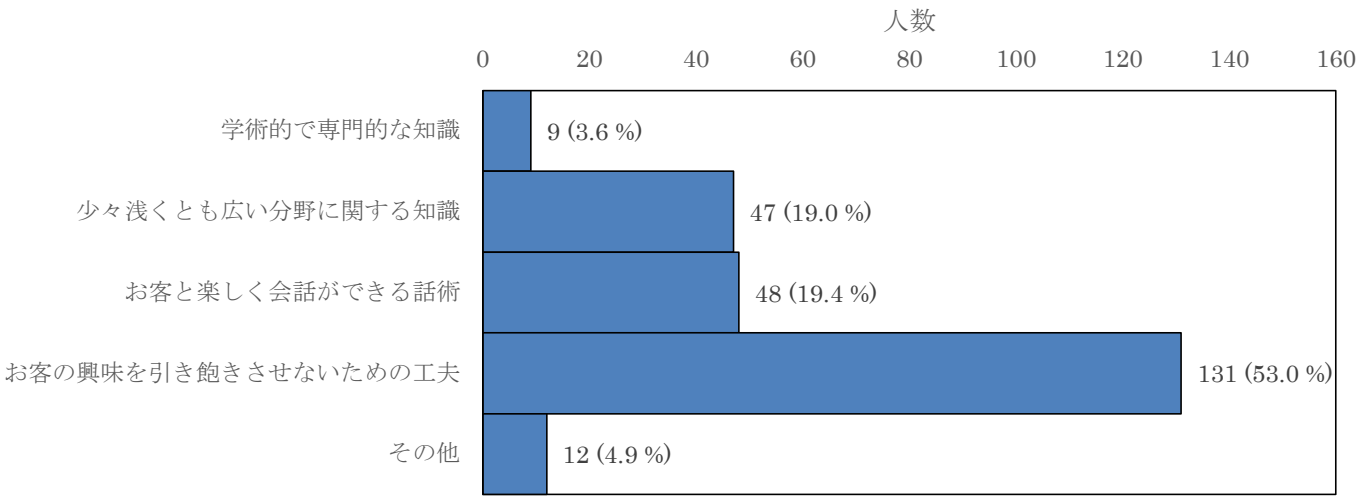
回答数 257 人

※（ ）内は選択した人数を回答数（257 人）で割ったもの

その他選択者の記述

グルメ
減災
減災文化
石造物
山歩き
プレートテクトニクス
拾える岩石の紹介
水の大循環
押し花・料理
食事等食べるものについて。
食
平野と湖
豪雨、噴火などの災害と人々の暮らし
食
防災士であること。自主防災会組織の代表でもあること。地域住民への普及啓発に取り組んでいる。

（11）ジオパーク/構想地域の案内・解説をするうえで一番重要だと思うこと



回答数 247 人

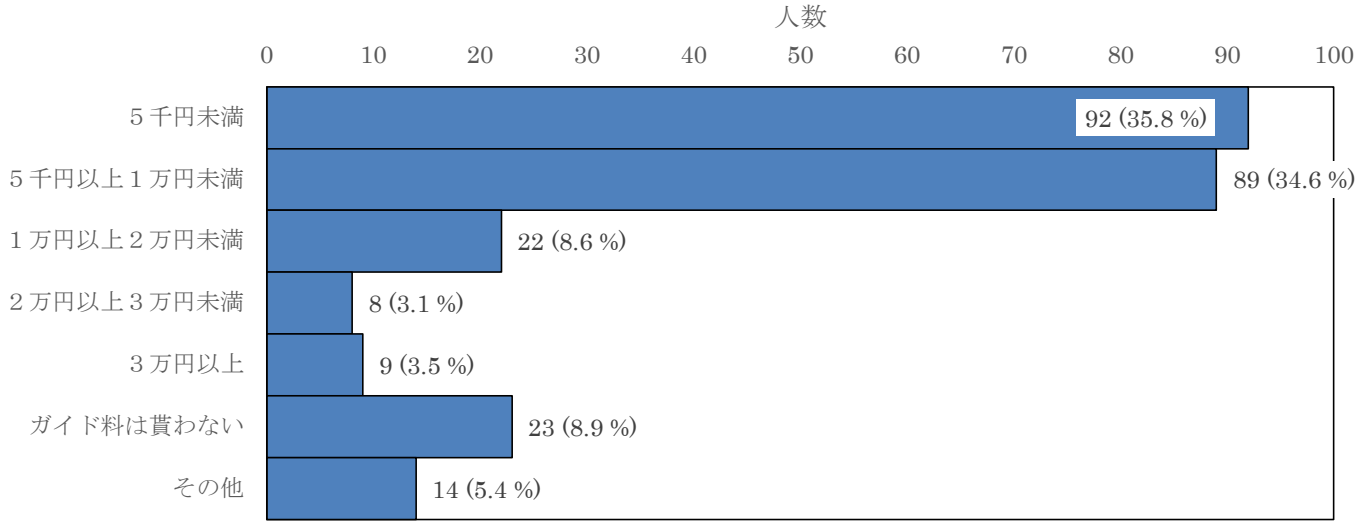
※全回答数 257 人のうち、複数選択している回答 10 人分を除外

その他選択者の記述

ジオパークに対する理解と興味を醸成すること。
現代社会が抱えている課題の解決につながるような話題をわかりやすく楽しく
お客様がジオパークに求めているものを理解し、それを確実に提供すること
体験して感じたこと、気づきからの理解
お客様の期待している話題をくみ取り、ガイドしながら、ジオサイト（その場所）の魅力を感じ、楽しいと思っていただくこと。
そこに住み着いているヒト
なし
会話をしながら糸魚川を知ってもらう　元気をお土産にしたい
インタープリテーション
解説する内容を他の関連事項やお客さんの身近なことに関連付けることができる知識と話術
お客様と地域を結びつけ、来てよかった、生きててよかったと実感してもらう、そのための唯一無二のストーリーを作るちから
正確な知識をわかりやすく伝えること
まだまだ知名度の低いジオ的な話を、押し付けることなく身近なものとしてさりげなく伝え「ジオパーク」というものに興味を持ってもらえるように話をすること。それができるようになるには上記項目のすべてが重要だと思います。

(12) ガイド料

(10 人の参加者を３時間案内・解説する場合、参加者が払う正規料金の合計。体験料などは含まない。)

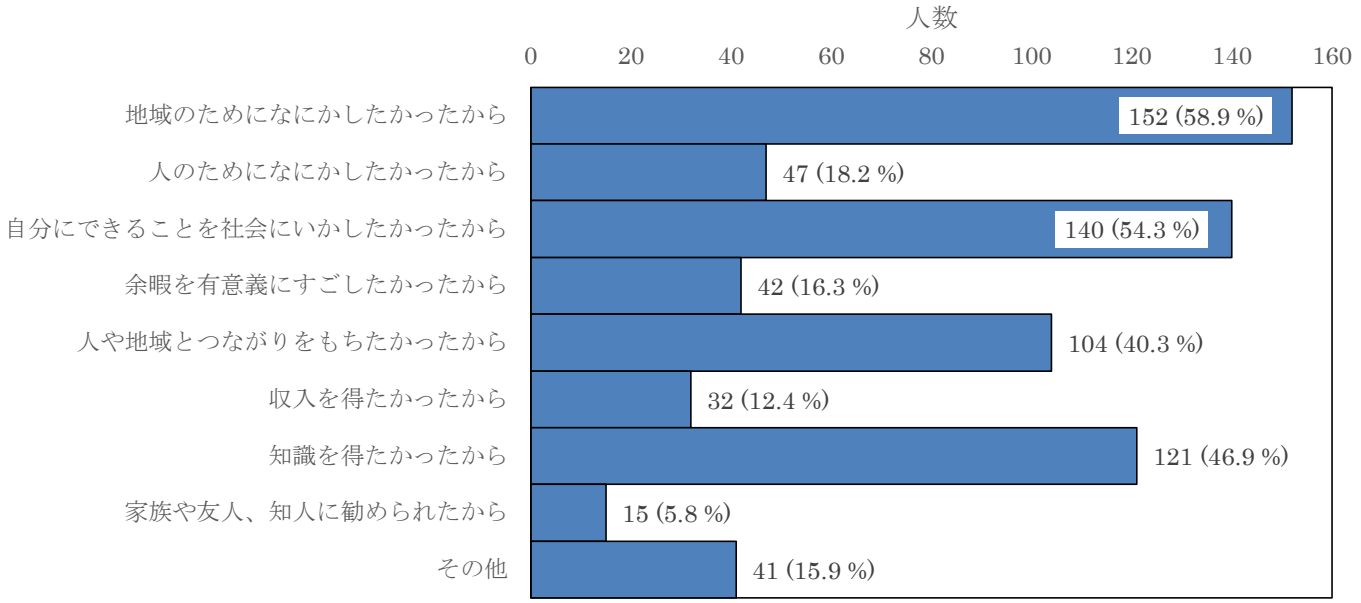


回答数 247 人

その他選択者の記述

ガイドの会には既定のガイド料金がありますが、私の担当地区での依頼はほとんどありませんでした。
資料代、保険料の実費
1～2 時間(5000 円ほど)の案内が多い
市役所協議会から 3000 円程度
なし
会社としての規定で上記のようなことを行ったことがない為、分かりかねます。
わからない
ボランティアで無料の場合と有料でツアーのガイドをする場合がある
したことが無いのでわかりません。
2～3/月 ﾚｸﾁｬｰﾙｰﾑでの定点ｶﾞｲﾄﾞ　５．５時間／日　6000 円
検討中
よく意識していない
５千円以上１万円未満　１万円以上２万円未満　時間を多めにようするトレッキングとウォーキングなど、危険度の差によってもガイド料は異なる
溶岩ミニトレッキング大人１人 1,000 円　小中学生１人 500 円/30 分（１人でも実施。Max10 名）

（13）ガイドになったきっかけ（複数回答可）



回答数 257 人

※（ ）内は選択した人数を回答数（257 人）で割ったもの

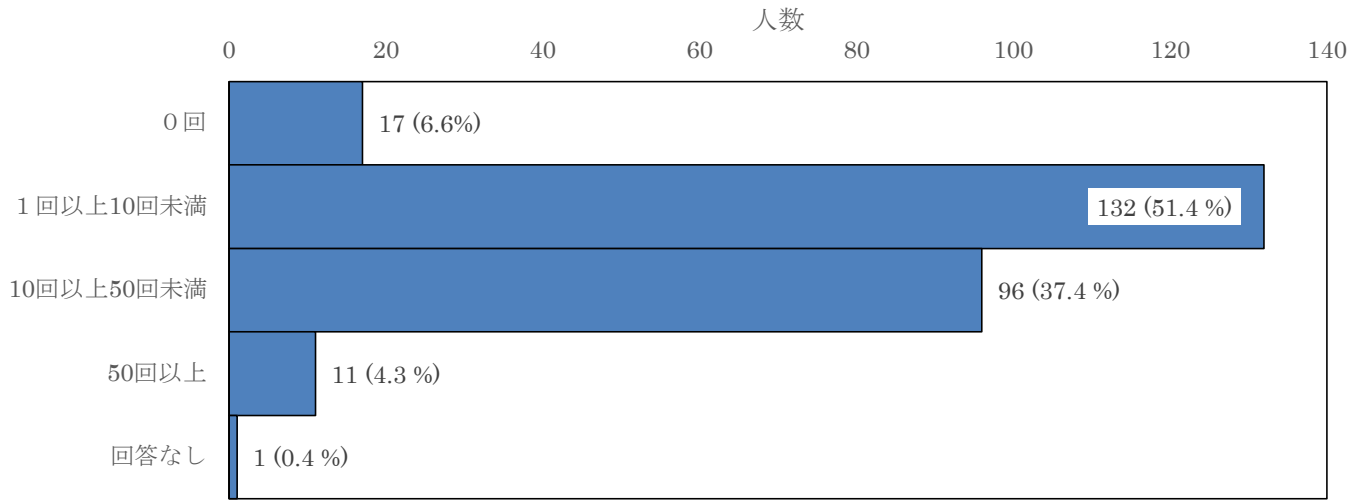
その他選択者の記述

自分が知った感動を人に伝えたいと思ったから
1　全く知らなかったが単に面白そうだと思った 2　若しかしたら他者と会話する機会があるかも
地域のガイドがいなかったため
自分の好きなものを「好きだ」と言ってくれる人を見つけて、仲間を増やしたいから
自然の成り立ちを知りたい事
ジオパーク構造からガイドウォークを企画してきた
自分が住む町の地形や歴史を学びたい。
自治体からの要請
仕事の延長
人と自然に関わる仕事がしたかったから
仕事柄(自然・環境・観光・防災などの情報提供)
ふるさとの魅力をたくさんの人に知ってほしいから
別のガイドをする際の知識として
自然科学が好きで地域の知見を深められると共に、地域貢献に結びつけられるので。
なし
部署に配属されてから
仕事上のなりゆきで
フットパスガイド活動経験を生かしてジオサポータに協力
仕事の都合上
地域の環境(地形・地質・その他環境)・文化・生き様等が好きで、それを来訪者に伝えたかったから

観光業に携わる業務の一つとして
自然にかかわり仕事に就きたいと思ったから
前にいた地域での知識と経験を活かせると考えたから
このままではこの地域に残る自然と共存する為の先人達の知恵知識が消えて無くなってしまうと思ったから
会社としての規定により
優れた水環境を残したいから
大地と生き物のつながりに魅了されたから
ガイドの仲間が好きだから
勤務先でガイド業務をする必要があったため。
観光業に携わったから
既にガイドになっていた
興味のある初級講座に参加したらジオパークの楽しさにはまって、でもガイドは無理だと認定を受けずにいたが、今年は受けてみようとガイド講座を受講中です。
地域の面白さを伝えたいから
友人がジオ事業に携わっていたから
きっかけは業務として
ガイド不足とのことで認定うけてみたが本業が忙しく仕事が休めずガイドは一度もしたことがない
業務上必要だったため
なりゆき
知識及びガイドに興味があったから
家業を営む上で役に立つと思ったから
知らないことを学べるから

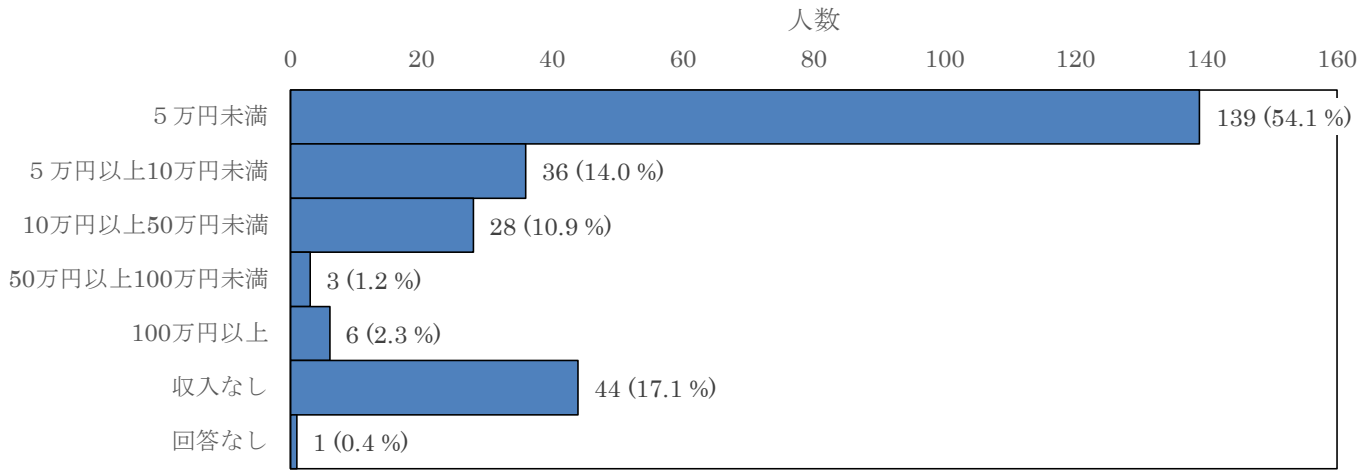
２．平成 30 年（2018 年）４月から平成 31 年（2019 年）３月までの間のガイド実績

（14）ガイド回数（１年間合計）



回答数 257 人

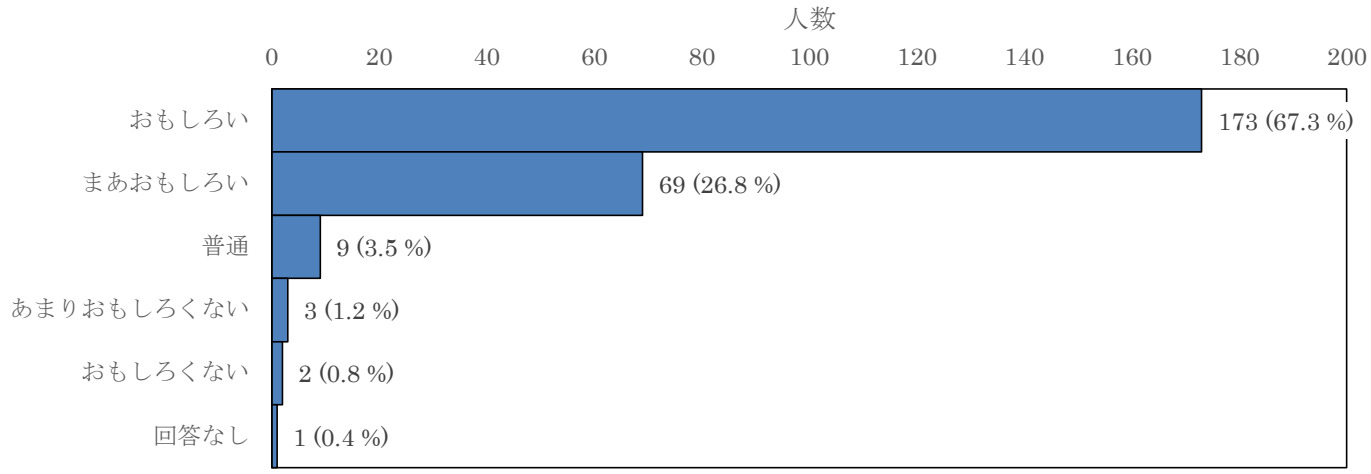
（15）ガイドで得た収入（１年間合計）



回答数 257 人

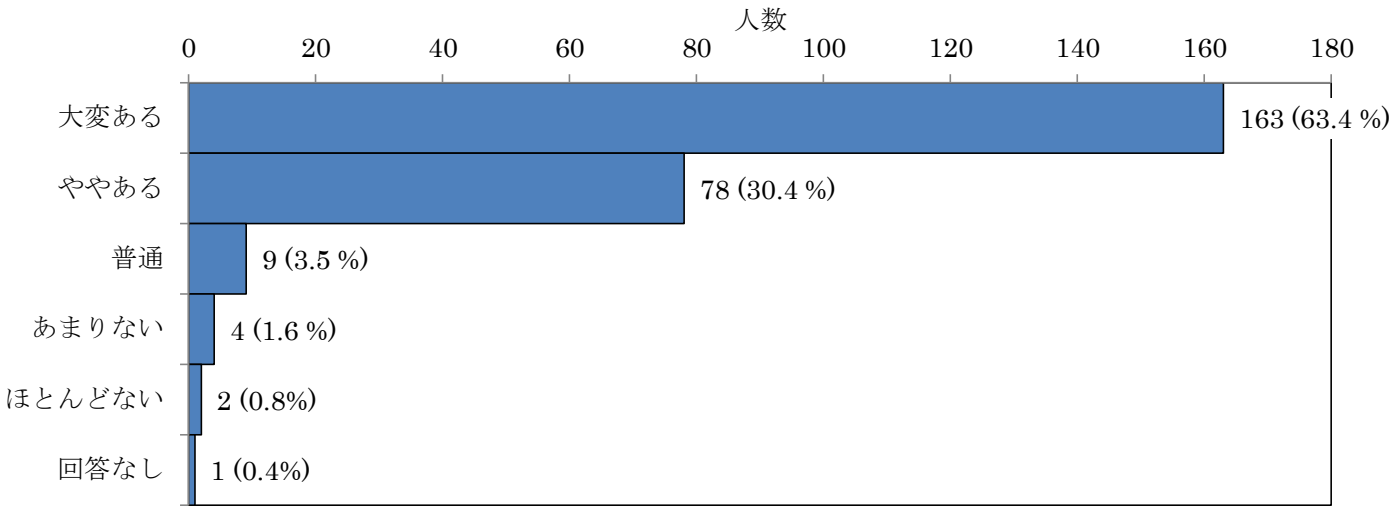
３．ガイド活動をして感じたことや変わったことについて

（16）ガイド活動はおもしろいと感じますか。



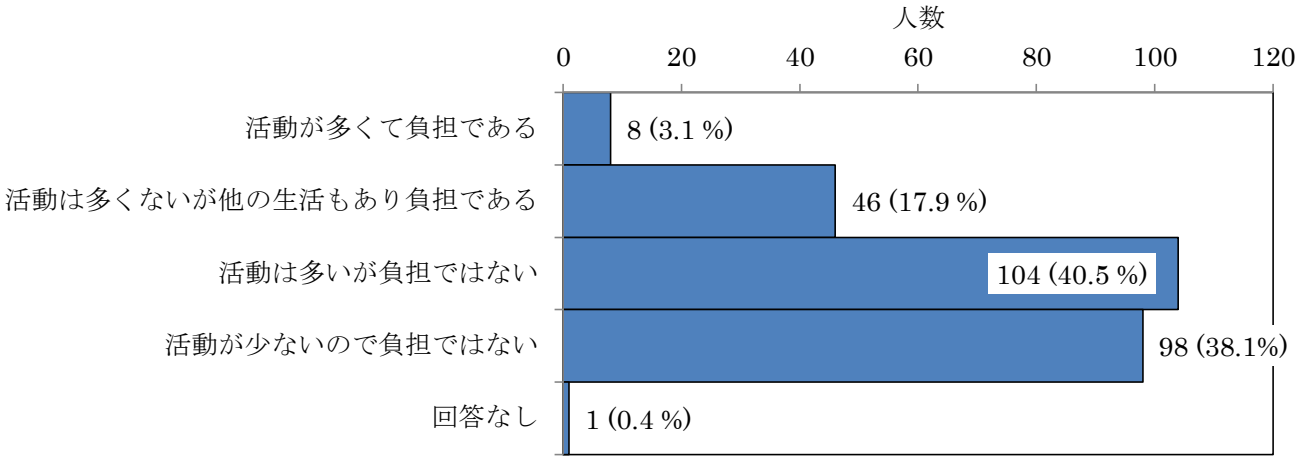
回答数 257 人

（17）ガイド活動はやりがいがあると感じますか。



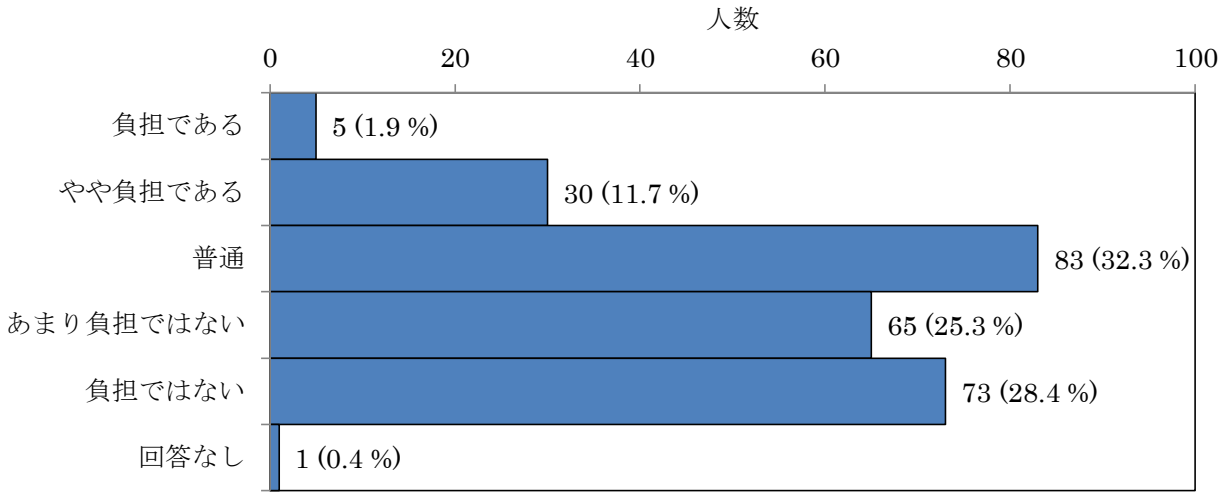
回答数 257 人

(18) ガイド活動は時間・日程的に負担だと感じていますか。



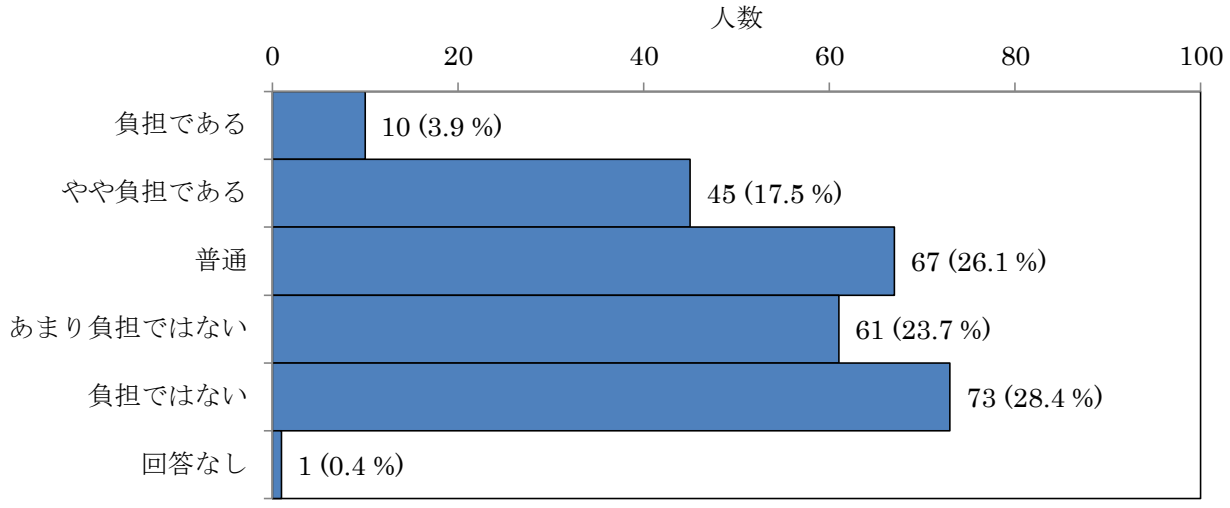
回答数 257 人

(19) ガイド活動は身体的に負担だと感じていますか。



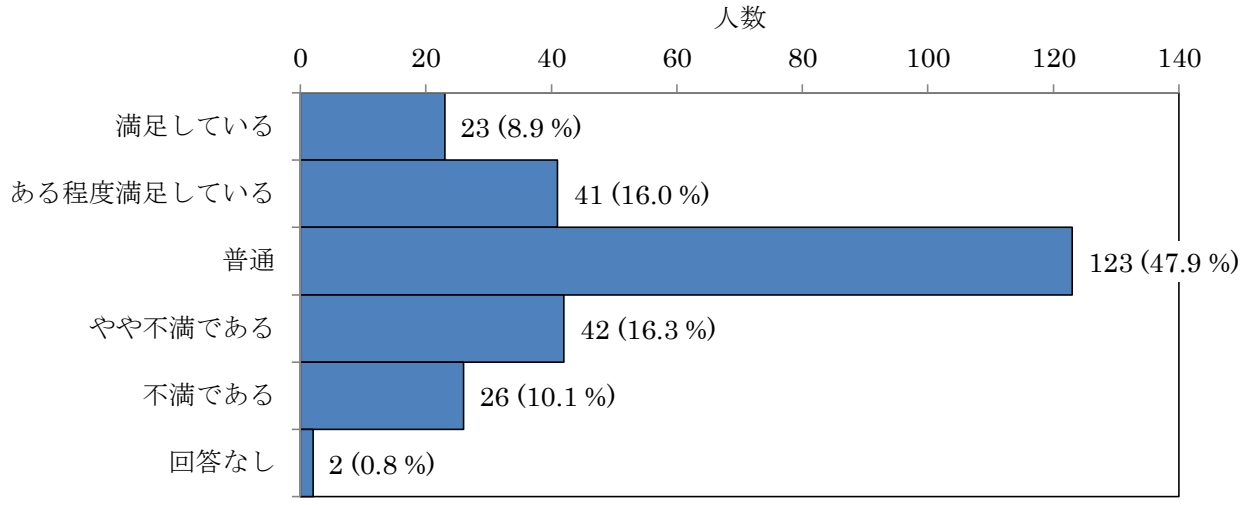
回答数 257 人

(20) ガイド活動は精神的に負担だと感じていますか。



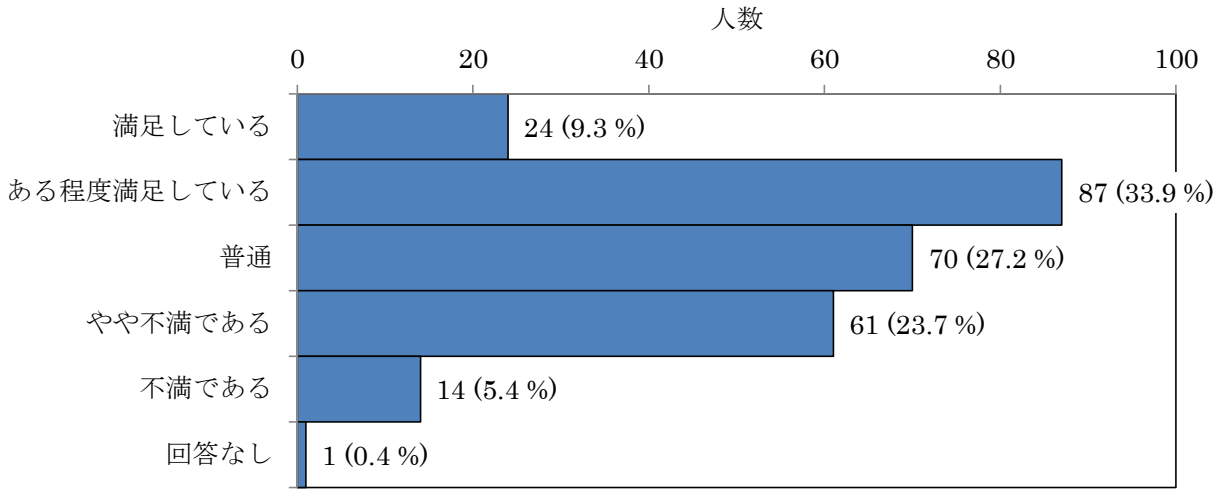
回答数 257 人

(21) 現状のガイド活動は、金銭的に満足できるものですか。



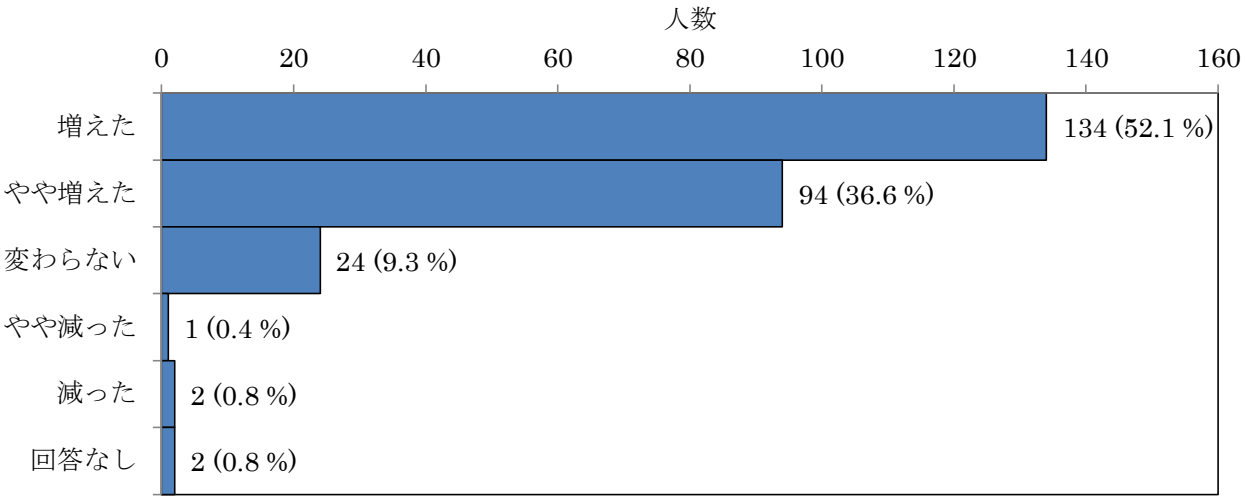
回答数 257 人

(22) 現状ガイド活動をしている条件や環境は、総合的に満足できるものですか。



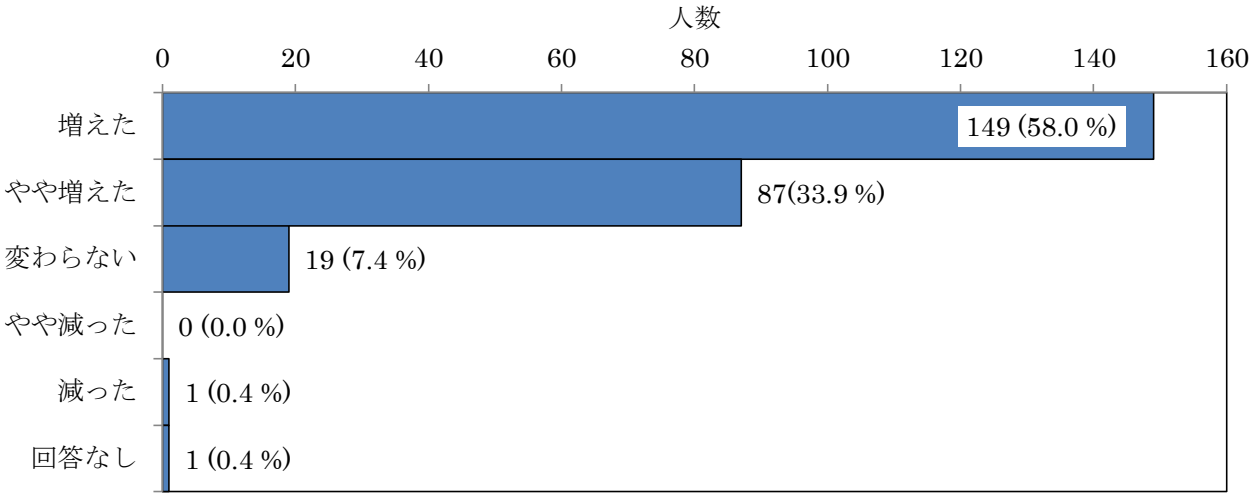
回答数 257 人

(23) ガイド活動を始めてから、ジオパーク関係や、地域の行事・事業への参加は増えましたか。



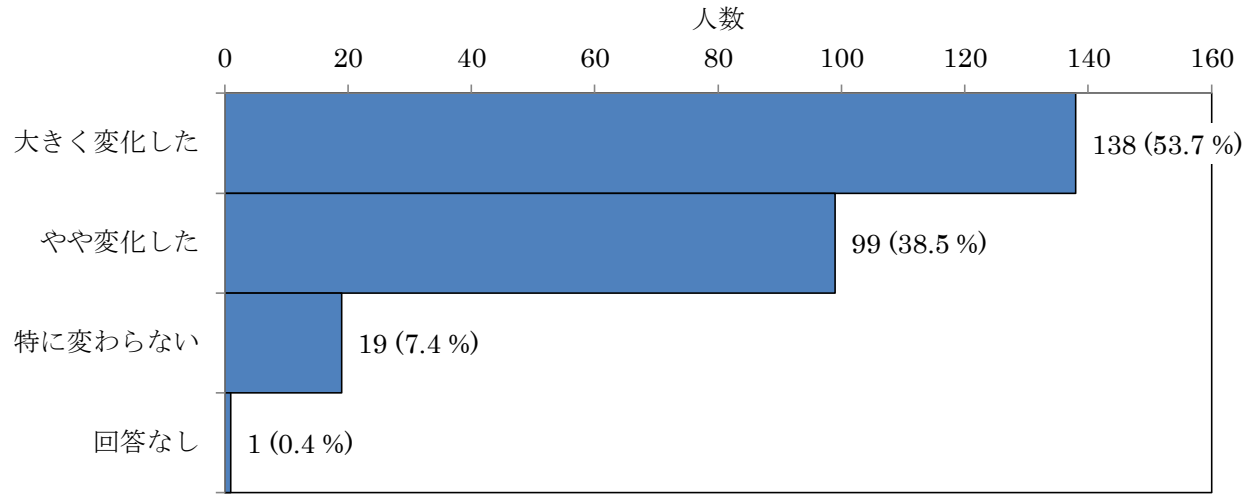
回答数 257 人

(24) ガイド活動を始めてから、人と関わることは増えましたか。



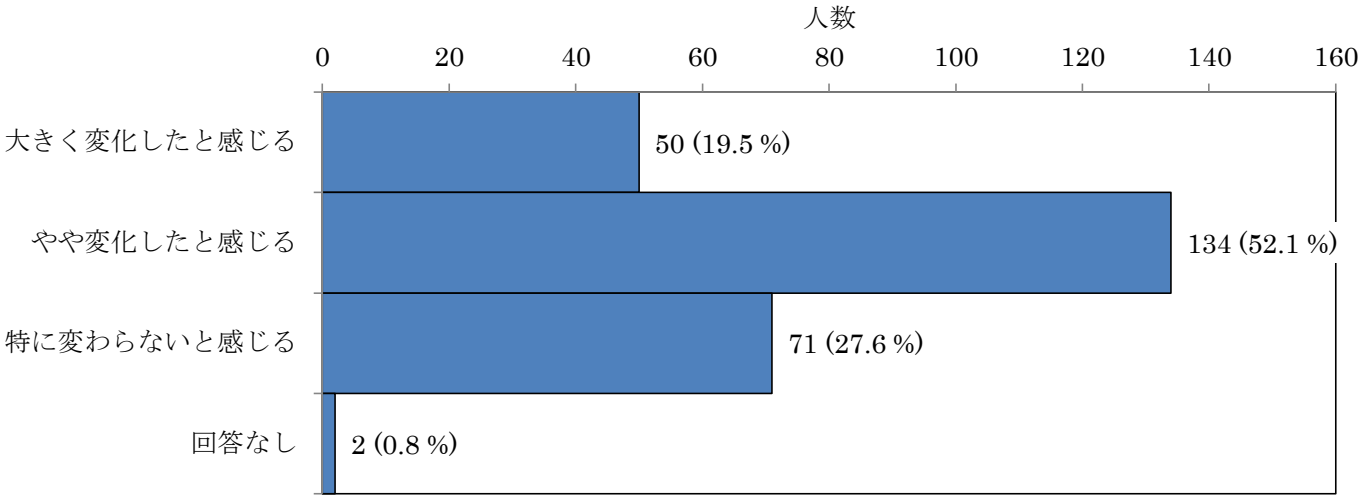
回答数 257 人

(25) ガイド活動を始めてから、あなたが地域を見る目は変化しましたか。



回答数 257 人

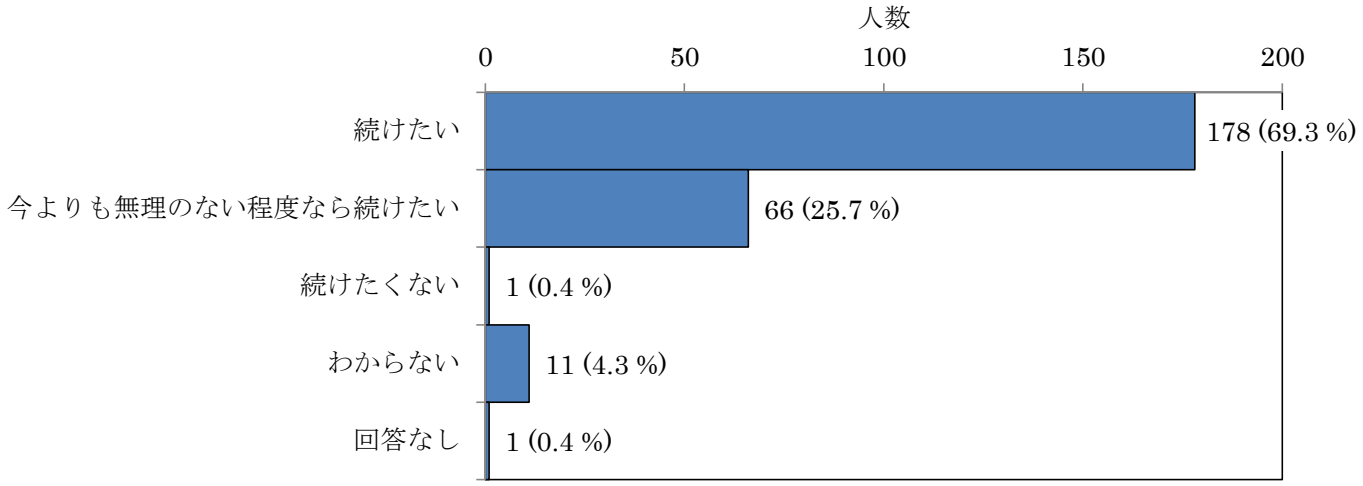
(26) ジオパークに関連する活動が始まってから、ガイドをしていない地域住民の地域を見る目や意識は変化したと感じることはありましたか。



回答数 257 人

４．これからのガイド活動について

（27）これからもガイドを続けたいと思いますか。



回答数 257 人

自由回答式設問

※回答は固有名詞を伏せ、それ以外は原文まま掲載しています。

（28）ジオパークのガイドと一般的な観光ガイドはどのようなところが違うと思いますか。

大地との繋がりを分かりやすく説明するのが、ジオガイドのつとめと思います。
観光ガイドで出来ないような地質や地形の詳しい話をジオガイドには求められていると思う。
観光地でこその存在感のある案内とジオパークに関わる紹介を主とするガイドは、商業的な感覚に違いがあるように思います。
下見が必要。自然が相手。客層によってガイド内容が変わる。よりガイド多様性を感じる。
大地を中心とした地域の成り立ちをガイド内容に入れているところ。
専門的な事を解りやすく伝える。地球の歴史を伝える。他の地域の事を、シームレスに、伝える。
観光ガイドは観光地としてのガイドであり、ジオパークガイドは、ジオパーク多様性、動植物多様性、歴史文化人の多様性の視点にたち解説する必要があるとおもいます。
地質と地域の結び付への関係
地球を感じられるところ
ジオガイドは地球的な視野、地形から来る防災意識が高い
環境、地域の方々の生活内容、動植物の観察の目が違う
ジオガイドは足元から下（地理・地質・大地の成り立ちなども含める。）、大地に育んだ歴史や文化などの説明をするのでレベルが上と認識している。
「一般的な観光ガイド」のイメージが人によって異なると思うので、答えにくいですが、私は、ジオパークのガイドと「観光ガイド」が同じであってもいいと思います。観光ガイドも地域のことを学んで語るのであれば、ジオパークガイドになり得るからです。
人それぞれだから一般論としては言えない
科学的知見に基づいた正確な根拠を持ち合わせ自信を持ってガイドしている点
観光ガイドは観光客向け
体験談や経験を語れる

ジオパークのガイドは、多少の専門性があるが、ボランティアガイド的な感じで、プロのアウトドアガイドと格段の差がある。意識やガイド業で生計を立てているか否かの違いが明確。
理系と文系の違いと答えているが、ジオは学術的科学的に勉強できるところが面白い、また底がないところに堪らなく魅力を感じる。
おぼえた文を一方的に話すのではなくたくさんの引き出しを持っていろんな人に案内すること
感動を伝えることが出来る。
ジオに特化した説明とその工夫
ストーリー性があるかないかですね。
多様な自然事象のバックボーンを見出させる面白さ
あくまでも地域の自然とお客様との係りを外してはいけないのがジオガイドだと思う。
ジオストーリーがあるか否か
正しい知識と自然環境保全を最重点にしていること
ガイドが感動したり気づいたりしたことをガイド（コミュニケション，双方会話を楽しみ）し，「これからどうしますか，どういう生活をしますか」と問うところ。
観光ガイドとの違いは？わからない☹
それぞれのジオパークの特徴があろうかと思いますが、地質とか地形が主になりがちだと思います。今後、ジオパークのガイドにしても、観光ガイドにしても、来訪者の切実な課題の解決につながるガイド（生態学的、哲学的なガイド）が必要とされてくるのではないかと、個人的には思っています。
基本的に異なる点は無いと思う。お金を頂いて楽しんでもらうという基本的な部分は同じ。
担当する地域・観光地だけでなく、他の地域を含めた地球全体の価値ある部分を同等に扱いガイドすべきなところ
地球の成り立ちや地形からの関わりなどを紹介できること

その場所の説明のみならず、成り立ち、歴史、文化、生活、環境等全てに繋がった理解が必要なので、難しい。
目的が行楽ではなく視野の拡大であること
ジオパークのガイドはビジネスになる可能性がある
専門知識を持つプロであるところ
視点、スケール、価値観が違う。
専門性のレベル差
自然に関する内容が増える。
ユネスコに基づく基本理念を元に幅の広い知識と自然体験を通してお客様にガイド料に見合うガイドを行う事！
観光ガイドがいないので違いがわからない。
景色や事物の説明に終わらず、人々が生かされている足元の大地と実は密接に関係していることを知ってもらうこと。
大地の成り立ちと歴史、文化、生活、環境の関わりなどをガイドをし、「学び」や「気づき」を提供できること。
地球科学的要素が加わる
物見遊山的な観光地巡りではなく、今、立っている、見ている、生活している基盤を知ることで深みの増した案内が出来る
地質地層のガイド
自然に親しみながら参加者との一体感
地域の特性を大地（地形、地質、成り立ち）、自然、気候など、なぜ今の私たちの生活がなりたっているか、なぜなぜを解き明かしながらお話を進める点でしょうか
ジオと人との関係付けを重点にしている
大地の成り立ち、どうして景観ができたかを伝えられること。

時間軸のピンポイントだけを解説する観光ではなく、地球の成り立ちから感じることができるのがジオガイド
科学的根拠があるか無いか
GGN を基にする活動なのでインバウンドのお客様への説明書き楽。
体験や実感を伴って、自然と人間のつながりを理解することができるところ
地質遺産など理系的な話ができるかどうか？
大地の成り立ちとの関係で街並みや史跡をご案内する
地形や地質などジオパークの要件に特化している点。
地球の成り立ちや地層、岩石の種類など非日常的なため難しい。納得できるガイドは難しい
観光だけでなく、教育やまちづくり、防災に関わるのがジオガイド
ジオパークは地質、文化的に専門的な内容で行うのであり、来訪者の学習レベルを認識し、意識して対応できるような、より高度な資質が必要になる。
一般的な観光ガイドはどういうことを意味しているのか不明
ジオパークに関する　専門的な知識が必要である
成り立ちや名称の説明だけでなく、それによって生活や歴史とどうかかわっているか迄理にかなった説明をしていける。
地域の地質や自然環境の知識が求められる。
存続可能な環境へのかかわり方を訴える面があること。地域の住民への尊敬を感じ、ガイドの中で啓蒙する点。
ストーリー性を持つことと、幅広い分野の情報をどう結びられるか
地球規模の説明が出来、その証拠物も観て頂ける。
地形、地質、大地の成り立ちから食や風景を語れることで、より深くその風景の魅力を伝えることができる点。
ジオ（地球）の観点での説明ができる点が違う

ガイドが山の名前だけ紹介するのに比べ山の成り立ちなどを解説できる。
現状では、ジオパーク・ネイチャー・観光ガイドの明確な区分は内容に感じる。本来は分業や棲み分け、利用内容によって専門的に提供できたらいいと思う。
地球科学の説明
地域の歴史と人々の関わりなどを科学的根拠に裏付けられた平易な言葉で、楽しく分かりやすく説明するところ。
地形や地質など地球の成り立ちなども話す
視野が広い
地域に特化したガイドが出来る
楽しんでいただくことは当然として、その土地の理解等の知的好奇心も満足させること。
ガイド者がジオ知識をもってガイドしているか、否かにかかっているのでは・・・
知識量
単に知識や歴史的事実を伝えるのではなく、現地ならではの体験やさまざまな工夫を通して楽しんで頂くところ。
単なる名所旧跡の説明でなく、地域の成り立ちや暮らし・歴史を理解してもらうようにするところが大きく違う。
地形・地質のおもしろさを観光案内に重ねて解説すること
一般ガイドは、一方的に聞かされる感じだが、ジオは納得がいくというか、感じることができると思う。
地球をもとにして、話をする。 大地に生かされていることを意識してガイドをします。
話題の時間単位が億年に及ぶ点。災害にかかわる話題が多い。
専門性
ジオパークのガイドには、伝えたいメッセージがある。ストーリーがある。聞き手と関係がある話をする。大地のことを楽しく伝えている、といった違いがあります。

学術的な知識が欠かせない
観光ガイドは、地域の 歴史や景色、景観など案内すが、ジオガイドは、そこに暮らす人々との係わり 、大地や山などの成り立ちを含め地球のストーリーを自分の言葉で案内する
人間ではなく地球の生業を基本としていること
観光ガイドでは、その成り立ちまでの説明が少なく、「ああそうだったのか」という納得感が得られない。ジオパークガイドであれば、景観美はもちろん、その成り立ちを説明し、その「見え方が変わる」ガイドができる。
地質や環境を含む専門性と地域ﾊｻﾞｰﾄﾞマップをベースとする地域安全推進の推進
ジオエコヒトとの関わり
ジオ的な要素を必ず入れること。
知識を出すところ
地形・地質と歴史・文化の繋がり、関係を説明できる
大地の成り立ちを、ストーリーで面白く解説する。
職業かどうか
物見遊山としての観光を担うガイドＶＳ大地に学ぶ観光への導き手。
自分で調べて、理解し訪れた人に、説明する事。
専門的な知識
地元の人たちとの繋がり
地球の活動が理解していること
特に違いは感じない
ジオパークツアーはある意味、ともに考え知的欲求を満たすことを楽しみとしていただく部分が必要である。
地球の成り立ちから地域の歴史、文化、産業と、人々の暮らしそのものが「ジオ」であるという意識でガイド活動をしている。
土地の成り立ちを説明する

観光資源が無くてもお客さん満足感を与えることができる。
歴史や文化などは観光ガイドでも取り入れているので、これに地質や、地形、生物、植物などの説明を組み合わせるところ。
風光明媚な箇所の紹介と地域社会の地形-地質、歴史を紹介
地質学的な要素がある、ストーリー・メッセージを意識する
地質や地形など大地の成り立ちを知れるところ
宇宙、地球誕生から現代までを意識した、化石、地層、歴史、文化などの説明が必要なのがジオガイドです。観光は景観、食、遊び、余暇利用などが主目的となります。
参加者(お客様)とガイドか共に学び、その機会を通じて高まりあうこと
専門的な知識を持って解説をしなければならないこと
スポットを訪れたお客様の何気ない疑問が、その地域や日本列島という場所の特色につながる部分
知識が濃い
客層にもよるが、ジオガイドの場合はその場所の自然（ジオ関係)について、より詳しく多くの説明を要している。
偏見かもしれないが，来た人に一方向的な案内や紹介をするのが観光ガイド，情報を提供しながらその場所についてあれこれ一緒に考えるのがジオガイド
その時だけ楽しいと感じさせるのではなく、別のジオパークやジオサイトに行ってみたいと感じてもらうこと。
当地区のガイドは（弊社の商品も含め）すべてがジオパークに繋がっているので（これまでガイドしてきた事が実は全てジオパークに関係する事だった）一般的な観光ガイドとの違いといってもよく解らない
ジオは自分達が立っている「大地」、その成り立ちも関わる地域、産業（仕事）、そして文化、歴史など関連する事柄、全ての源泉、基盤だと思う。ジオガイドはそれらの中から関連する事を選んで会話しながら守り伝える役割を果たしている。観光ガイドは見える名所旧跡を案内するが、参加者が「見えない事項」を想像し、見えてくようお手伝いは出来ない。
生活に密着した話が出来てる

インタープリテーションなどをとりいれているところ。
一般的な通説をガイドするので無く、その地域の状況を学術的に掘り下げ論理的に解説する。
地質地形があるからこその文化歴史がそこに存在することを表現できる。
知識がないとできないジオパークガイド
収入は二の次、ジオを知ってもらうのが主眼と思う
お客様に意外な発見や気づきの機会をつくることには、大きな変わりはない。しかし、ジオパークのガイドは、ジオパーク活動についての理解が必要。
地質地形面で専門性があるところ。
自然とのふれあい
その地域の成り立ちを押さえておくところ。
つながりを説明するところ
不確かなことは語らない
地球が誕生してから現在までの大地と人との関わりを体感できる説明が出来るところが違うと思う
ジオパークの方が生活にかかわっているように感じるし奥が深く魅力があります
専門的な知識
同じ内容を繰り返すのではなく、その都度対象のジオパークの変化を伝えるところ
子ども達に夢を与え、防災意識が自然に身に付くところ。
地形・地質の成り立ちと観光・歴史を結び付けて案内ができる。
単なる観光案内ではなく、体験型フィールドツアーのガイド。
ただ案内するだけではない事。
防災対策などをガイドに盛り込むことが多い
生物も人の暮らしも防災も歴史文化も全てジオで繋がるところが面白い。広がりがあり、毎回違う物語が楽しめるところ

その土地（大地）の事を意識して、話しているのが違う。
大地と関連させながら、地域の見える事を話していくことがジオパーク・ガイドとおもっています。
ジオは宇宙と人類の誕生まで話すので奥が深い。
通り一遍のガイドでなくてジオに関する知識、防災、教育などすべてリンクしてガイドするよう意識してる。ただ相手によってガイドのしかたも変わる。
その土地や地域のの成り立ちとのかかわりを入れて説明する
有名だから案内するのではなく、地球との関わり方が面白いから案内する
ジオガイドは自然と地域のつながり・台地からの恵を詳しくお知らせることが出来る
より広い”つながり”をメッセージにしている。SDGｓにつながるテーマをもつ。
地域の大地の成り立ちを説明しているか
地球創生の歴史の知識が必要
観光客の目線を変える事が出来る。地域の特異性を紹介し易いと思います。
地形地質から文化、歴史までストーリーを重視する点
殊更差別化をする必要はない親しみやすく
見た目だけでなく、どのようにして、その見た目変化していったかを説明出来ること。
ジオー自然、エコー文化、歴史の繋がりを意識したガイドであるところ
お客さんに楽しくジオパークのストリーを伝えたり、語ったりすること。
地域の地質文化を　大切にしながら　解説する点
相互コミュニケーション
あまり違わないが、ジオの場合は相手もジオガイドとしての話が聞けると思っていると思うので、そこは外さないようにしている
地域の地質地形・環境と、歴史・文化や暮らし、産業がどのようにかかわっているかに重点を置き解説するところ

ジオパークは地域の成り立ち・歴史について、メインに話をする事が特徴だと思う。
地質、植生、歴史、文化など広く深く学んでいないとできないのかジオガイドだと思う。それをわかりやすく説明するために学んだことをさらにかみ砕いていく作業が必要なのもジオガイドの特徴だと思う。
ある程度学問的(地質学、宇宙科学等）知識が必要だし、それらの知識を一般的な観光面での魅力を補強できる。
一般的なガイドは、お客様に楽しんでいただく・・というのが目的ですが、ジオガイドは、専門的な話を聞きに、または見にくるお客様ばかりなので、専門性が求められると思います。
現状でも、その境目はないのですが、地質に関する事などが、明確に違います。聞かれたら答えれれる準備が必要です。
地質遺産を通し、大地の不思議、人とのかかわりについても学び、楽しんでもらう。
違う所はない
お金が絡むところ
地質や地形、自然や伝承文化、地域食など五感に伝えることが出来る。自然災害や防災にも貢献した対応が出来る。
観光ガイド（街歩きなど）より地域的に広い地区を広い観点から紹介できる。
観光ガイドは道案内・観光地案内に過ぎない。ジオは地域を知り、理解してもらい、魅力を感じてもらうこと。
可能な限りのインタープリテイション、ストーリーのある案内
自分の住んでいる地域が大きな大地のうねりの上に成り立っている事を伝えることができること
教育的要素が強い
教育的要素が強い
勉強会のようなところ
ゲストが地理的な話題に興味がありそうなときは積極的にジオパークの話題をふるようにしている。ジオの話題も観光ガイドの一部だと考えている。

特にない
一般的な観光業としてのガイドが成り立たない地域でも存在することができ、観光地でない場所でも成立し、地域の魅力を伝える活動ができる点。
地域の自然の成り立ちを伝えられる。自然と自分（お客様）の関わりを伝えられる。
ジオの理念に基づく活動を自ら実践しているところ。
観光ガイドは、物見遊山の範囲内で、観光客が楽しめればよい。ジオパークのガイドは、相手が地質等に関してもう少し知りたいと思う、きっかけを提供できたら良いと思います。
地域の事だけでなく、日本全体、世界との関わりや地球や自然環境とのかかわりをお客様と一緒に学び考え、過去（地層、化石、災害、地域の歴史）を知りこれからの事を考えるきっかけを作る
ジオパークガイドはストーリーを考えていて、物事を関連付けた解説を行う
大地の来歴と人・生物の在り方の繋がりを意識している点。環境の保全に対する意識。
お客に考えるポイント（地形、風景、生物、植物、風土、文化）を提供できる
ジオパークをツールとして活用することで、地域全体を伝えることができる
ジオパークをガイドすることと、一般的な観光地をガイドすることに違いがあると感じたことがなかったので、回答が必須みたいですがノーコメントとさせてもらいます。
解説より見て、感じて、発見することができる
（その土地の）大地の成り立ちを踏まえた解説を意識している事
インタープリテーションの TORE 理論を活用している。ガイドストーリーがある。
ジオが地域・産業に与えた点を強く意識した解説をジオパークのガイドではしている。
観光地として整備されたところをガイドし、多くの知識を伝える一般のガイドとジオガイドは違うと思います。
一般的な観光ガイドは断片的な知識を伝えるだけの単なる道先案内人、ジオパークガイドは総合的な知識とつながりを見せるインタープリターの様な役割。案内する対照者も観光、教育、学術専門家とジオパークガイドの方がかなり広く扱っている。

お客様に私達の住む地形地質を楽しんでいただくだけではなく、そこから自然災害や防災に気づいていただく、教育普及の役割を有していること。
ジオストーリーがある
基本的に違うのはジオの内容が地質から始まって、文化・歴史に関することまで引き出しが必要であるということ。引き出しを全部出す必要はないが、知っておく必要があると思う。観光ガイドは話す内容が決まってしまっている感じがする。
地質や歴史、地域の特性を掘り下げて話す事
専門的知識が必然
防災や学術的な面白さのアピール
視点　ある対象について説明するときにジオパーク的視点、あじつけができる
地形、地質など地学が必要
表面的な解説の観光ガイドとは違い、ジオガイドは自然と人々のつながりを楽しく、わかりやすく案内できるところ。 具体的には、地質や地形・地域の自然環境・生態系・歴史・民俗・文化などあらゆるツールを使って、ジオパークの素晴らしさを伝えたり、防災に繋げていけるところなども、観光ガイドとの違いだと思っています。
ジオパークとしての由縁である地質学的裏付けや地球規模の視点から地域の魅力を語ること。
大地、自然のなりたちや防災歴史、文化とを、からめて、自然と暮らしを、考えてもらう機会に、なるようなガイドを、するところ。
専門的知識が必用
専門的な知識
地域のガイドでなくては知らないことがある。
そこにある風景や生活が、どんな地学的な成り立ちや、理由の上にあるのか、ストーリーを持って説明できる点
地域の成り立ち、人々の暮らしとの関連などを加味してガイドする事

ジオパークガイドは、地球・地形・地質の成り立ちと人間の暮らしをストーリー性を持ってガイドすること。観光ガイドはストーリー性が無い？
大地の話を必ず取り入れるが、その他は大きくは変わらない
目に見えない部分の歴史（自然・人等）を意識しながら紹介するところ
お客様を楽しませる意味で変わらない
ジオ的要素が不可欠である点
地形の成り立ち、地質、動植物の生息、歴史文化など内容が広くかつ深い案内になっている。
大地の成り立ちや風土を知っていただくことで、お客様に充実感や幸せを感じて頂くのがジオガイドの仕事である。ジオガイドは、お客様が地域の活動（経済含む）に参加する手助けができる。しかもそれは、お客様の want（欲しい気持ち）を満たすものである。 観光ガイドは、ツアー商品として組み込まれたコースの中で関わる商業施設しかお客様に提供できない。
地質地理についての知識がある。
ジオのガイドはジオが中心になりますが、一般的なガイドの時もジオに関係する話は入れる。
科学的・歴史的な事実をまず正確にわかりやすく一般の方に伝えることがいりばん重要で、単なる面白おかしければいいということではない。「ジオツアーは楽しくなければ」とはよく言われるが、何を楽しいと思うかは人それぞれ。
お客様が目で見てわかるように、地形や地名のゆらい昔話を入れて地域に密着した生活感のある説明を。特にしない３ヶ所ある国指定無形民俗文化財のお祭りなどは、わかりやすくストリー的に話す。
ジオパークの中心的な大地の説明
地形、気候、海流等が人々の暮らしと、どの様にかかわり、利用され又、保護されているかが重要である事。
風光明媚な場所の地形や地質を知識として自分の中にあるかどうか？とその背景から観られる文化・歴史について説明出来るかどうかの違いだと思う
地球と日本の成り立ちを説明できること。
当地では違うと思わない。

ジオパークガイドは少し専門的に所はあるが基本的にはお客様のニーズに合った、分かりやすいガイドが良いと思います。
両方やっていますが、あまり区別しているとは思っていません。ジオパークでは、どこから生まれどんな地形を造ってきた火山の災害と火山の恵み等が中心になり、食文化、歴史等を中心に観光ガイドはなっているカナァ・・・と思いますがほとんど案内の中には両方入れています。一般ガイドに比べると少～しかたい話になるかもしれません。それをやわらかく伝える努力はしてます。
ジオパークガイドー地質、火山等と歴史・文化の結びつき　観光ガイドー見た目重視、きれい、楽しいなど　但し、現実のガイドでは（観光もジオも）観光ガイドをしているときもジオの要素を含めたガイドにつとめている。
ジオガイドの説明は地質の成り立ちを文化・歴史とむすびつける点がおもしろい
現在の状態、状況の説明だけでなく、因果関係や成り立ち等について、考えてもらい、説明をする。お客様が、発見したり、考えたりすることを大切にする。
ジオを意識したガイドは、大地（地形、地質等）が中心になるが、観光ガイドは、歴史、文化、風土、習慣、環境（人的・自然）、異文化等を通して、おもてなしの心（人と人の関わり、人と物の関わり、人と自然との関わり）が大切。
・筋書きのとおりに一方的に話すのではない。　・（お客様の顔を見て）興味を示していることを探しながら、目から鱗の話題を提供。　・気の置けない人と旅を楽しんでいただけるよう心がける。
ジオパークガイドはテーマを絞って組み立てて、ガイドが出来るし、これをしないとジオパークガイドとは言えない
地学や地球環境に対する問題意識が問われる。
イメージとして①ジオパークガイド：理系、ハンドメイド　②観光ガイド：文系、マスプロ（学ぶ点は多い）
地質、地形の形成とそれによって成り立つ産業・歴史文化等の話と、その地域の景観、特産物の説明のちがい。
専門知識を持ち質問されたら答えれる事が大事としている。目に見える所の説明をする。
ジオパークとしてガイドをしてほしい要望はほとんどない。

・大きな違いは無い　・時間を守り、安全には特に配慮　・地理、地形、地層から気候変動の変遷からの成り立ちから災害に立ち向かう心がまえを折り込んで
基本的には違わない。そのフィールドのことを伝え楽しんでいただくということでは同 じです。人を案内するために、自分が素材として知るべき内容（ガイドネタ）は同じであり、ジ オガイドだから地形地質だけ、観光ガイドだからその場所のことだけ知っていればよい というわけではないです。お客様の興味は様々。いろいろなことを質問されます。 ただ、ジオガイドとして依頼される場合は、ジオパークについて詳しく案内しますが、 一般的な観光ガイドとしての依頼の時は、ジオ的な話はさりげなく伝えます。
地域・日本列島の大地の成立ちを基本としながら、ガイド活動エリアの特性やジオパークエリア=地域社会の持続可能性を考えながら、ジオパーク活動を進めています。 繰り返す大地震･津波災害を幾度も経験しながら、この地に根差してきた人々の生業や歴史・文化・芸能・食・産業など、地域の持つ特性と震災の教訓を内外に伝え、ジオパークエリア住民の共通意識醸成に努めてゆきたいところです。観光系ガイドさんの場合、行政や公的団体の枠組み内の活動が多く、一般に知識の披露を競い合うような傾向が多いのでは？また観光客数を増やすことに眼が行く傾向があり時間内の観光対応客数に力点があったり、地域社会の特性や持続可能性などのバランスを欠いた視点が見られる？行政も、観光ボランティアや行政系臨時職員などコストの安さで活用する場合が多く、地域経済を盛りあげにつながらない場合が多い。
・主に自然景観の由来、その恵みや人々の生活が伝わるような説明をするところ。 動植物・環境・歴史文化・産業・防災など案内の切り口が多面的かつ行動的なイメー ジがジオパークガイドには伴うところ。
日本列島の成り立ちから関連付けてガイドをするので名所旧跡案内のガイドとは少し違うと思う　歴史においても地形等が関係していることを定義づけてガイドをしている
大地の成り立ちとすべてのものがつながっていることを説明するところ
単なる観光（ビュー）スポットとして見るのではなく、地形・地質の上に、人がどんな歴史をきざみ、今どんな生活をしているか意識してガイドする点。
大地の成り立ちや地球レベルの話をする所は違いがあると思います。
地質的な要素を多めに話すところ。
・地球の住民の生活、文化、生態系についての知識を織りまぜて説明する点。　・リスクマネジメントについての知識を十分に備えている点。

ジオパークガイドとは、大地の成り立ちからどの様な風土が文化が生まれたか、又人間はそれをどの様に生活に取り入れてきたのかを伝える人のことと思います。観光ガイドとは、旅行先の地理、歴史、文化、産業等に深い知識を持って案内、説明する人のことと思います。

（29）自分自身について、ガイド活動をするうえでもっとこうしたい、こうなりたいと思っていることはなんですか。

地域の魅力を発見し、それを優しく伝えるのがジオガイドのつとめと思います。
次も又ガイドを依頼されるようなガイドさんになりたい。
広く浅く！の知識から広く深く専門的な知識を持てるようになる。 もっと自身が経験体験を積んで、自身の話しとして案内できるガイドを目指したい。
お客とのキャッチボール。もっと精確な知識の習得。楽しいガイド
お客さんとともに楽しみながら、終了後リピートしてみたいと思って帰っていただくこと
楽しく伝える。地域に興味を持つように伝える。ジオパークだけでなく、環境教育や、体験を伝える。
当ジオパークを訪れて頂いた方々に、ジオパークを楽しんで頂きたいと思います。さらに、ジオパークに興味をもち全国のジオパークを訪れていただけたらとおもいます。 人が人を感動させることが出来るガイドを目指したいと思います。より知識を研鑽するとともに、素敵なおもてなしができたらとおもいます。 以上のことすべてがまちおこしににつながればと、頑張りたいと思います。
お客様の目線で解説
世界中の人にガイドができるようになる
人を引き付ける会話力の向上
体力が落ちてきており若い人に活動を進めたい
自然の凄さや感動をいかに伝えるか。そして、喜んでもらえてリピーターに繋げること。
トライアンドエラーを繰り返し、より満足度の高い案内ができるようにスキルアップを続ける姿勢を持ち続けたい。
安全に関する調査と啓蒙活動
年収２００万円以上、年１００回以上、で商売として成り立つこと
広い分野の引き出しがほしい
子どもには貴重な体験と人生のいじめ対策（ヒグマを例にとって）

仲間を増やしたい。従業員を増やしたい。
もっとフリーにガイドしたい
伝えたいことと伝わることの違いを出来るだけなくすよう工夫を凝らし努力していきたいと思います
引き出しをたくさん持って、瞬時に取り出せる脳力。
語学力と知識の習得
みんなを引き付ける話術を磨きたい。
インタープリテーションの力量アップ
まだまだ知識が不足しているので勉強していきたい。
後継者を育てること
これからガイドをしようとしている若手にこれまでに得た経験と知識を伝えていく立場を踏まえた活動にしたい
1　少人数で，ゆっくりと歩きガイドとお客さんが会話を楽しむ中で，互いに刺激を与え合うようなガイドをしたい。 2　その時の状況（客層，天候等）に応じた，ガイド計画に基づくガイドをするようになりたい
お客様に興味を抱いてもらい又、来てみたいという気持ちになって貰えればが一番かな
来訪者が、何を求めて訪れたのか、話しやすいガイドになりたいと思っています。
英語が話せるようになりたい。
自分のジオパーク（地域の自然歴史文化）のことだけでなく、地球科学と世界全体のことを俯瞰できるような豊富な知識を持ちたい。
○○さんがいるから来たいと思ってもらえるガイドになりたい
ガイドを続けていくなら、もっともっと勉強が必要だと思う。
心に残るガイディング
お客様に求められるガイドになりたい
誰にでもわかりやすく

ゲストの知的好奇心にすべてこたえられる、ゲストに楽しかったと満足してもらえるガイドになりたい
表現力　インターラクション能力を磨く
ガイドの社会定期地位と収入の向上。
お客様を楽しませるためにはガイドかガイド活動が楽しく行い共に良い時間を共有できる事！
話術をもっと身につけた
小学生など子供たちの興味を引き立てることができるようになること。
専門的な知識を学ぶ。お客さんに楽しんでいただける手法を身に着ける。地域住民や関係機関の人達と一丸となって活動できるようにする。
ジオ要素の観光ガイドへの反映
ジオパークを認識してもらうことは、難しく、固く説明するのではなく、かみ砕いて柔らかく説明し、興味や感動を持って頂くよう工夫したい
知識の習得
知識習得によるガイド幅の拡充
お客様に興味を持って戴けるよう、体験コーナー、クイズ、の工夫が出来ないか。 パワーポイントを使えるようになって面白いファイルを作れるようになりたい。
知識の習得と話術の冴え
地元の良さを伝えること、また、訪れて頂ける事
仕事を持っており、パートタイムの仕事をしているわけでは無いので、第一の活動としていないので、もう少し活動に加わりたい。しかし、専門職であるので、また定年が無いので仕事を辞めない限り無理だ。
地域のファンを作り増やしたい
もっと深く知識を身に着けた上でもっと平易にお客様ごとの希望に合致した形で説明ができるよう精進したい。
基礎知識からレクチャーのレベルまで全体的にレベルアップしたい。

ない
ガイドのための小道具を増やしたい
特になし。
しっかり勉強して聞く市とを満足させなくてはならない
全国的に有名になって私を目的にジオパークに訪れる人が増えるといいなあ
高齢になってきた。いつまでも歩いてガイドが出来ように健康でいたい。
特にない
内容を理解しやすいように、ガイドを行う
知ることでそれまでぼーっと見ていた景色がいかに素晴らしい地球の活動によって形成されたか伝えたい。
地域の歴史や文化、大地の成り立ちなどに関する知見を深めることと、それを伝える話術を高めること
がいこくの方にもガイドできるスキルを身に着けたい。他のジオパークの活動を実際に見る経験を積みたいので、他のジオパーク訪問をしたい。地元のお年寄りの話をもっと聞き、先人の努力に関する理解を深めたい。学校教育活動にも関わりたい。
観光客がリピーターとして、この地を訪問できるようにしたい。
地球や、日本１列島は極めて貴重で、存在が稀有な星故の、取組みの重要性。
ガイドしている場所の大地の成り立ち、地形地質について幅広く正確に理解して、もっとわかりやすく伝えられるようになりたい。
ゲストの興味の応じたジオガイドが出来ること
もっと地域のことや石のことを知りたい。バリエーションを増やしたい。
ガイドというよりも、堅苦しくない気安く活用して貰えるような解説員や自然・環境・ジオ紹介人になりたい。
エンターテイメント的なツアーの演出、そのために正しいジオ知識の習得をする
地学の知識と歴史・文化を融合させた説明のできるガイド。

地域のことをもっと勉強したい
住み着いている地球のことを考えてもらえる
ゲストの要望を察知して楽しい時間を共有したい
全般的な知識を深めたい。
お客様を飽きさせない話術を磨きたい
地域に役立ちたい。
いくつかの分野の知識面でもっと基礎的な部分を押さえられるよう勉強したい。
地質や地学の知識をもう少し身につけたい。
よどみなく流れるような案内（観光バスガイドのように）。無理ですが・・・
じょうずに、話せる、伝える、感じてもらうことができ、喜んでもらうことができたらいいなと思う。
パソコン操作が追い付いていけてない。
多言語への対応。県をまたがって広い範囲での活動。
ジオストーリーの再構築ができるようになりたい
自然の保全や、生き物に対して優しくすることを伝えることができるといいなと思います。
太古からの風景を相手にイメージしてもらうこと
地域の方々から、昔の町の姿や災害、農業の変遷などの話しを聞き、ガイドに役立てたい
お客さんに楽しく伝える技術を学びたい
ジオポイントの点と点の説明ではなく、点と点を線でつなぐ「物語」性をもっと強化したい。
知識もさることながら地域と繋がり・地域を盛り上げるサイトつくりやサイト発掘（地域の活性化）
儲かるガイドになりたい
色々な年齢層や立場の人にガイドしてみたい。
マウントをとらない

地域の魅力の再発見、郷土愛を育む
不得意分野をなくして、聞かれた事は何でも答えられる様になりたい。
緊張したくない
大地と人を大切にするガイドでありたい。
自分の説明に、もっと興味を持って聞いて、もらえるようになりたい。
ジオの面白さを伝えたい。
もっと自由に活動できる体制
平時には自然現象を楽しく伝えられ、災害時は防災リーダーにもなれる
向上心をもって新しい知識・技術の取得しガイドに生かす
知識がとても豊富な先輩に早く近ずけるよう学習したい。
難しい言葉を使わず地域の魅力を伝えていきたい。
植物、鳥、歴史的なものも説明していけたらと思います。
お客さんに楽しんでもらえる工夫、話題・
もう少し、知識を高めたい。
地域社会の成り立ち、そこで暮らす人びとの物語、私の生まれた地域の歴史、特徴。
熱意をもって、押し付けずに
自分の地域だけじゃなく、他地域とのつながりなどにも話をつなげていきたい。
化石、地層などの知識を深めたい。市民に地域を知ってほしい。お客さんに感動を与えられるガイドになりたい。
ガイド機会があれば積極的に参加したい(現状では、自身の仕事や家庭の用事が優先しなければならないため)
地域の特産品や文化を紹介しているので、更に魅力的なPRができるように努めること。 また、それを踏まえて関わっていない地域住民が関心を持ってくれること

ガイド活動を行う地域と他地域・他ジオパークとのつながりをお客様の在住地域に合わせて楽しく紹介できること
勉強が大事
年齢的、体力的に現在のガイド頻度で、まだ余裕があると思っています。 テリトリーにおける大地に関する情報をもっとわかりやすく興味を持って聞いてくださる話術を身につけたい、それにはもっと活動回数を増やしてもいいかなと思っています。
まずは一緒に楽しむこと，あとは押し付けるような真似をしないこと
参加者に応じた話題の提供や、興味関心に合わせたガイドを心掛けたい。
自分がガイドするだけでなくもっとガイド出来る人が増え、底辺が広がるような活動もしていきたい
解り易く伝え、何か一つでも印象に残るように、守り伝えていきたい。
地域の情報を多く取り入れたい
英語でのガイドもできるようになりたい。
ジオパークに関連する地域の専門を要する方との連携を深めたい。
植生など勉強不足の分野の学びを深めたい。
知識を広める
もっと上手になりたい
お客様の人生で印象に残る機会をつくれるガイドになりたい。
参加者の安全管理の向上
身近なジオサイトのガイド
引き出しを増やしていくいくを意識していたい。
より多くの知識を身に付ける
広域で活動できるようになりたい
色々な人の求めていることに対応することができるようになりたい

知識を広く勉強することが大切と思うので頑張りたい
ガイドエリアを増やす
ガイド内容が自身の学んできた内容とは違うため、より勉強し、ガイド対象者に伝えるスキルを身につけたい。
地形と地質と文化と食を繋げたい
英語でのガイドをもう少し流ちょうにしたい。
地域の宝を簡潔にわかりやすく伝えること。
引き込む話術を高めたい。
安全管理と自己の健康管理
これからもたくさんの素敵な出会いを楽しんでいきたい。人とも生き物とも地球とも。また、生の火山を歩いているので、火山噴火で死なないようにしたい（笑）災害が起こると収入が激減すると思うが、その時にしっかり起こっていることを見ようと思えるほどの被害であると良いと願っている。
地域の良さを広めたい。
当ジオパークのすばらしいところを、皆様にお伝えしたい。
お客さんの住んでる所のジオを事前に調べて当地と関連付けて話したい。
もっとひきつけるような話術、年代客層によって変えられるガイドの知識。
どのレベルの参加者にも対応できるガイド。多言語を習得し、外国人にすらすら説明できるガイド。
外国語でガイドする
お客様に関心をもってもらえるガイドの仕方。
明るい未来を感じさせられるガイド
お客様が知りたいことを会話の中から読み取り応えること
もっと勉強しなければと思います。
広範囲な話題を持ち、お客様と会話しながら興味を持って貰うようになりたい。

ガイドできるエリアや分野を広げたい。
簡潔でわかり易く、親しみの持てる案内人
興味をもってもらえるようなガイドがしたい。
色んなレベルの人に対応できるガイド
お客さんの要望やニーズに沿ったガイドができること。お客さんにとって気持ちよく楽しく感じてもらえるストリーのあるガイドに徹したい。ガイドをしてもらって満足し、自然にお礼のことばがもらえるようなガイドを目指している。
学識を　広く深くしたい
常に新しいもの、変化を見つけていく
年齢も高いので、相手が安心できるような口調を心掛けるようにしている
教育の分野でジオパークの活動を広めたい
今いる地域に関する知見をもっと得た上で、他地域との違い、今いる地域の特色を伝える事ができるようになりたい。
どんな質問にも答えられるように常に学んでいかなくてはならないと思っている。
もう少し、動植物や人の歴史・文化など勉強したい。また、ガイドする場合に、興味を引く様な説明のやり方、見せる資料の資料の整備を進めて行きたい。
ジオの案内だとしても、やはり楽しかった・・と思ってほしいので、住んでいる人しか知らない話をしたり、美味しい物を紹介したい。
正確な知識を備えつつ、より多く楽しんでもらい、印象に残る地域にしたい
安全面ツールの使いこなし。
スキルをあげること
うまく話ができるようになりたい
人口減少での限界集落の歯止め。ジオ活動で地域活性化、経済効果をのぞみます。
知識を深め、話術を上達して、合理的な説明が簡易にできるガイド者
人を引き寄せる話術

地域への貢献、ゲストとの交歓による有意義な時間を過ごすこと
「ふるさと栗原に自信と誇りを持つ人を一人でも増やしたい」という願い、そのお手伝いができれば
自分の知識をもっと増やしたい。まだガイドをするには力不足だと思っている。
ガイドとしてまだ未熟なので、知識を増やしたい。
もっと自分自身勉強しなかければと思う
専門的に深い質問をしてくるゲストにより深い情報を提供して会話を盛り上げられるような知識を常に持っていたい。
特にない
自分の地域のいいところをしっかり、自分の言葉で伝えられるようになりたい。
すでに 80 歳代に入っているので、あまり考えていない。
誰にでも、わかりやすく楽しんでもらえるよう努めたい。
基礎知識が不足している。対人関係のスキルが心もとない。
地域の子供たちに故郷のことを知り、理解し、好きになってもらいたい。
もっと地域のことを知りたい
もっと笑顔があり、単純に楽しいを過ごしていただける技術や気配り。
立ち入り禁止になっている場所を安全にガイドできるようにしたい（成りたい）
どの世代でも対応できる話術と工夫
まだ未経験なのでわかりません。
自然の樹木、野鳥などもガイドできるネイチャーガイド
地元の文化や自然に関する広範な知識をたずさえて活動に臨みたい
専門家や地域住民など協働すること
一般の人に、もっと地域に興味を持ってもらうこと。
ガイド活動をする上で、市内の既存のガイド団体からの色々な非難、中傷があります。

「今までやって来たことをついこの間出来たばかりのジオパークと一緒になんかされたくない。どうせ、すぐに無くなってしまうんでしょ。そんなものに振り回されたくない。」 「ｼﾞｵﾊﾟｰｸのｶﾞｲﾄﾞに籍のある人に、町の事を語って貰いたくない。」 その他、色々な恨み節を吐き捨てられます。 何も、そんなことを言われる為にｼﾞｵﾊﾟｰｸのｶﾞｲﾄﾞをやっている訳ではないので当たらず触らずにいますが、かえってそれが逆効果のようです。 ｶﾞｲﾄﾞをすると、町の人達に「どうだったか？」お客さんはどんな感じだったか？」と聞いて歩いているようです。 良かれ悪かれ、ｼﾞｵﾊﾟｰｸには興味があるけど関わりたくない人達に苦戦しています。 その人達よりは、私の方が長生きしそうなので、新参者の産みの苦しみをもう少し耐えてみます。
現在のガイド活動に加え防災教育やインバウンド観光も対照にできるよう活動の幅を広げていきたい。
多くを語らずとも、お客様から見たい知りたいことをお尋ねいただける、お客様主体のガイド。
幅広い客層に満足度の高いガイド
Interpretation の基本を網羅して、わかりやすく、論理的な内容をガイドできればよいと思っている。
自分なりのジオストーリーを作りたい
たのしいガイド
専門性の向上と話術
地質や地形の成り立ちと産業の関連を興味深く語る
地学の知識をもっと得たい
①ガイドとしての高い能力が得られるよう研鑽を積みたい。 ②ガイド中の安心・安全が確保が重要なので、緊急時の対応が冷静にできるよう現在は、自然体験活動のリスクマネジャー認定を受け、又、救急法を学だり、地域の防災訓練にも、継続的に参加・体験しているところです。
知識の習得。お客様や仲間から信頼されるガイドになりたい。
対話、体験を十分取り入れて、楽しい時間を共有できればいいと思う。

不得意分野をもっと勉強してすんなりと返答できるようになりたい。
語学力をつけたい
単語を並べてでも外国の人と交流を図りたい
お客様に、驚きと楽しさの両方を提供でき、コミュニケーションがとれるガイド
お客様に喜んでもらえるガイドになりたい
何が見たくて、何を求めて、お客さんがガイドを依頼されたのか？を、事前及びガイド中に確認しながら、お客さんと一緒に楽しめるガイド活動を行う。
とにかく安全が一番。そして話術を磨き上げ楽しかったと言われたい。
更なる知識を得る
人と話すのが苦手なので特にない
客の興味関心を引き出す
各サイトで簡潔なストーリーで感動していただき、お客さまとの会話の楽しみを増やしたい。
お客様の興味関心に合わせて自在にコースを組める。様々な場所を横断的に案内できる（ジオパーク認定エリア外を含む）。 自家用車の活用。お客様を乗せて走ってその間もご案内をできるようにしたい。 英語対応。 他ジオパークガイドとの連携。
興味をわかせる・楽しくさせるガイドをしたい
新らしい講座や勉強会に参加して話題知識を持ちたいと思う
ガイドは各分野の専門家と、一般人の間の橋渡し役と思うので、広い分野にわたって正確な知識を学びそれをうまく伝える術を磨いていきたい。
いつも下見して、準備し、新しいニュースを集めるように、マンネリ化しないように　うまく伝えられなかったり、質問に答えられない時は、落ち込む
地域内の全体をまだ行った事がないので説明出来ない。
案内するジオサイトについて、自信を持って楽しんでもらえるようなガイドが出来ればいいなと思う。

歌って踊れるガイドを目指しています。
お客様にわかりやすく説明できること。
ガイド内容をもっと調べて勉強して、お客様に理解していただくガイドになりたい。
知識をもっと深めて、お客様にわかりやすく、楽しく伝えられるガイドになりたい。難しい事を興味を持たせ、やさしく理解して頂ける様、そしてお客様の心に残るガイドになりたいと常に思いガイドをしています。とても奥が深く難しい頂点は何十年やっても届きません。だから楽しい。
もっと笑顔で、ジオのおもしろさ、楽しさ、おいしさを伝えられたらいいなと思う。
お客さまが、喜んで感動できるガイドをしたい。
広域に渡るガイドではなく、定点的なガイドをしたい。
多様化した社会で生きる人たちが望むガイドは，一律の案内では満足されない。一般参加者は専門性を求めているとは限らない。満足＝楽しさ＋少しの知識・技能を求めている。今の社会に対応したガイドの姿を求めていきたい。先ずはガイド自身が楽しいことだ。
・話術を見に着けたい。
地域の特徴を分かりやすく伝えることが出来るガイドになりたい
少子化に伴う学校の統廃合は止むを得ないが、地域の祭り行事の衰退、伝統文化や集落の活性化が大きな課題である。地域資源（生業、暮らし、自然景観、地域遺産など）を保全保護しながら、地域の活性化、地域づくりに結び付けたい。また、都会では体験 できない自然との触れ合い、生活文化の体験や環境の大切さなど、楽しく学ぶジオパークを目指したい。
①むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをゆかいにガイドすること。②小、中、高校生の学習を手助けできるようにガイドすること。 ③インバウンドゲストへ、グローバルな視点でガイドすること。
外国人への対応の仕方を学んでおきたい。
観光目的に来た人に少しでも、ジオを御知らせするが反応が知りたい。
口頭でのガイドだけでなく体験をすることが必要と思う。相手にも体験させること
・広域エリアゆえに、情報交換少ないので、共有を取って行きたい ・子供達にもっとジオを学ぶ時間を持ちたい（クイズ、ゲーム、などで様々なイベントに組み込んで） ・十分に満足して頂けるよう、再訪して頂けるよう（ワンプラス）

知識、情報などを自分が十分に理解し、教科書やテキストに書いてある文字ではなく自分の言葉で伝えたいと思います。 案内したお客様が、自分が伝えた話題により、自然や歴史やジオなどに興味を持ち、またここへ足を運んでくれる、または、その関連した他の地域を訪れてくれると嬉しいで す。
食・芸能・歴史・文化・生業などもっと深掘りしてゆきたい。ジオパークエリア全体 に視点を拡げてゆきたい。ジオパーク、ジオサイトなどについて的確にアドバイスをい ただける専門家を気軽に活用する態勢が必要。
・天体に関する学びの機会を増やしたい。 ・教育普及事業において小・中学校に出前授業に行ける機会が多くなることを望みます
御客に解りやすい説明が出来て楽しんで貰えるようなガイドになりたいと思っている
大地の成り立ちとのつながりをもっとわかり易く、面白く伝わるように、磨きをかけたい、
地域に来て、いい思い出を持ち帰っていただけるような話し方、話題の提供ができるようになりたい。
お客様が、何に関心があるのかをキャッチして興味をふくらませるようにしたい。
相手から、ジオパークについて興味が持てるようになったと言ってもらえるガイドをすること。
・座学で得た知識を、しっかり自分の言葉で説明したい。 ・あまり専門的な言葉ではなく、初めてジオパークに触れる人でも理解できる説明をしたい。
お客様が何を望んでいるのかをキャッチし、なるべく意向に沿ったガイドができるようになりたいと思います。

（30）地域や制度、環境について、ガイド活動をするうえで困っていることや不満に思っていること、または負担・不便に感じていることはなんですか。

特になし
ご案内する場所がもっと衛生的であればいいなと思う箇所があります。
とくに強く感じていることはありませんが、ジオガイドというものの本質への理解が統一されていないように感じる時があります。
サイトによって整備の悪い処を感じる。（専門的な解説、道路、安全管理施設、トイレ等々）
行政からの協力があまり得られていないエリアがあること。
地域に関心がない。学校で先生が、あまり、関心、興味がない。
困っていることや不満は、どのような団体活動にもつきものです。避けて通れませんがら、皆で話し合い解決する方法が出来たらとおもいます。一番は、協議会長すなわち首長さんのやる気、本気、です。
冬季の積雪量が多いため通行止めになりジオポイントを案内できない
派閥間での価値観の相違が面倒
組織によるガイドの暗黙の格付け　ガイド機会の比透明性
タバコの投げ捨て、ごみ（海岸での釣り糸の放棄）等
折角訪れてくれるお客様には、きれいな海岸（ジオサイト）を見てもらいたいと思っている。海が荒れると元のもくあみ、海岸のジオサイトが多いので漂流物のクリーンアップに苦労している。こちらでは、漂流物は産業廃棄物扱いとなっている。
通年で安定したサービスの提供
なし
ガイドの賠償責任を掛けてもガイド責任がゼロにはならないという判例が通説なこと
名札がない
余りない

ジオパーク内でプロのガイド業をしている。ジオパークガイドは、ボランティアガイド感が強い。多少の金額を取っているようだが、海外のガイド料やアウトドア体験の業者と比較し、低料金過ぎるし、その分、知識の押し売り傾向があり、サービス業という側面が欠如、もしくは、サービス業としての意識が低い。 ガイド業は、成長する可能性が大いにある業種だが、ジオパークガイドの現行の料金は、一般的な事業としては、採算がとれる金額ではないため、一般的なアウトドアガイド業の成長を阻害している側面もある。 また、近隣地域等より外資系等の大手ガイド業者が、地元に調整もなく、いきなり団体で現れることもあり、小規模な地元ガイド業者の営業に影響を及ぼしており、地域住民ともトラブルになることも多くなってきている。それにより、地元住民から地元業者と勘違いされる風評被害もあり、不満がある。
みんなで努力しているので余り思いつきません
交通の不便さ
色々なツアーを実施出来る環境ではない(道路運送法とか)
交通の便も悪くガイド依頼数が多くない。多彩なガイドメニューを構築し、ガイド依頼をしやすい環境を築いていく工夫が必要。
地域のエリアが広いため、まとまりがない。
広域にわたる当パ-クエリアの中で、各市町間のジオパ-クへの温度差がある。
県や国の金銭的、人的、精神的バックアップが欲しい。
二次交通手段が不十分なこと
観光ガイド的な側面が強調されていると感ずる。ガイドとしての資質向上は当然だが、一般にそれに見合う評価は低いと感じる。

1　地域

地域住民に周知されているとはとても思えない（心的）

2　制度

- ガイドを売る，状況・体制には遠い（行政・ガイド両者とも）
- ジオガイドを知り始めた最初からの不透明感が払拭できない
- 前 29 項のガイド計画に基づくガイドは，一団体複数グループでガイドには不具合がある
- 行事の中の一部の時間帯に組込まれた時間的制約（設定）

3　環境？

- ジオパーク地域住民の，ガイド=ボランティアの人との認識
- 当該地の理解不能な工事と放置
- 立ち入り禁止区域への立入禁止（見たものをガイドしたい）

万一の場合の事故災害等への責任の範囲～どこまでがガイドとしての責任なのか？

当ジオパークは、現在複数のエリアに分かれていて、エリアによってガイドの特色がちがうように思います。私が属しているエリアは、もともと観光ガイド等が盛んな地域で、ガイドも兼任している人が多いです。　ガイドの内容や依頼そのもの（窓口）が、観光ガイドが主、ジオガイドは従という感じがします。　もともと観光ガイド組織がなかったほかの地域は、ジオガイドが主の感じがします。

旅行業法、道路運送法、食品衛生法など法規制があり、地域発信型の魅力的なツアーを（安価に）開催することが困難。

都市部との文化知識的格差。特に実体験を伴った情報を得るべく、各種学術文化施設等を訪れるために必要な時間・経済的負担の多さ。

需要が少ない

学ばなければいけない知識が多すぎて負担にも思う。

他組織や人に多く、気を遣って行動しなければならない。そのための情報閉鎖

ジオパークのガイドだけでは生活できない。

法的な縛り
輸送業でないからお客様を車に乗せられない、旅行業でないから手配ができない　など

ガイド間の価値観の相違　観光ガイド出身ガイドと語り部出身ガイドと純粋なジオだけガイドで意志の統一が難しい。ガイドの仕事は観光ボランティアガイドに回ってしまうこともしばしばある。

ガイド手法を型にはめて窮屈
漂着ゴミが多い。
当地域は複数の地域から成り立ち市町のジオパークに対する温度差がある。 ジオパーク内には富士山に関わる地域があり、富士山と周辺のジオパーク地域を含めた国立公園を連携するジオパーク構想の必要性を感じる！
お客様を呼び込む取組や仕組みがまったくない。
地元に専門家や拠点がないこと。
地域住民やジオパーク推進をしていく人たちに「ジオパーク」を楽しみながら盛り上げていこうという気運が浸透しておらずジオに対する誤解が多いと思う。ガイド活動の機会がなく収入がない。ボランティアの機会なら多く、ジオガイド＝ボランティアガイドという認識なのだと思う。（そうではない地域もあるが）
シオガイド不足
未だ地域住民が自分たちのジオパークを十分認識しているは言えない、さらなる認知度を上げる仕掛けや参加を求める必要がある
行政との連携
ガイド個々における話術の底上げ
活動環境：自分を含めて高齢者が多いためか自由闊達な雰囲気がない。皆ボランティアで参加しているのだから明るく楽しい運営を期待したいです。
野獣の出没が多くなって危険を感ずる。ガイドは事前の下見までして安全に気を配っているが、その割には収入には繋がらず、特に小人数の料金の少ない客の案内はガイドが嫌がる。
自分自身の知識が乏しいこと。伝えるためのパンフレットの作成。
ほとんどのジオガイドが仕事リタイヤ者なので、ご飯を食べるための仕事をしている身としては、理解が感じられないと思う時がしばしばあり辛い。
沢山ありすぎて書けません
学ばないガイド（特に年配の方）が多く、グループとしての成長に限界を感じることがある。

地域・行政がまったくジオパークを推進していないこと。拠点や看板などがないのはもちろん、行政の担当者がジオパークに興味を持っていない。
日本ジオパークから具体的な説明もなくはずされたこと
それぞれのジオサイトをどのようにガイドしているか，交流をもちたい
ガイドをする際の下見が平日にある点。年間のスケジュールが見通せない点。
ものすごく準備や下見に時間がかかるが全くの無料。有料のガイドになるにはハードル高すぎ。
マイカーでお客さんを案内できないこと（法律的に）
有償ボランティアと無償ボランティアが混在して活用されていて、結果的に地域の観光に関するレベルアップが進められていない。やはり来訪者の希望に対応するためには、より高度で広範囲の知識やノウハウが必要であることを、地域ぐるみで考えていく必要がある。
行政主導であるとボランティアが基本であり、年寄りばかりの活動になる。
看板整備がもっと必要である
子どもが小さい（小学生と１歳）ので、長時間の研修・ガイドに行けない。
特にありません
ガイド協会との料金設定の意見相違。案内場所までの交通の便が悪いこと。おいしい食事を提供できる場所が少ないこと。
地域ガイド協会におけるガイド登録者の活用がスムースに言っていない。ガイドに偏りがある。
国立公園や、国定公園に存在するサイトもあり、直接手で触って貰えない。
不満に思っていることではありませんが、環境の保全については、どうあるべきか、今後どうなっていくか、常に考えています。
ジオパークの観点での解説・説明を（外国語も含め図解を併用し）、観光スポットにもっと増やして欲しい
特にない
団体利用を想定した利用ばかりで活用・紹介方法が決まってしい、リピーター客を作りづらい。
正しいジオ知識の習得をするための負担

地域には細分化された様々なガイド組織があって、共通した目的のはずなのに超えられない壁があること。
ガイドの数が少ない
情報共有
別にない
ガイドツアーが有償であることの理解がまだまだ足りない。
人材不足①協議会からの展開を内部展開する窓口業務はPCが扱える（持っている事・使える事）が前提となる。スピンアウトのボランティア組織故人員が限られてしまう。②自ら考え行動に移す人が少ない③高齢化
ない
推進団体やガイド団体が閉鎖的で、一部の人だけで事業を進めているところが非常に不満です。
ジオパークの推進組織が十分まとまっていないように思われること。
当然のことながら、「間違った解説は絶対するな」。時には間違うこともある・・・
ガイドが少なく、時間的に無理なときもあるので、もっとガイドがいればいいと思う。
年齢７０歳、ジオガイドになるまでガイド経験無し、歴史は不得意で避けてきましたが直面するとそうもいってられません。しかし今こうしてガイドとして、得意分野(ないのですが)行動していられることにかんしゃです。
顧客のジオサイトへのアクセスが不便。ボランティアガイドとのすみ分け。
常識が通用しないガイドがいて・・・
ガイド活動をしている場所にボランティア団体が安い料金でガイドをしていることです。
地域の産業振興にうまくつなげられていない。行政の取り組みも積極性に欠ける。
新たなガイドの養成
時間がお客様に合わせるため不規則

・活動地域内でガイド募集をしても応募者数が減少。（要因は仕事を持ちながらガイドもしているため。現在は同じエリア内でなんとかカバーしている状態） 　担当ガイドの人員的な幅が広がらない。 ・学校（小・中）での教育ツアーでは、先生の移動もあり、継続的な展開が難しい。
ガイドの集結場所（ガイド事務所）の確保の必要性
特になし
ガイド仲間をもっと増やしたい。
ガイドをあまりしないので、よく分からない
地元市町村のジオパークに対する参画意識が低い
集合場所と、解散場所が違う場合の調整。
トイレが汚いと苦情を受ける
二次交通が整備されていないこと。
もう少し、当ジオパークのことを、広めるように、宣伝に力を入れて欲しい。
既存のガイド制度に縛られ、独立したガイドが行えない。
仕事しているので、会に参加しても何もできない
特にありません。
ジオパークでガイドするほど観光客はい増えていない
ジオパークガイドを利用せずにサイトゴミ捨てトイレのみで利用する観光客から利用料・管理費のような料金を徴収するようにして欲しい。
報酬やコースを紹介して、ガイド依頼のマネジメントを取りまとめる事務的な手続き作業ができるいわゆる事務局が欲しい。
経験が浅くまだよくわかりません
ない
認定取り消しになったことだけが大きく取り上げられていること。審査が厳しすぎるのではないかと思っている。

連れ合いの共感が得られず、行事に参加しずらい。連れ合いの仕事があり、私自身の仕事があり忙しい中、参加したい行事にいけないのがつらい。
報酬は時給を原則としているが、前後の時間への配慮が少ない
バリアフリーに対応できてない。
ジオガイドの知識を持った人材が多くいます。人材確保対策を具体化してください。例えば教員退職時点の勧誘など。 温暖化対策が見えにくい。ガイドへの関連情報が適宜ほしいです。
特になし
地域住民の理解が得られていない。地域振興の一つであるという認識が皆無
特にありません。
料金が安い
山岳地の案内には、天候や山岳地の環境、お客様の体調の変化など、リスクマネジメントには平坦地より格段の配意が必要。
情報共有不足。特に，その地域のジオパークが，あるいは日本ジオパークが何を目指しているのか，最近の方向性がいまいちよくわからない。ガイドとしてジオパークに関わる以上は，ジオパークの動向や活動状況，新規情報などをもう少し共有してほしい。
地方公共団体が関わらなくても持続的な活動が可能だと思うので、お金をかけなくても活動しているジオパーク活動を認めてもらえるとありがたい。
マンパワーがたりない。ガイド出来る人が少ない。ガイドだけでは生活する事ができず、時間と金銭的に余裕のある人しがガイドになるひとがいない。ボランティアガイドというのがちまたに多すぎてガイドだけではあまり収入にならない。（個人的にというより、組織として運営出来る位の収入が欲しい）
案内板などジオの看板がまだ整備されていない場所が多い。
行政サイド　地元企業　ガイド会の連携が上手いってない。
個人でガイドを請け負ってみたいが、そういうシステムがまわりにないので何をどこまでしたらいいのかがわからない。
特になし

景観を阻害する支障木などの伐採協議が進まない事。
ガイドの要請があまりない
案内板の整備、新設の要望を理解してくれない、憤慨する事が多い
特になし
一面的なものの見方
各エリアのつながりが薄い。当ジオパークの推進協議会の考え方がガイドにわからない
特にない。（様々なガイド団体が連携する地域独自の制度があるが、さらに活発化できるとよいと思う。
特になし
二次交通
下見などに行くのに遠く、時間と経費がかかることが負担
特になし
特になし
初歩的なことを知る勉強会や講座がない事。あったとしても、学術的なものが多く、そのような専門的なことをしてきていない人間からしたら、離れていく原因となる。
行政の方たちと協力したい
特にない。
特に無し。強いて言えば事務局のさらなる強化。
移動手段
行政との関係、予算面
あまり不満も負担も感じない。好きなことができて幸せ。
現在はありません。
特にありません。
自分の住所とガイド場所が離れており交通費の出費が大きい。

ジオガイドはたくさん養成したのにそれぞれが活躍、動ける機会がない。だからみんな関心がなくなりやめたり、モチベーションの低下がみられる。もっとガイドを動かしてほしい。
行政の状況に応じた早い対応ができないこと、遅れ。特に、防災や観光地の整備。
地域にある活動が活発な火山の動きが読めないこと。
一般の方々に、観光ガイドと同じで違いが浸透していない事。
木道など設備の老朽化で　安全に対するリスクが増している。　看板の老朽化で鮮度がおちている。
ガイド活動をする場所が行政管理のため、ガイドで気付いた点や施設の改善してほしい所を伝えても、中々反映されない
知らなければならない事が多すぎる。
不定期に要請が有るときだけのガイド（時間単位）だと負担と収入面のバランスが悪いと思います。現場で簡単な案内等をしてPRするとか、せめて半日単位の仕事にして貰えれば良いのかと思います。
特になし
何もない
特になし
新しくガイドをしようとする人が少ない。ジオパークガイド活動の持続性に強く不安を感じる。３年後には大幅な活動範囲が狭まり、活動の活力が低下する。
ガイドシステム、組織の確立です。自主的な独立したガイド組織の構築。
交通機関の充実
わからない
ジオガイドだけではなく、環境教育やヘルスツーリズムのプログラムもガイドしています。 多くのことを先輩方から教えていただきましたが、皆さん高齢二なっても活躍されています。早く次世代に繋げたいと思いますが、現状では若い方がガイドで食べていくのは厳しいです。宿泊業などの方が副業でガイドをするのも難しくなっています。行政にも提案しておりますが、地域おこし協力隊などの制度をガイド育成に利用していけたらと考えます。

現役で仕事をしながら、休日に活動していることに限界を感じる。また、ガイド料はもらっていないこともあり、資料作りや調査・研究の費用をケチってしまいそうになる
地域を学ぶ上で、ベースとなる資料がない(解らない)ため、自分が学んでいる方法が適当なのか、読んでいる資料の内容に間違いがないのか、判断し辛い。
ジオツアーが少ないように思う。
他の趣味や生活の時間の中で、ジオの活動にさく時間の確保が困難な場合がある。
まだまだ市民の方もジオパークを知らない人も多くいる。 ジオの案内をしています・・と言っても、へぇ～と言われたりします。 ジオ関係で案内したいなぁ～と思うお店の方も協力的でない時もある。
ガイド組織が、独立採算出来るほどに売上が無いこと。国などで、最低限の運営費用を出してほしい。
資源開発による急激な景観変化、地域文化の消失。
困ること・不平・不満はないわけではない。でもそこからが出発点と考えている。
ガイドと仕事の両立
専門知識の向上、次世代ジオ活動を目指す人へのデータ提供、伝達手段のあり方。
ガイド後の反応、評価が取れないこと。
？
ジオパーク地域住民へのジオパーク意識の浸透への限界を感じる事
負担に思っていることは特にありませんが、ジオパークについての地域の理解が不十分だと思っている。
「ガイドの会」の会費やユニホーム代、大会の参加のための旅費など金銭的に負担のかかることが思っていた以上に多いことをガイドになって初めて知った。今は働いているので金銭的に問題はないが、将来収入が無くなったときに活動を続けられるのかが不安。
金銭的問題。ガイドの会の年会費やユニホーム代、大会等への参加のための旅費など、けっこうかかることをガイドになって初めて知った。今は働いているので気にせず払っているが、収入がなくなったら活動を続けられるのか不安。

勉強会の日が　重なって参加できないこと
ローカルなジオ知識を会得する機会が少ない。書物で一般的な情報は得られても、実際にローカルな現場で具体的な説明ができるだけの知識は、現場に連れて行って説明を受けるような研修の機会だけが頼りだし、それが研修の楽しみでもある。ローカルなジオガイドの先輩のはなしがもっと聞きたい。
地域の理解がない
いわゆるボランティアガイドとプロガイドが一同に集められ、お互いがいがみあっている現状がある。ボランティアガイドの方は総じて知識には長けているが、立居振舞や接遇面への意識に乏しく、一方稼げるプロガイドは山岳やカヌーなどの高度なスキルを求められる分野に行ってしまい、ジオガイドに有能なプロの人材は残らない。（私は専業ではないプロガイドというまさにその見本のような人材です･･･）
あまりない。
特に不満はありませんが、少しでもガイド業で生活の足しになれば理想と考えます。
家族の都合が優先なので、積極的に活動できない、
若いガイドさんが参加してほしい
ガイドの車で送迎ができないので、できるような制度設定があれば嬉しい
ガイド同士の仲間意識を構築しづらい。ガイド同士の交流できる機会が限られている点。
ガイドを開始する場所までのガイドの移動と終了後の帰宅移動の方法（開始と終了の場所が離れているとき）
国内ジオパーク全体で、恒常的ツアーなどの実施の有無や質の差異
まだ未経験なのでわかりません。
推進協議会とガイド協会があまり協力していないこと
観光客の絶対数が増えてほしい.
行政の更なる後押し
活動していることをどのように一般の人に広めていくか、悩んでいる。

公民館単位、小学校校区単位での市民活動についての補助金や助成金の仕組みが有りその仕組みを利用して沢山のイベントやガイド組織が出来ている。ボランティア要素の多いジオガイドは敬遠されがちである。地域活性化の裾野は広がっているが集約出来ていない。
ガイドは観光振興だけでなく、教育や地域づくりなどに関わるキーパーソンとなる可能性を持っているが、現在の活動地域ではガイドという存在が認知されていないため高いスキルをもった方々が地域づくりに活用されていない。こういったガイドの方々が認知されるように取り組んでいかないとならない。
広域の地域にまたがっているため、ガイド同士の一体感が乏しい。
なし
ガイド活動が一部の人に集中しているのがどこのジオパークでも不満に思われているようである。また、新しい人に活動してもらうプロセス・ガイド内容を作るプロセス・ベストプラクティスがないのが悪い。
母の痴呆症が進み介護の問題
今のところなし
サポート環境が整っていない
なし
魅力的なジオサイトが少ない
もっと開かれた事務局(場所と対応)であって欲しい。 難しいとは思うが①気軽に会員やガイドが立ち寄れる場所に事務所があって欲しい。②定着した事務局員が少ないこともあり、去年や一昨年のことは知らないと言われてしまう。
自分自身の他の活動との時間の制約。
ジオバークを、立ち上げた以上、責任をもって、育てていってほしいです。市観光課、看板設置担当者、推進室、ガイド達、地域住民や学生等との、連携を密にして、ジオバークの将来を考える機会を、作ってほしい。
パターン化されずガイドの意見がもっと繁栄されたら良いと思う
講習会が平日にあり、定年後も仕事をしているのでほとんど参加できない。
語学力

観光地にもかかわらず、地域をあげて阿蘇の価値をお客様に伝えて、来て頂こうという気運が足りない。 交通網がお客様目線になっていない。
ジオ知識に偏重したガイドになっていることK時代とともにお客様のニーズは変わってくるので取れへの対応が必須
地域市町村（県含む）の後援体制（人材や資金）が減少する傾向で、ジオパーク推進事務局体制も脆弱となり、ガイド協会の維持運営が難しい状況である。
地域にある山の登山道の整備。特に危険な部分の整備と看板の整備。
特になし
登山道が危険。送迎がグレーな範囲。二次交通が無い。国道両脇くらいは木を切って綺麗に整備して欲しいなど。
公の援助が非常に少ない。ガイド活動を支える発想が乏しい。
案内のプログラムがオーダーメイドなので事前のお客さまとの話し合いに時間がかかる。
商業ガイドとしての資格による裏付けになる制度。全国的な基準を設けて一定レベルのジオガイドを商業ジオガイドとして認定する仕組みがあり、それによって自分で自分のガイドの値段設定ができるといい。 ジオパーク、ジオガイド全体の活動に反映されにくい、個々のガイドの活動がどこかで評価されるといいのだが、その機会が少ない。 ご案内をするための準備まで含めての対価と認識しているが、対して報酬がやや手薄。全国的なジオガイドのレベルアップが必要。有償ガイドのクオリティを上げ、それを『世間の常識にしてしまう』ために実績を作る。
常時活動できる拠点を持ちたい。
ジオサイトは山であったり川であったりする為、台風雪どけ大雨等で交通止が良くあり遠回りになったりする事が多くある。
①ガイド料金が安すぎる。下見や資料の準備などを含めると、とりわけ１～３時間程度の短時間の場合は現状ではほとんど赤字。　②協議会や関係機関などでもガイド当日の対お客のガイドの時間しか考慮してくれないケースが多い。　③小人数限定のスペシャルメニューを提示して、通常のガイドの料金体系とは異なる高い料金を設定しないと“副業”にもならない。現状では頑張ってガイドをしている人ほど持ち出しが多く、自分の首をしめているように思う。

ジオサイトまでの交通が不便で、車がないといけない。お客さんに、いつも聞かれるが、ジオサイトには、足がない！！
その地域までが遠い・・・（１時間以上かかる）
広い地域に 16 か所のジオサイトがあり、ある程度、ブロック別の案内でないと無理がある。
海岸などを歩いてガイドする際に中国製、韓国製のプラスチックごみがあまりに多くて、地球規模での環境問題を説明していますが、あまりにも多すぎる。清浄活動はしていますが、きりがありません。
案内するジオサイトが多くあるが、道が整備されていない所がおおい。
ジオサイトへのアクセス、大型バス通行止で困るが、環境汚染、自然破壊にもなるので、ただし、５月の連休、夏休みの期間、マイクロバスで主要駅や最寄り駅から運行できないか。
ジオパークガイドのお客様全々増えて来ない事だけです。
歴史的な事、火山等の資料で先生方によって少々違ったりすることがあり、どれを伝えていいのか迷うことが多々有ります。看板の数字等きちんとした物で統一して欲しい。
認定ガイドは多いが、実際にガイドを実践している人は限られている。このため、ガイドを実施する際は、限られたガイドが対応している。
今のところ特にない
ガイドをする地域があまり自分になじみのない所が多くあるので、そういう所のガイドには経験など話すことができず単なる説明に終るので、意欲がわかない。
若者の関心はスマホ，コンビニであり，人との交流を面倒がる。苦労はしたがらない　したがって，ガイドする方も求める方も老人が圧倒的に多くなる。　行政（生涯学習センターや教育委員会，商工観光課等）との連携強化が求められる　企業との連携など有効だろう。
・海岸に漂流ごみが多すぎる。お客さんに対して恥ずかしい。
高齢者（75 歳）であること。
①自分が所属するジオパークがどのような方向に進もうとしているのか、はっきり示されないこと。　②全国大会やフォーラム等の討論の経過、内容等の詳しい情報が届かないこと。　③行政は往々にして、本当はやる気がないのにやるポーズをとることが多い。　④事業の実施をガイド組織（下部組織）に丸投げすることが多い。

ブロック間交流・研修　若手ガイドの採用
日本で初めて恐竜の骨が見つかり、草食動物と分かりながらその全体をどう表現したら良いか、骨格でも良いから見た目に実物大を伝えれば良。
？
・ジオパーク活動の力の入れ方がもっと見えて感じられればと・・　・行政との連絡が多くあればと思う。
ジオパーク推進協議会、ブロック会議、地域推進協（所属エリアは民間団体のみ）と 三つの屋根が重なっていて、複数市町村各自が地域推進協を作っていても、事業費が少なく、事務局は役所内設置が多く形式化しているのでは？　　ブロック会議もボトムアップ的な要素が不足、自治体担当者と民間団体が少しでジオパークをいろんな分野で前に進める参加態勢となっていない。
県外への全国大会や研修会への参加は、興味があっても長期日程になると参加しにくい場合もあります。又、宿泊費や交通費を考えると、日頃のガイド実績でははるかに赤字となります。他県との交流も大事ですが、発足時よりも地域内交流が希薄になっていると感じる今日この頃です。それは、当ジオパークは複数エリアに分かれている為、各エリアのイベントや研修会などがジオブッキングやジオニアミスも発生するので、頻繁に出かける事が負担になる場合もあります。
登山道や遊歩道の整備が出来ていなくて案内する側としては申し訳ないと感じていて行政に報告しているがなかなか改善されない
まだまだジオパークの有用性が理解されていないのではないかと思う。
市のボランティアガイドとしても諸制度等利用でき、特になし。
特にない
特になし。
・ガイドになっても、実際にガイドをする人が限られている。　・ガイド料をとらないと持続できない。　・ガイドに若い人が少ない。
・看板が少なく、あっても小さかったりしてわかりにくい　・郷土歴史資料展示施設に冷暖房が完備されていない。

（31）今後、自分自身がガイドを長く続けていくためにはどのようなことが課題であると思いますか。

体力を維持し、いつまでも〝地域の魅力〟を分かりやすく伝えていくのか、それが唯一の課題と考えます。
自分自身がもっと色んな体験をすることが必要だと思っています。ガイド活動だけでなくガイドを受ける体験も必要だと思います。
仕事に従事している立場としては、スキルアップにかける時間が不足しているように思います。
ガイド経験を増やす。基礎体力の維持。専門知識・関連知識の習得。ガイド手法の研究
ガイドの事務所が必要不可欠。ガイド間の交流できる場を多くすること。ジオパークの担当者だけではなく、観光課とともに協力して一緒になって行政が全国や海外に発信できる体制を確立すること。
たえず、インタープリテーション技術の向上
気力は、ありすが、年齢、体力がどこまて維持できるかです。この活躍を持続可能にするために若い方々の育成にも
地元の環境維持について勉強して住民と共有していきたい。
知識と実践経験
健康の維持
可能な範囲で活動したい。
他ジオパークガイドとの違いを生かし（地域の特異性を持ち）、また、若い世代を育てること。
体力
心身の健康
最新の学説を絶え間なく収集し、常に新鮮な情報を得ることがネットワーク内で共有できるかどうか
情報
体力の継続

フィールドの確保、秩序の維持。ガイドが増えると競合も増えるし、ツアーのスタイルもそれぞれ違うため、ある程度の住み分けやガイドや受け入れ数を増やせばいいというものでもないので、地域のキャパに合わせて適正な受け入れが継続することを望む。
健康、車の運転をいつやめるか？
いろんな知識と人との繋がり
気力と体力の持続。
健康と体力の維持　不断の研修
行政を中心に啓蒙活動を強化し、いろいろなイベントやジオツアー等を企画する必要がある。
健康、気力、好奇心
マンネリ化を避け、常に新しい知識、情報を蓄積していくこと。
手術後、喉に傷ができて、声が思うように出なくなった。
自分の年齢では長く続けていくことは無理と思うので、後輩ガイドがより高い評価と誇りを持てるような支援体制を作ることが課題である。
モチベーションの維持
自身の年齢と体力
ジオガイドだけでは長く続けるのは難しいように思っています。実際、公認されても活動をやめた人が少なからずいます。ジオ以外の要素も含んだガイドを行おうと思っています。
問 30 の解決。（一定量の）ガイド需要の掘り起こし。歴史ガイドや街並みガイドへのそれなりのガイド料金支払いへの理解醸成（ボランティアガイドや観光バスガイドなどの無償ガイドが多い）
家庭生活との両立。家族への配慮。彼らの継続的な理解と協力を得ること。
健康と生涯学習
自分の気持ちの持ちよう？
体力の維持
高いガイド料を払ってもガイドをつけたいと思うような価値をつくる

収入の安定化
体力増強。脚力、筋力トレーニング。英語の勉強。
身体能力
スタッフの養成。
自身の健康
定期的にお客様を呼び込む仕組みづくり
地元ジオパークや近隣地域だけでなく、より広いエリアの知識獲得と、実際に活動できること。
認定ガイドの資格をとり、年間に数回ガイド活動をしているが、いつ仕事があるのかもわからず、不定期で、収入も少ない。定期的な活動機会や収入があればと思う。
高齢なのでもう 1、2 年
年齢的、体力的な問題が差し迫っている、あと何年と期限を切っているが、それまで心身の健康に留意する事
特にありません
心身ともに健全な生活を送り続けることと好奇心・向上心のモチベーション
余りガイドの機会もないのですが、ストーリー性のあるお話を、短い文で効果的にどう表現したらよいか考えていきたい。また体験型のジオツアーの可能性も考えていかなくてはと思っています。
先ずは健康の維持、知識の吸収(年々の状況変化に対応した知識も含め内外の話題や傾向など幅広い分野にまで及ぶ)、スキルアップで人を楽しませることのできる人となること。
資料の用意、印刷などの自己負担をなくしたい
活動に加わるための時間を作ること
知識、教養経験何もかも全部
謙虚さと向上心を持つこと
資金。プログラムの内容。
行政のバックアップを必須とする日本ジオパークの姿勢

とくになし
仕事とガイド活動の両立。
何度もガイドに参加して実力と自信を付ける。自主的な活動を重ねる。
健康
とにかく仲間作り。最低でも地域の検定試験に合格した者を組織して今後も研修を進める。
収入を得られるような形になっていない。少なくても箱根ジオパークは。
自分の健康維持
育児との両立
自分の健康管理
自分自身の体力、気力の維持のため、体を鍛える努力を続けること。しっかりアンテナを張り、ジオや環境、地域に関する情報をキャッチすること。
ガイドしてもらってよかったといわれる声を聞くための新たな情報の発見が必要である。
体力勝負。
集客力（収入）
ジオ講座で勉強を重ねることと、外国人への説明シナリオを増やすこと
金銭と体力
利用者のニーズに応えられるような知識と伝え方。加えて、こちらが提供したい・知ってほしい情報の発信の工夫。また、長期的に見た地域の活用と人材育成。
正しいジオ知識の習得、ツアー作り
得意なテーマを見つけて、それがどのジオサイトでも説明できるようになること。
健康と仲間がいること
後継者
自分の体力
健康であること。好奇心を持ち続けること。

自分の考えと同じ方向を持ったアクティブな人材との巡り会いを期待している
ない
全体のガイドの機会が少なすぎてブランクが開いてしまいます。最低でも年に３～５回程度のガイドの機会を持てなければ、スキル的にもガイドを続けていくことは難しいと思います。
交通費も自己負担なので、交通費だけでも頂けるとありがたいです。
歴史・文化・生活・自然環境など連携したストーリー作りの充実、他地域とのリンク
ガイドの回数を増やして、上手に伝えたたり、いろんなことに対処できるようにしたい。
記憶力の低下は否めません。 工夫していきたいとおもっています。
自らのコマーシャルをどうするか。自分が遊びたい時間との調整。
自己研鑽とスキルアップ
学び続けることが大切で、日本ジオパークのガイドのネットワークでの交流が必要です。
本業とのバランス。下手に昇進すると時間が取れず対応できなくなりそう。
体力・気力の維持
安定した制度と環境
・健康体の維持強化。 ・新しい情報の収集（特に地形・地層関係）。
収入の面は有ります。更なる行政との一体化。
仕事と日常生活との両立
体力
向上心
ジオパークの認知度の向上
勤務時間との調整。
話術と知識

総合的なジオ知識の習得、得意分野への特化。
常日頃から、地域のことに目を向けたり、本を読む時間を、増やす。
ガイドに見合った報酬とガイドとして起業できる環境。
意欲
ツアー準備、当日に関わる労務などを報酬で補えるか
リピーターしてくれるようなガイドを心がけた工夫を考え取り入れていく努力
ジオパークのサイトの地域住民の人達との良好な関係が必要。
新たな知識や技術の蓄積と体力の維持
知識を身につける
健康
健康であること
健康である事、参加について無理をしない事、楽しい仲間を大事にする事。
健康を維持し、頭のボケを遅らせる
体力づくり
ある程度は専門的情報が適切に届くシステムがほしいです。個人で集める数は限られるものですから‥。
ボランティアガイドは否定しない。有料ガイドとのメリハリ(線引き)をハッキリさせ、できるだけガイド収入を得ること。それにより自身のモチベーションを上げると共にガイド品質において常に向上心を得ることができる。
(29) (30)の回答で記入したことを伸ばしていくこと
さまざまな年代のお客様に合わせた、適切なガイドルートの構築力
再勉強
自分の体調管理。

正直なところ，現在いる地域に定住する予定はない。ガイドないしジオパークに関与するうえでの課題というならば，今後生活していくであろう地域にジオパークあるいは関係する活動媒体があるかどうか。
これではだめ。ではなく、これでもいい。といった寛容な活動を認めてもらえることが、このガイド活動を長く続けていける課題だと思う。
当方地区では人口の減少が著しく、自分の本業の仕事だけで無く１人で何役も背負っている人が多数おり、自分ももっとガイドをしたいと思っているのだが他の会の役員も多数抱えており自分の時間がほぼ無い事
常に学ぶ姿勢を持ち、解説に工夫や改善をしていく必要がある。
話上手にならなければと思います。自信を持つこと
ジオパークのガイドで生計が建てられるわけではないので、他の仕事などとどう折り合いをつけていくかが問題。
体力
学びを深めたい、ジオを楽しむという意識。
自身の年齢
自分が健康であること 自治体が現場を知っているガイドの意見や要望を理解し、行動をおこしてくれること
負担に感じないようにする。経済的安定。
活動が楽しくなければ長続きしない。
ガイドの会にもっと権限を持たせてほしい。
如何に興味関心を持ちづけられるか。
知識
もの忘れ、年齢
健康、体力、知識不足
勉強

施設等の整備
勉強不足であるため、学びたい
健康を維持すること
知識の深堀り。
健康維持と自己研鑽。
常に知識を高めるための努力
健康管理
健康管理
健康、これは気を付けています。
健康管理。
自分の年齢と健康
仕事があるために制約があり思うように動けない．辞めるころは体力がなくなり動けなくなる。
体力の維持。
常に勉強、筋トレ
年齢的な問題。
新たなガイドの参加
育児、仕事との両立
知識の集積
体力の衰えは避けて通れないので健康管理と、情報の習得。
自分自身の仕事や社会での立場
体力
地域、行政、教育現場との連携により、多くの人にジオパークを知ってもらうこと。
家族の理解

健康で地域のことに興味・関心があり向上心を持ち続けること
体力と　ネットワーク
体力、健康
余り長くはできないと考えています。
仕事とガイドの両立
地域、動植物に関する知見が不足していること。
膝痛とどうやって付き合っていくか。
さらに知識を広め、案内対象のグループの年齢やバックグランドに応じたガイドテクニックを磨いていきたい。
もっと専門的なことを勉強しなければ・・・と思います。
コンスタントに知識などのブラッシュアップ講習を受けること
埋もれた魅力の発掘を楽しむ。
年齢から来る体力維持
それなりの対価が必要
ガイド同士で交流を深め、知識の伝達や共有が必要。
現在 72 歳であるが、75 歳くらいが定年と定めているので残りが少ない。
健康、技術的向上心
個人の負担が大きくならないこと。ジオ知識に興味を持つこと
ガイド同士の切磋琢磨。
ジオガイドとしての知識を増やすことが課題。
ガイドスキルやジオ的知識を増やしていくことが課題。
自身の健康に気を付けていきたい勉強
70 歳代に入って体力の衰え。知識は増えていくからもっと多くの場所で多くのゲストを案内したい。

健康
現状ではガイドを生業にするのは難しいので逆説的にはなるが本業でしっかり稼ぎたい（ペンションを経営しています）
自分自身の健康管理が課題。
日々の努力、向上心を持続できる環境を自分自身で作り続けられるかどうか。
家族の介護とガイド活動を調整していくしかないと思います。
健康
まだ十分な知識をもっていないこと
ガイド人数が増えること。現在人手が少なく、一人のガイドが活動全般についてカバーする範囲が広すぎると感じる。
健康と体力
リスクマネジメント・救護技術のレベルアップ・知識量・創意工夫
ガイドをしてみたいとは思ってますが、今の自分の現状から協力する時間的余裕が無いのが、課題です。
常に新しい知識を得る機会が少ない
バーンアウトを避けるため，頑張りすぎないこと.
時間的拘束
無理しない範囲で、活動を継続すること。
マンパワー。 繋がって成長出来れば、活動が少しは活性化していくと思います。
日々、ガイドとして求められることが変化しているため、その時々の社会情勢に合わせて自身のスキルを磨いていかないとならない。
この地域の魅力を、自分自身で発見し、自分自身の言葉で伝えていくこと。
なし

あるエリアをガイドする場合、ガイドの内容をスポット・ドリブンで記した書き物が必要である。たてば、スポットごとにどういう内容をガイドするか明記し、ガイドはそれぞれ自分の引き出しを加えて、四季おりおりの内容を加味するなどして加えてそれを Document にしてゆく。新しいガイドはそれを読んで自分で内容を加味してガイドを行う。このようなベースになる資料がまったく用意されていない。今まで、何をしていたのかと思う。
自分自身の健康
時間
地域（ジオパーク）での継続的なサポート体制
未熟な知識についてじっくり学ぶ余裕、余力（時間など）
健康
もっと自分のスキルをあげたい。 できるだけ他のジオパークにも出掛けて、①専門的な学びを深めたり、②ガイドの手法を体感したり、③相談できるガイドの仲間も増やしたい
自身のスキルアップとガイドの組織の充実。
地域住民と、行政、推進室、ガイドの、チームワークが必要で、私達ガイドもさることながら、それぞれの関係者の熱意が一番だと思う。繋がりを良くして、対話することに、つきると思う。
家族の健康と自分自身の健康
知識を得るための活動時間の確保
恥ずかしがらずに積極的に前に出る。外国の人とのコンタクト
ガイド技術のスキルアップの機会が少ない。実際のお客様とのやり取りのあり方や、新しい情報の共有などもっと必要。
健康であること、好奇心が旺盛であること
特殊資格や安全管理を含む責任の重い有償ガイドではなく、ボランティアガイド（弁当代＋交通費のみをガイド料金とする）として、お客やガイド仲間と一緒にガイドを気軽に楽しみながらガイドを行うこと。
体力の維持。学び続ける気持ち。

高齢になってきているので意欲の減退
心身ともに健康なこと
体力は衰えていくので、それぞれに合ったフィールドを開拓していくこと
ガイドの質を絶えず工夫し、マンネリ化しないこと。
ガイド活動のみで食べていけるだけ収入がないと、ガイドができないのが大きな悩み。 収入源となる仕事をセーブして、ジオガイドが職業となるように、と実績を作っているが、我慢比べの相を呈してきている。 後進を育てる人材が少ない。自分がガイドできるだけで満足する人が多い。これからガイドを目指す人に、ジオパークの概要から、ジオガイドとしての技術を伝える、全国的な仕組みがこれから重要になるのではと考えている。
ガイド活動から来る満足感
年令的に後何年できるか　健康に留意して元気に歩ける体でいたい
まず体力の維持と、知力の拡充。　日々勉強しないとね。
ガイドを始めて、13 年になる。定年になってからなので、体力的にも健康に注意し、今は週２回の健康体操にて体力作りに頑張っています。
年齢に合わせてゆっくりとガイドしたい
高齢の為、健康維持に努めなければ。
健康第一です。
健康であること。
休力作り
毎年年を取るだけなので健康には気を付けて元気にガイドすることが課題であると思います。

若い頃からバスガイドにあこがれて、３年程努め結婚により退職、中途半端で終ってしまい。56才でボランティアガイドを始め、現在ジオパークガイドと両方やっています。もっともっと好きなガイド続けたいし、勉強もしたいのですが 70 才を過ぎた今、体力的な事等で後何年出来るだろうと不安に思う今日この頃です。いろんな方との出会い全国の仲間達との語らい本当に素晴らしい仕事だと思います。ガイドは知識だけでなく人、人柄だと思います。楽しかった！！良かった！！この言葉を頂く時が一番嬉しい時です。健康に気を付けて一日でも永く好きなガイドが続けられる様に頑張ろうと思っています。
皆んなが、ガイドすることに対して楽しいと思える環境づくりが課題であると思う。
健康面と体力。知識と文化・歴史とのかかわり合い。
体力、気力。
(29) や（３０）の回答と共通している。
・健康の保持　・飽くなき探求心を持ち続ける
健康を維持する事　自分の話していることに間違いがないか、日々検証する事
行政の熱意、やる気、意気込みを感じない。
①年齢（もうすぐ後期高齢者になります）
身体（足、腰）の維持　自己研修
年令がもっと若いと良い。　次世代に期待する。
1 健康管理　２　ガイド員同士の意思の疎通　３ガイド員の後継者養成
・若い人達、中高生の参加を増したい　・ガイドを増やしたい（認定ガイド）
＊自分のエリアだけではなく他ジオパークのことも知り、日本の大地とのつながりを関連 付けて話せるようなること ＊幅広い年代に対応できるように柔軟な心と頭でいること

屋根(ジオパーク推進協議会～ブロック会議～地域推進協議会)の数を整理し、もっと多様なプレイヤーの参画を得ながら、ジオパーク推進態勢を具体化して欲しい。 例えば、ブロック会議はブロック内の連絡調整を行い、ブロック内の連携可能な市町村で公的な広域推進協を設置し～実質的なジオパーク推進組織とされたい。地域推進協議会には、構成会員以外でもエリア住民が出入りできるようなオープンさが必要です。ジオツーリズムを作り、教育・観光・地域産業などと連携しながらガイドが活動することで、次第にジオパークが地域に啓発普及してゆくと思います。現状は「ブロック･地域推進組織」がジオパーク的に機能せず、ジオツーリズムを不断に造成する意識が弱く公認ガイドの出番があまり見られない状態です。
家族の理解と体力
年齢的、肉体的限界。
諸学習会、講演会等研修機会に積極的に参加し、知識だけでなく人間性的にもスキルを高めていくこと
健康に気をつける事
ガイドをする時間を確保できるかが課題
ガイドに若い人を入れていかないと長続きしない。
夫と２人暮らしですが、私たちはもうすぐ７０才になろうとしています。お互いに健康であることが一番です

（32）今後、あなたの地域で多くのガイドが長く活動を続けていくためにはどのようなことが課題であると思いますか。

リピーターを拡大し、更に口コミで広がり、かず多くのガイド依頼が来るような努力を重ねる必要ありと考えます。
ガイドさんの高齢化の問題、若い世代のガイドさんがガイドしやすい環境づくりが望まれます。
適切な表現ではありませんが、ジオパークというＯＮＥ　ＴＥＡＭならばガイドも一員だと思います。 地域にとって有益な存在だと認識していただくことが必要だと思います。
ガイドの依頼数確保、ガイドの育成、地域の協力・理解、
ジオサイトの安全管理や自然の保全などに行政がもっと積極的に関わること。
地域の理解、参加協力、他地域からこられた方の、もてなし(聞かれた時に、できれば、説明できるよう)
持続的なガイド探しと研修とガイド料金のアップです。
ジオパークの住民理解とガイドの若返りが必要
経済活動に繋がること、地球が存続すること
情報の共有・透明性・研修の機会公平性
ガイド料金の固定化
ガイド活動の変革を常に意識してマンネリ化防止に努め、ボトムアップ式で活動すること。また、工夫してガイド依頼件数をあげ、いくらでも収入確保に努めること。ガイド料はガイド活動が長続きする一つの要因と思っている。
通年で安定した入込（特に冬季）
洞爺湖の水上利用に関する話合いとルール作り
最新の学説を絶え間なく収集し、常に新鮮な情報を得ることがネットワーク内で共有できるかどうか
向上心
平均的な仕事の割り振り

ジオパークガイドが、国内国外を含むアウトドアガイド業者や体験業者と同水準の料金形態で勝負してほしい。本来、経済効果がもっと見込めるはずだが、ビジネス感覚をつけてほしい。そこで得た利益を知識の研鑽やサービス向上につなげられると良い。
若者への面白さの引き継ぎ
新たな人材の確保
ガイドを職業としていけるため、旅行業法等の改善
３０と同じ
行政を中心に啓蒙活動を強化し、いろいろなイベントやジオツアー等を企画する必要がある。
後継者の育成。 当ジオパークそのものの方向付けが不明確。
サイトの魅力化の向上と集客のための広報活動
ジオツアーを企画しても、ニーズがある人に、伝える手段・メディア（金のかからない）が不足している
３１とほぼ同じ
1　経済（産業）従事者のジオパークへの積極的参画・関与 2　「あ～ジオね」とか，ジオ談義（世間話・雑談）をする世間（意識）であること。
若い世代へのバトンタッチ
まずガイド自身が、独学で内容を深めること、視野を広げること。ガイドの会が、その補助をすること。
ガイド需要の掘り起こし、宿泊施設や観光施設との連携、ガイド業との副業を認める企業の増加
若手の育成。地域外人材の積極的な活用。
ガイド料のしくみや、他のガイドとの関係
行政がジオパークや観光にもっと力を注いでくれて、もっとたくさんのお客様が地域に来てくれる事。
ガイド組織の確立と一元的活用

若いガイドの割合が増えること
過疎、雇用が少なすぎる
たくさんのガイドの要請。ガイドは有料であるという意識の統一
フィールドワークが好きでないとガイドは無理
スタッフの養成によることの負担軽減。
ジオガイドだけで生活収入か得られる事
お客様を呼び込む仕組み作り。
市町村の支援と振興策
きちんとしたガイドの組織や拠点があること。ガイドの研修や専門家との連携。ガイド養成を充実させる。地域住民の多くがジオ活動に参加できるような機会を作る。
住民の関心たかめる
若年層への働きかけが必要ではあるが、現役世代には制約がある。主婦層、定年前後の比較的若い世代への参加呼びかけが必要
それなりの収入
同じ価値観の方とのコミュニケーションを多く持ち孤立を避けること
ガイドスキルアップするための実際的なワークショップを自由に話し合える雰囲気で持てるといいと思います。お客様とのコミュニケーションはもちろん大切ですが、会員が自由なコミュニケーションを楽しむ場であることもガイド活動を続ける励みになると思います
ジオ協議会や自治体組織・観光団体がガイドの育成に協力して欲しい。ガイド団体が自立して独自の事業を活発にできないのは資金に限界があるから。
持続可能は、成果を求めない事、コツコツ、小さいことを続ける事。
わずかな時間でも活動できるイベント、スケジュール調整が必要。
皆がガイドになれれば９
ガイド育成し一定のガイド品質を保つ
地域全体でのジオパークを推進する雰囲気、地域の理解。

行政のバックアップを必須とする日本ジオパークの姿勢
ガイドが限られているので，その養成を積極的に行う必要がある
体制の構築、計画の早期立案、情報の共有化、適切なリーダーシップ
高齢者はイヤな性格の人が多く一緒に活動するのは難しい。自主的なガイド活動の時に一層感じる。この点で持続可能は難しい。
ジオパークが広く浸透すること
有償でガイドをするからには、いただいた金銭に見合った内容を提供することが基本で原則。来訪者が満足できるガイドの育成は簡単なことではない。行政と団体が、積極的に意見を述べ合い、より成果のあるものにレベルアップしていくことが必要。意見を集約でき、創造性にあふれた施策を推進できる行政マンが不可欠である。
収入を得られるような形になっていない。少なくても箱根ジオパークは。
ガイドの養成
知名度の低さ
若い人材の参加
ガイド活動の普及のため、ガイド教育機会を増やす。ガイド資格を取った後も研修、交流できるような機会を多く設ける。有料ガイドが当たり前という意識をお客さんに持ってもらえるようにする。観光スポットを周遊できるマイクロバスを周遊させるなどの交通事情の離弁花を図ること。
組織として、ガイドしたい登録者をどう活動に結びつけていけるのかが課題である。
若いジオガイドを如何に、地元に定着して、活動をして貰えるか？
魅力的なツアー企画、地域の PR&集客力、ガイド間の協力（楽しい雰囲気作り）
地域のガイドメンバーの資質とレベルの向上
沢山の人を巻き込む
昔ながらの客寄せ・観光利用から、長期的・多面的に活用して貰えるような環境整備。
協議会事務局のリーダーシップとガイド商品の成功事例の蓄積、またそのガイド商品の磨き上げ

①ガイドが任意で使用できる場所（案内所、ガイドセンター：関連資料やビデオなどを利用し自己研鑽できる施設であり、ガイドの集会も出来る）があること。②継続的に専門家によるジオ関係の学習機会（専門講座、講習会等）が提供されること。③ジオ関係の情報が定期的に提供されること。
ガイドの認定制度、養成講座
体力
ガイド間の交流
ガイドを生業として生活できるだけの基盤整備。
人材確保につきると思います
知識
ガイド一人ひとりの立場が多様であり、各々が自分に合った参加のし方ができなければならないと思います。
ガイドの活用体制、ガイドへのフォロー体制が整備されること。
隣接するジオパークや構想地域と情報や資産の共有化と相互研鑽
沢山のツアーをつくり、いろんなガイドができるといいと思う。
ガイドは、個人ですが地域として横の繋がりも持ちつつ伊豆半島全体も考えながらいかなくてはとおもいます。
広域ガイド・多言語対応ガイド・若手の取り込みと育成。 主な仕事と両立でき、かつ余暇をいかして対価を得るしくみ作り。
首都圏からの交通網の整備
ある程度の収入を得ることと、ガイド仲間を増やすことで一人ひとりの負担を少なくすることです。
ジオパーク協議会が具体的な方向性を出せず、ガイドからいろいろとアイデアを出している状態。建設的な協議会運営を望む。
ガイド間の情報交換。楽しみながら出来る環境づくり
安定した制度と収入

・集客の強化。（観光協会やホテル関係等と連携し、相互支援はしているが、いかんせん集客が少ない。４月ＪＲ東日本の静岡ＤＣの吉永小百合さんを使ったＣＭでは抜群の効果があり、現在もその効果は続いている） ・ジオサイト地域住民との関係強化（ガイド個人個人ではなく、ガイドグループとして）
収入の面は有ります。更なる行政との一体化。地域教育との融合。
若手のガイドの育成
若い人にガイドになって欲しい。
楽しい人間関係
ジオパークの認知度向上、地元市町村の関与、若手ガイドの養成
ガイド依頼が安定してあること。
人口増
ガイドの会組織の自立。
より一層の地域の宣伝。、
若い人や外国人が活動できる環境を作ってほしい。
多様なアイデアを受け入れる姿勢
ビジネス化。社会がそれを認知すること
認定されていないがジオパークで交流人口を増やすことが出来ていない
先ず地域の人達がジオパークの良さを理解して欲しい。
若い後継者を数多く育てること、地域の子ども達が地元への誇りを持つ教育を進めていくこと
地域のことに詳しいお年寄りなどのお話を聞く
ガイド相互、行政とのコミュニケーション
31 に同じです
地域住民の共感を得られる活動をする事、仲間たちだけで盛り上がっていてもいけない！

お客が増えること。特殊な例を除いて、一回のガイドが長短にかかわらず 5000 円程度になること。
ガイドの高齢化が課題であるためそのケアと、ガイドの年齢層を広めていきたい
人数確保は勿論、若返りと、極端に言えば企業的に成り立つほどの需要が出るようしたいものですね。
①ガイド間の交流、相互のスキルアップ。②地域社会でジオガイド(自身や仲間)の存在価値が認められ、関心を持っていただけること。
同上
世代交代しても、継続して活動ができるよう、ジオパークにかかわる活動に参加する若い世代・人々の加入。
ガイド料アップ
情報を共有するための必要な研修（スキルアップ)、ガイド知識の平準化。
教育関連での出番を増やせるように，関係機関との調整をする必要あり。
地方公共団体の主体的な関与ではなく、NPO や法人格を持たない地域活動団体が活動していてもジオパークと認めてもらえるような基準の緩和があると活動は続いていくような気がする。
ガイドする人達が運営する組織が補助金を頼らなくても運営出来る為の収入
互いに連携して、情報交換やスキルアップを持続していく。
ガイド料金を安くして　チャンスを多くの人に与える
ガイドの数が増えると、みんなで顔を合わせて意見交換するのが難しくなるので、それをどうやって行うかが課題だと思う。
ガイドの知識の知識アップ
楽しみや悩みを共有できる空間がある事。
当ジオパーク　　全国に知られていない
若い人も参加する　　地域の人の理解と応援
需要と供給のバランス

無理をしない
地域に複数あるエリアのうち特定のエリアだけで活動したい
情報の共有と、ガイド同志の親睦。
特になし
地域の理解、観光業者の認知、
みんなでいかに、協力し合い、話し合い、学び合いジオパーク活動目的を共有し合うこと
グループ, 班ごとに連携を取りたい
ガイドコースの設定、人材育成、組織化
ガイド向けの講座や勉強会だけでなく、少しでも興味があるがよく知らないなどといった方向けの何から学べばよいのか分かる入門の様なものが欲しい。
あこがれの格好良いジオガイドになること
高齢者が多いので４０～５０代のガイドが欲しい。英語対応ガイドの人数増加。
各々のガイドの得意分野での活躍の場の提供。
ガイド同士の情報交換
ジオサイトの保全等
ガイド内容を充実させつつ、それに見合う対価をきちんといただくように一地域だけでなく全国のジオパークで土台を作っていくこと。誇れる内容を作って広報し、売り、実践を重ね、対価で得た収入をお客様に返していけるように、みんなでレベルアップを図っていくこと
ガイド育成。
ガイドの数を増やすこと。
ジオパークに含まれていない市町村の支援（広報等）
まず、組織をちゃんとしてジオガイドが頻繁に会う機会を作ること。それによって話すことによって、いろんな問題をあぶりだし解決していく。
若い仲間の加入、仲間づくり。

情報共有
若い人を育てる
「ジオパーク」ブランドの浸透による　期待感の醸成
学生や若い世代のガイドを育成し、ベテランの知識技術を伝えること
積極的に参加する事が出来るような仕組み作り。
若いガイドの養成。
ガイドを養成するプログラムと、ガイドのコーディネート体制
組織化
地域や教育現場に、啓蒙活動をしたり、多種多様なジオツアーの企画をしていくこと。
新しいガイドを育成していくこと
意欲的なガイド仲間を増やしていくこと。特に若い仲間。
金銭的充実と情宣
地域の連携、ガイド業界の労働環境の改善
先に述べたようにジオパークを推進するには専門家の育成、ガイド育成が必要です。ガイド自身が何より地域の自然のファンであり、地域の環境についてもアンテナは高いです。ガイドが憧れの職業になることを祈っています。
ガイドの高齢化　後継者不足
ベースとなる教育制度があれば、多くのガイドが活動できると思う。長く活動するには地域内にある勉強会等に参加し、知見を深めていく事がひつようだと思う。
ジオガイドとして活躍できるツアーが定期的にあること。そうすることで、その地域でのジオパークにたいする認知も定着していくのではないかと思う。
個人でやれる範囲は限られているので、活動団体として組織的 効率的な運営が必要だし、新人の補充も必要。
地域の方にもっとジオパークを知ってもらうこと。

前にも書きましたが、組織の運営が安定する事、若者が食べていけるほどの収入を得られる仕組みづくり
埋もれた魅力の発掘、繋ぐことで新たな価値を生む。
ガイドを育てること
ガイド要員確保
次世代の子供たちが学習できる環境づくり。伝承文化への参加。見る・食べる・学ぶを満喫できる企画づくり。
ガイド拠点でガイド同士の交流が気軽にできる雰囲気、仕掛けつくり。
地域の発信力、行政の積極性と支援
ガイド同士の交流を密にすること。共同で知識を得る事。新規のガイドを増やすこと
若い年代(３０代、４０代)のガイドの育成とガイドとしての魅力の発信
会員相互の交流。金銭的負担の軽減。
会員相互の交流。金銭的負担の軽減。
ジオの素晴らしい場所をもっと地域の人にわかってもらいたい。
これからガイドを目指そうとする人たちが頼れるような情報の周知、組織化が必要。経験のない人が安心してガイド活動を始められるような仕組みがないと、より多くのガイドが参加し、長く活動を続けていくのは困難だと思う。
行政のサポート
有能なプロガイドがジオパークの仕事をしたいと思える環境づくり（行政や学校が安易にボランティアガイドを使うのではなく、ガイド業に対する価値を認めしっかりと賃金を払うこと、それに対してガイド側が責任を持ちレベル向上に努める循環を作る）
ジオパークをツーリズムに結び付ける。（一般の観光客の関心を高めるための発信力）
組織力の強化、新人・若手の育成、地域社会との連携協力など。
高齢化、家族の介護との折り合い
推進協議会の会員のさらなる協力

観光に携わる人達の意識が低い
ジオパークの活動が地域にとって有意義であることの浸透。地域住民の主体性。
世代交代。
行政に（なるべく）頼らないシステムの構築と、それを持続的に運営できる体制づくり
ガイドさんの増員
ツアー客が来てくれること（ほとんど来ない）
適宜講習会などで実働できるガイドを育成し後継者の供給を図る．また地域でガイドが生き生き活動し続けるためには，ボンティア活動も必要だがメリハリある対価も必須だと思います．
後継者の育成
お客様の満足度が収入につながる手法の確立が必要。
ジオパークとしての地域をみんなで共有出来るようにしていけたら良いなと思っています。
現在活動している地域は観光地でないため、ガイド収入で生活できるだけの仕事がない。また行政を中心にスキルの未熟なボランティアガイドが多く養成されたため、プロのガイドが活動できる機会が無料のボランティアガイドに取って代わられている。そのためガイド料として地域に落ちるはずだったお金が落ちず、地域経済が潤わない。観光地域づくりをする上でプロのガイドとボランティアガイドの棲み分けをし有意義なガイドサービスには対価を支払う文化を作っていく必要がある。
若い世代や女性の方々の育成や活躍出来る場の創出。
ガイドの人数を増やす
３１のような内容でガイド用の Document（スポドリ資料と呼んでいるが）を貯めていくことが資料として残り、これから 10 年、20 年と継続するのに必要と思う。
新しい年代のジオガイドを育成する
健康
ジオパーク主催の活動や、ツアー。子供や地域住民を対象としたイベント。
ガイド同士の協力体制、励まし

健康の維持、地学の知識向上
ｼﾞｵガイドとしての自覚を持ったガイドの確保が課題。 現在のガイドの年齢層が高いこともあるので、養成講座の仕組みを改善し、新規の養成講座の実施に繋げて欲しい。
同上。また、ガイドの会は最初は行政から専属の職員をつけてもらいたい。
対話して、みんな仲良くする。関係者が他者理解しあい、意見を出し合い、ガイドする環境も整えていきたい。先輩ガイドと、後輩ガイドがペアで、教育指導するプリセプター制がいいと思う。ガイド用の帽子、ファイル入れバッグ等の支給もしてほしい。
もっと地域の人がガイドをやってみよう□と興味を持って貰う。
特になし
ガイドの相互のコミニケーション、継続的な研修
ジオと地域との認識共有や繋がりをもっと作る事。
若い現役世代がどんどん続くような持続的なガイド組織・活動をめざさないと自然消滅する恐れがある。
近年発生した地震後や火山の噴火活動の風評被害で、地域の来客者と共に、ガイド件数も減少している。被災地域の復興ガイドは行っているが、来客数の増加が課題である。現在の来客者は日本人より外国人の割合が多く、現在は外国語対応を重要課題である。（ガイドは頑張っているが、自然災害などに対しては限度がある。）
ガイドだけで暮らしていけるだけの仕事量。それに見合った収入。
現状では定退した高齢者が主体なので、若い世代がガイドに入ってこれるような環境（収入的に）が必要。
ガイドの量と料金と質。ガイドが生活できること
「ガイドの話を聞くと面白い」ということが広まるようにすること
事務局の人材と費用の確保
ガイドの自治能力が高いのが災いして、事務的な負担が多い。事業化、法人化を通じて事務作業専任スタッフを確保あるいは作業の外注をはかり、ガイドがガイド活動に専念して稼ぎ、地域経済や自治体の税収に寄与する、といったビジネス的なモデルの構築が必要。成功事例を作りたい。

収入
当地域の現在のガイド認定制度は、５回位の研修とジオ検定で合格ですがその後、相当、意欲をもって勉強しないと、お客様を御案内するのは大変であろうと思います。かと言ってハードルを上げればなり手がなくなるし、その兼合がむつかしい所。
①仕事として間に合うだけのガイド収入を得ていくには、その料金に見合う内容（商品価値）が必要だが、そういったプロ意識を持って活動をしているガイドはそれほど多いわけではないように思う。　②一度ガイドの認定を受ければそれでいいわけではない。積極的にガイドに応募し、自分の知見や技能をブラッシュアップしていかなければ、認定取り消しをなってもやむを得ないと私は思う。　③ガイド同士の研鑽と切磋琢磨が必要。単なる親睦団体、仲良しクラブは不要だ。
全体的に新人ガイドが生られず、今のままではガイドの高齢化に早く世代交代の準備しなければならない　若い人にはガイドの収入が少ないので無理、私達は、年金があるからやっている。
地域への交通面・・・（高速道路がまだ・・・）
６０才以上の高齢者が多いので、随時、若い世代の人の加入が必要かと思う。
ガイドに対するステータスをもっと上げて、何らかの特典があれば良いと考えています。
ジオサイトの整備
他の地域のガイドとの交流、意見交換、そして仕方、安全確保、ガイドの確保、退職年令も高くなり、退職後に研修、体力も無理。若い内にガイドの認定になって欲しい。
まず多くのお客様に島原半島に来ていただく事です。いかに島原半島のジオサイトを回るかの周遊コースと交通方法を充実する事だと思います。
高令者が多いので若い人達を育てていく事が大切を思います。若い人は、仕事（本業）子育て等でなかなか育たないのがどこも問題の様です。
31 の答えと同じ
①ガイド料　②事ム局の協力、支援
子どもたちの育成。
○地域のインタープリターのネットワークや市内の観光ガイドも高齢化が進み苦労している。考え方も固定観念，市でも観光推進協議会で「観光ガイドボランティア研修会」を実施しているが，参加者に若者は少ない。

・ジオパークの認知度が足りない。　・ジオパークの存在価値が不明瞭で地域に根ざしていない。　・ジオパークを辞めた地域の提出した課題を真剣に議論すべし　・ジオパーク活動に取り組んで良かったと思える様な活動抜きに発展は無い
行政が地域の魅力を発信して、お客の増加を図ること
有料ガイドではあるが、職業として成立する金額（報酬）には全く及ばないという点ではボランティアガイドと同様である。従って年金生活者や自営業者がガイドしている。 現状では若者の後継者養成は非常に難しい。
①マネジメント体制の充実（給与、権限、企画力。組織運営、人材確保のポイントです）　②ガイドの自主的な学習（レベルアップのポイントです）
・若手ガイドの応募、採用　・地域住民の意識化
現状のまゝで良いが、交通網が良く成れば人の動きも出来る。
１ジオパークの認定ガイドの養成　認定ガイドを受けれない者に対しても何らかの資格？がないものか。　２管轄するジオパークの市町村でのガイド料金の統一
・地域においての我々の認知度、活動しやすく　・地域でおこなわれている清掃活動日に始まる前に一言。（保護、保全、維持、災害についてジオの話する）
ガイドが高齢化になってきており若い人が入ってこない、または育たない。 当エリアではガイドはほとんど有料ですが、それでもガイドだけで食べてゆける人は極々僅か。なので必然的に第二の人生を送る年代の方々が多いです。熟年者は、落ち着いたオーラと豊富な知識があるという良さがありますが、若々しい方の元気の良さと新しい発想も必要です。 若い世代の人たちにとって、ジオガイド業が生業として魅力あるものに感じられるようなジオパークを目指してほしいと思います。
地域を学ぶ、エリア住民からも、ジオパーク担当者からも、学術関係者からも、普段に支援・指導を受けガイド実践することで、ガイド自身の資質向上が適うものです。現状ガイドの活動機会が少なく、客待ち・自主勉強的な状態～ジオパークツァーを意 識的に造成していただくよう市町村は心掛けていただきたい。
現在、ガイド人数に対してまだまだガイド依頼が少ない状況です。結局は予算の確保が第一です。使途はジオガイドの自主研修ツアーや講習会費用、 全国大会の参加補助、よそのジオパーク交流交通費補助などに。

ジオパークガイドの認定はされているが身分確保や報酬については確立されていないので後に続く人が増えていかないと思われる定年退職者の集まりでは将来の形が見えてこない
大勢の人が参加して、少しずつでもよいから力を出し合えればよいと思う。
地域に眠る資源を掘り起し、それを魅力的なものにしていくこと。
担当部所とガイド間のコミュニケーションを密にして情報を共有すること
特定の人に集中しすぎない発注。
・ガイド料の設定　・ガイドが増えるように、ガイドしたい、できると思えるような取組
ガイドはとてもやりがいのある仕事ですが、人口減、高齢化により、高齢者の方が多いのが現状です。もっと若人が興味を示す様な工夫が大切を思われます。

（33）ジオパーク推進団体や行政にどのようなことを求めていますか。実現が難しいこと、または過去に要請したが実現していないことなどでも、どのようなことでもいいのである場合は書いてください。

特になし
どのような方向性を持っているのかとか、課題を共有したりとこれまでもコミュニケーションを大事にしてきたのでこれからも連絡をとっていきたいです。
PR の面が物足りなく思うことがありますので、行政も頑張ってくださってますが…もう一息！ ガイドが適正な人数に保たれるようにして欲しい。 狙いもあるとは思いますが、大量生産できる役目ではないと思います。
（３２）で掲げた課題の解決及びジオサイトの整備
行政とガイドの協力体制が確立していないこと。行政が縦割りで、担当者が変わると連携の仕方がまったく変わってしまうこと。
予算、職員の不足。行政内の連携不足
協議会長のやる気本気です。 今回の全国大会では、首長さん同士の意見交換が活発に行われたみたいで、良い流れをもってすすめられたらと思います。 議会のジオパークにたいする勉強と議会がひとっにまとまることの重要性、です。 もちろんボトムアップ方式も推し進めながらですが、
ジオポイントの整備、ジオストーリーに合ったコースの設定等、
公開講座や研修の実施
市から補助金のアップ
地方はどこも人口減少、高齢化や税収減収が深刻です。全面的に行政にぶら下がりはできない。 ガイド団体も現状を把握して、ジオパークを止めないように工夫しながら自分たちの出来る取り組みを積極的に進める必要がある時代に突入していると感じている。
なし
活動の中心にある団体をもっとバックアップすべき。推進させるのが協議会であるため
余りありません

「ガイド業を生業にしている者」と「余生や余暇を有意義に過ごすためのボランティア感覚の者、宿泊業や観光施設のサービスの提供のため」と大きく分けると２つに分かれるジオパークガイドがいるように思う。そこで、勉強会やワークショップ内で、講演を聞く分には、問題はないが、両者を同じ土台でグループワークをさせるような内容のものは、やめていただきたい。前者のプロのガイド業者は、すべての知識、技術は、資産であり、それをどのように表現し、サービスとし、お客様を喜ばせ、対価を得るかということが生業になるわけで、ボランティアや競合する者に対し、無償で披露させるような場を作るようなことはしないでもらいたい。プロで活動している方が参加する場合は、配慮してほしい。
以前、そのようなグループワークの際に講師（他社のガイド）に強制的にグループワークのリーダーをさせられ、講師は、講師料をもらって技術を公開し、なぜ、プロが技術を無償で公開させられなけらばならないのか。推進団体や行政は、本当にその辺を配慮してほしい。
また、ガイド業（体験等）自体は、成長市場です。
ある程度の知識や質の向上面での向上を図る部分での、GP 推進団体や行政のリーダーシップは、重要であると思うが、将来的な業界全体のビジネス的側面が欠如している傾向にあり、現行のガイド単体の案内料金が、適正か否か等の部分でいうと、現行のジオパークのガイド料で生計を立てられるかどうかでいうと難しいと思います。その点でいうと、適正な料金にあらず、地域で活動するガイド業者（民業）への圧迫が見られるので、ビジネス感覚や市場全体も考慮した指導もしていただきたい。低料金でなければ客が来ないのであれば、その程度の技術しかないということと、ユーザーから見て価値がないということ。
ジオパークが、増えている現状で、他地域のジオパークと連携することも多く見られるが、逆にどこも同じような感じで、差別化やブランディングができていない。連携も大切だが、もっと競争意識を持って切磋琢磨した方が、より進化するスピードが向上され、新たな魅力も想像されると思う。

看板の増設　旗竿、パンフの増刷等予算が？と言われると・・・です。

行政の職員は数年で移動するので、一貫した Geo の理念に沿った行政運営に取り組んで欲しい。(外れの年があれば、遅滞してしまう)

新しい説明用拡声器などの購入。きめ細かく多彩なガイドメニューの設定

行政を中心に啓蒙活動を強化し、いろいろなイベントやジオツアー等を企画する必要がある。

関係する各市町のジオパークへの思いが不明確。方向付けが不明確。
そのため、時としてガイドの活動方向がぼやけてしまう現況。

担当者を置いて関心を持ち、実情を把握し改善するための金銭的、人的、精神的支援を頂きたい。

推進協の人数が少ない

当ジオパークでは相当数のガイドが誕生しているが、いつでも自由にガイドが待機し、学習・情報交換できる専用の施設が必要
1　観光行政の金魚の糞的感排除 2　不透明感（私の透視能力不足？，犯罪の疑いではありません） 3　首長さん始め関係部署職員の積極的な関与 （当該地区の行政は，大都市でないので住民により近い距離にあると考えられます） 4　特に首長さんにあっては，選挙のときには具体的に施策を唱えますが，就いてからも具体的に発信・提言・発想をして欲しいものです（就いたら多忙なんでしょうが）
学校(小学生、中学生、高校生)での体験学習強化
今のところ、求めることはありません。新たな組織を作る必要があると思っています。
①ジオパークの位置付けの明確化　②ボトムアップ型への移行（一つの方法として、事務局を行政から離す。お金は出すが口は出さない。日本では難しいか）
ジオパークエリア内の全小学校での、フィールドワークを含むジオパーク出前授業の実施
ガイドの会の統一化
ガイドになってから間がないのですが、市の観光課、観光協会、ジオの協議会、ガイドの会。関係するいろんな団体のメンバーが同じ方向を向いている事。
構成町村での意思疎通に時間と手間がかかるようだ。
ジオパーク推進協議会事務局は情報の透明性を高めてほしい。協議会事務局は情報の面でオープンではない。どのような活動をしているか見えない。
行政への働きかけ
ジオパーク事務局学術専門員の負担軽減。災害記念館との連携。ガイドスキルアップ。市町村出向職員の任期延長。ジオパーク関係職員以外の公務員のジオパークへの理解。
本当にやる気があるのか　熱意が感じられない。
ボランティアレベルの人を排除して、プロがガイドをやりやすい環境にしてほしい。
ジオパーク内のジオポイントの保全や見学しやすい整備が必要な箇所か多数ある
お客様を呼び込む仕組みづくり、観光へもっと力を入れてもらいたい。

市町村に対しては、質問 32 と同じ。一過性でない継続的な振興策。
ジオパーク推進団体や行政の関係者は、ジオパークに関わる各種業務で疲弊していて、地域住民やガイドやジオ愛好家と「何か新しいことをしよう」という余裕がないと思う。もっと多くの人々がジオと関わり協同して何かできる場所や機会があればと思う。
住民、児童への教育宣伝
推進団体と実働ガイド部隊との接点が少ない、定期的に頻繁な接触の機会を設け意思疎通や情報の共有が出来る環境が必要。
行政が主体的に活動されていない。
ジオパークという名称の浸透を目的とする宣伝告知とメディア露出
緊縮財政だからお金のかかることは NO ですので期待はしていません。本当にクラウドファンディングでも立ち上げたいくらいです。ここは新しいジオサイトにしたいがという場所やトイレやベンチがあればとは思いますが。
ジオ推進団体はガイドの研修に足(車)の便宜を計るなどの協力が欲しい。
行政に求めるのではなく、日本ジオパークが、地域の特性を理解してもらいたい。地域地域に持続可能にするための方法は違う事を理解しないと、行政が理解できないと思います。
ボランティア活動の一環として活動を始めたのですが、ボランティア精神に反するけれど、活動の評価もされたい。
出来ない無理という前に問題をどうすれば解決できるかと言う発想を持って頂きたい。
ジオに理解がある・ないガイドがいるので融合をはかる。 新人を養成し一定水準のガイドにする仕組みと教育。
看板や拠点の整備などを実施してほしい。その際に、実際にガイドと連携してよりよいものになるよう、協力できる体制も必要だと思います。
資金　人　お願いしたいですが、元は私の血税なので、一方的には言えません
ガイドの勉強会や現地研修を行って，ガイドを増やすとともに，ジオパークのストーリーやジオサイトの基本的な知識レベルアップを図ってほしい
市民活動部会等の役員は 2 年で交代する。長く固定しない。

特になし
市や行政が推進者であることはある意味必要であるが、それは市長の気分と予算次第。やはりコントロールタワーに人材が必要だし、２、３年で移動することのない専門的な資質を持つ優秀な人材の確保が必要であることは言うまでもない。
一体何のためにやっているのか不明。観光に活かすのであれば、ガイドに収入を発生させる仕組みを設けて当然だと思うし、地域住民に教育を依頼するのであれば、自治体等がしっかりと謝金や賃金を支払うべき。
ジオパーク大会等はガイド力向上他大変役立つが、費用が高くいかれない。交通費の補助等あれば参加し研修したい。
地域コミュニテー（公民館活動など）との連携
ガイドの仕事が増えるような広報活動をたくさんしてほしい。ジオパーク認定前後だけでなく、その後の活動にも力を入れてほしい。予算を削ることがないようにしてほしい。エコパーク認定を是非してほしい。ガイドの車で案内できるならとてもやりやすい。交通事情の利便性を上げる工夫をしてほしい。小型バス、タクシーなどシェアできるようにするなど、アイデアが欲しい。
認定受けている市町の担当者の理解不足が多い。行政にとって、このジオパーク活動は幅広い分野にもつながっているもので、行政活動としても大変意義ある施策であるにもかかわらず、行政担当者の不勉強さが目立つなど、行政の本気度が弱く思える。これらの改善を望みたい。
ジオガイド会の発足は、行政主導だったが、現在は、会員の会費での運営で全く行政から、補助金等の支出が無いので、遠くのイオパークでの交流が出来ない。
専門員の配置。ジオサイトに関わる新しい情報の素早い共有。
業務だからやっているという感覚から、本気の取組み（ジオパークは本当に楽しいと訴えられる活動）への転換が必要ではないか。
もっと地域を巻き込んで欲しい。消防署や農家とか。一般の町民を。
単なる「利用者増加」ではなく、活用して貰う目的や利用者層、提供内容を明確にし、長期的な視点に立った運営をしてほしい。
活動のリーダーシップ、また旗振りの役割を行うためには、短期・中期・長期それぞれの KPI を設定し、検証することを繰り返してほしい。経済活動においても、文化歴史の伝承にしても、教育、自然の保全活動にしても。

ガイド養成、施設整備
廃校の利用
啓蒙活動を精力的にやってほしい
大会などの参加に関わる経費の助成
はい
推進団体はガイドを単なる要員と考えずに、いっしょに事業を進めるパートナーとして正しく位置付けてほしい。
ジオパークの中心となる拠点施設がまだないこと。便利な場所にぜひ開設していただきたい。
協議会事務局は一生懸命やっているので求めることは特にない。もっとジオガイドを活用した事業を考えてもらえたら尚よい。
身体的に困難な人も参加できるといいな。環境つくりをしてほしい。
行政の方達は、持ち場のお仕事もおありで大変とは思いますが、この地域の大地に住んでいること個人個人思いを持って世界ジオパークを理解していただきたいとおもいます。
認定を出す団体は、ガイドの活動状況を把握すべき。認定を受けた当初は、経営マネジメントの相談をするとか、イベント等を企画・実施して活動頻度の低いガイドへ仕事の分配を考えるとかしてはどうか。
行政主導で作成した案内看板、ホームページ、パンフにいつも間違いが見つかる。地図などが間違っているのは致命的。訂正にも対応してもらえない。真剣にチェックをできないのなら、チェックができる人材に委託するなど、ちゃんとした広報ができるようにしてもらいたい。
・現在のエリア内は複数市町での構成。例えば、ツアー企画をして集客する場合、それぞれ単独で行うのではなく、複数行政が協力し合う体制がとれないものか、悩ましい課題　です。→現状、１行政単位での考え方がほとんど。
本当に地域教育の一環として教育委員会の協力や各学校の授業としての地域教育（中高含む）
ジオサイトの整備、ガイド養成。
特にありません
広域ジオパークにも拘らず、推進協議会事務局の態勢が脆弱

アクセスの困難な地質露頭現場への、道路整備。
トイレの整備
ジオサイトへの二次交通の（段階的）整備。
今は資金がないので、ガイドの会の、専属事務員がいないので将来的に、有給の事務局員を、おきたい。
もっと自由に活動できる環境を提供してほしい。
ジオ専門員が不在である
私はガイド暦が 2 年ほどです。7 割ほどの人達が 8 年以上の発足当時学習会が頻繁に行なわれた当時の人達で、近年当時ほどの学習会は行われておらず、資料･聞き取り等行っているが、裏話等は収集難。熟練の方でも新情報に疎い方も多々おられるように思う。ガイド情報交換会のような有効なことを実施して欲しい。
多地域にまたがるジオパークでは行政の温度差があることに加えて、担当者が短いサイクルで交代してしまい継続的な取り組みが難しい。
説明に必要なカラーコピーなどの予算を充実してほしい 持ち出しがかなり多い
必ずしもジオパークに拘らなくても地域の魅力が発信出来ればよい。
早く認定申請をしていただきたい
地域公民館のジオパークツアーが人気あり、平日と祝日の両方してほしいと要望していますが、実現しません。予算がないといいますが、地域住民の共感を得られる行事の中からジオパークに対する理解が広がると思っています！
長い目で見ること。ジオパーク活動に熱意を持つこと。
行政は、幅広く活発に事業をこなしており、感謝しています。
広域で難しい面も多々あるとは思いますが、頑張っていると評価しています。

当地域のジオパーク事務局に対して体制強化を望む ・あらゆる物事に対して連絡や調整が不十分で、地域団体やガイドが振り回されている ・何らかの新しい事を実施する際も相談がなされず、決定事項を聞いて終わる状況にある ※上記に対し、関係者全員が強い不満や不信感を抱いている。 先日、再認定審査が終わったものの、関係者からは「このままの状況なら、却って再認定にならない方が良い。大変なのは自分たちだ」との声が聞かれた。
市の対応が悪い
特にありません。
専門員を半永続的に雇えるような体制づくりをしてほしい。これまでに，いくつかのジオパークに関わってきた（ある意味現在も関わっているか？）が，ガイドにとってもジオパーク活動を展開するにも，専門性を持つ人材は必要。地域おこし協力隊などではなく，きちんとした正規雇用にしてほしい。
（３２）にも記載したが、SGDｓの理念にもあるように、多様な形態のジオパークの運営体制を認めるような態度も JGN には必要だと感じている。
当地区には素晴らしい山があるのですが、県主体の自然解説員が常駐しており無料でガイドをしているなど、ガイドに対する対価についての意識のずれが大きいと感じます。当地区も沖縄諸島や信州など自然ガイドでお金が取れる質の高いガイドを目指さなければとはおもいますが、あまりにもガイドには無料だというイメージが強すぎる気がしますのでなんとかして欲しいです。
専門員は頑張っているが、各部会の連携不足、事務局の人員不足は否めず、なかなか推進活動が進展していない。民間主体というもののもう少し行政支援がほしいところ。資金も不足している中で頑張っている方かも。
できるだけガイドと運営組織（行政を含む）の関係を密にしてほしい。なるべくみんなが同じ場所で話し合いや懇親の場をもつことが、ジオパークを継続していくためには必要だと思う。
ガイドと行政の連携、役割を理解共有して進めていきたい。行政側の企画を望む。
推進協議会の機能が十分でない。積極的な議論がなされる環境づくりが必要。
地域の伝承民話伝説を取り上げガイドの説明の要点としてほしい
ジオサイトの案内板の設置　－要望中　ジオサイトの学習護岸の岩石を洗ってもらう、地域にある砂防事務所がいいかも、管理しているので一個人の考え
ガイドが活動しやすい機会

万一事故が発生した場合の損害賠償保険
推進協議会の担当職員が変わりすぎる
意欲をそぐような、指導（審査なども含めて）となってはいけないと感じる。
特になし
二次交通問題の解決、地域への普及活動、
推進団体とガイドとの話し合い
特に関わりは求めず、自力やガイド間でのネットワークの中で取り組んでいる。
小中学生の授業の中にジオパーク活動を組み入れたい
特になし。
ジオガイドと従来からある地域のガイドとの調整。
行政主導でのジオパーク推進の充実
国立公園内の管理の協力
誰かに何かを求めるよりは、うまくできないことは自分の関わり方にも問題があると考えて、自分にできることを考え、みんなで解決していく方法を探るべきだと思います。批判は多くが相手ことをよく知らないことから起こると思っています。ジオパークがその間をつなぐことができれば良いなと考えています。
看板の設置。
看板の設置。
二日間続けてガイドする時の宿泊費
つくづく思う行政の職員は移動があるからジオガイドと距離、温度差を感じる。行政の職員の中には面白い意見やこうしたらとか考えを持ってる人がいるが責任の関係で発言を控えてる人が多い。
観光地の防災やトイレや施設の整備。観光地にアクセスする道路整備、交通整備。冬季にアクセスできる道路整備。
情報共有

事務局を近くにも置いてほしい。
ガイド会起業時の　コンサルティング等人的支援
情報を流してほしい、ボトムアップと言って民間に押し付けるのではなくて一緒に活動したい
今はまだ勉強中なのでなにもありません。
児童、生徒に分かり易いジオパークの授業を進めて貰いたい。
自分は地元の行政職員でジオパークの担当のためガイドをすることがあるが、他の部署に異動となった場合、ガイドに出られるのかどうかが懸念されます。自治体内で柔軟な対応が可能となるようにしていきたい
行政のスタッフ数が少ない。市町村での考え方にばらつきがある。予算が少ないので、活動がやりにくいのでは。まずは、地域の代表者や学校の先生方へジオパークの理解を深めて欲しいです。
他の活動団体との連携を高めること
安定的な予算付け、組織の人員の確保。
一番は　経済的地域向上を　もっと目指し、目標に掲げて地域の浸透を図る努力をしてほしい。それがジオパークを存続させる大きな力の一つと考える
行政の方々が本当に地域の成り立ちや環境などについて知識を持っているのか疑問でもあります。職員募集の試験や、職員になってからの昇進試験制度などがあるのなら、ジオ的な内容の試験を実施するのもありかなと思います。勉強する時間がないとは思えない。 人を育てるという気がない。育てるためには最低の投資は必要です。推進室などがある行政の地域はエコツーリズムもジオパークでも活動は活発です。
行政がジオパークについてもう少し関心や理解を示してほしい。
求めていない。何を求めればいいのか、考えていない。
ガイドの意見がきちんと上まで通る組織作り。
構成している市町村だけでなく、ジオロジー的な意味で関連ある周辺の自治体との連携、更には県からのサポートが必要。
４年に一度の更新の２年ほど前から、突然熱心になったりするような気もするので、コンスタントに研修とかしてほしい。

上記の事柄
せめて学校の先生並みに評価されるよう公の評価を高めていただきたい
勉強会、研修会の開催
次世代ジオガイドを育成するために、ビデオなどのツールを使い、ガイド養成講座に力を注ぎたい。
拠点に資料室をつくり、市報、地区大学、放送局、出版社などの過去データ、出版物にふれ、無料でコピーをとれるように。ガイド用飼料の著作権の解除。簡単な工作室もあるとよい。
ジオパーク関連部署や制度と、他の事業や制度との連携。例えば（悪い事例）魅力的なジオサイトのすぐ横で開発工事をするとか・・・
行政内部のジオパークへの関心、関与の積極性の欠如。ジオパークは行政の業務外に置かれている。
ジオパーク事務局員は数年の期間限定職員です。もっと長いスパンでジオパークの事業に取り組めるような経済的・組織的な対応を行政には望みたい。若い職員が将来的な展望を持てるように！
なし
なし
ジオに認定されらた年は、観光客も大勢いたのに　今は、少しで残念です。
ジオに興味を持っているゲストが我々ガイドにもっとリクエストをリクエストしてくれるよう、的確に誘導してくれるチャンネル、システム、情報網を整備してほしい。ボランティアの団体がそれを実行するのは簡単ではないので、やはり公的な団体の力に頼るしかない。潜在的なジオゲストを的確に誘導するシステムの確立と、ガイド個人を組織化して統率することを公的団体や行政に期待したい。
地域にマッチした案内版の設置、ポイントの実情を把握した対応

当地域のジオパーク協議会には認定ジオガイドの厳選を行ってもらいたい。現在いる認定ガイドのうち、実際にフィールドに出てジオサイトを案内している者は多く数えても半分いるかいないか。中には資格だけ取って満足してしまう人もいる。それだけならまだしも、管外視察の時だけやってくる人さえいる。更新制にするか初級・中級・上級とランクアップする制度を設けるなど、改善・改革してほしい。一方で、フィールドに出ないまでも簡単なジオパークの説明ができる人（糸魚川のジオパークマスターのような感じ）の認定制度がほしい。いずれにしろ複数の認定制度を用意すれば、個々の目的に応じた棲み分けができると思う。 行政には、ジオパーク推進の熱意をみせてもらいたい。町や観光協会のホームページ（トップ画面）をみても、ジオパークであることは表示されていない。行政に対してはどうしても批判的になるが、こういうところに姿勢が現れていると思う。ジオパーク再認定の時の条件に加えてもらえませんか･･･！？
協議会を構成する行政が複数であるため、行政間の連携をもっと密にすること。
これまで、要請したことはありません。
行政（観光商工課）や観光協会ともう少し意思の疎通ができればよいと思います。JR 駅の周りにジオパークをＰＲするものがなにも無いのはさみしいです。
行政関係者がジオパークを理解していないので、住民にジオパーク活動が伝わりにくい現状がある。ジオパークを自分事としてとらえてほしい
行政とガイドの絆が薄いと感じる。
国（国土交通省、農林省水産省（林野庁））、県の積極的な関与応援をお願いしたい。
ジオパークツーリズムの構築と全体の質的向上
ガイド経験がないのでわかりません。
学校等を対象にしたフィールド学習や自然体験が出来るようにしてほしい
地域社会へのジオパーク概念のより一層の浸透.
多様な利害関係者が意見交換できる場がもっと必要である。

市や市役所の支所の観光課がジオパークとは別に独立している。ジオパークのガイドは観光課に関われない。ジオパークは教育の部門だと言われる。 県の主催する県内ガイド団体向けの無料講習会や座談会等に参加出来ない。(市内の地域団体ガイドが参加する為)ジオパークガイドは自然保護活動団体と同じような扱いとなっている。 知る人ぞ知るジオパークでも良いのかも知れませんが、活動の基盤、方向性をハッキリとさせて出来ること、出来ないこと明確にして欲しい。 と事務局には言ってきているが、「返答は時間がかかる。１度には無理だ。」 ジオサイトの美化、清掃に関して 自然の中に入っていくのである程度の危険や整備不良は当たり前かも知れません。安全は自己責任かも知れませんが、せめて遊歩道と名前のついている範囲だけでも安心して人が通れるようにするべきではないでしょうか？ 返答→「ガイドさんが下見を兼ねて掃除をして頂いても構わないが、担当のガイドによって綺麗だったり、そうじゃなかったりするのは良くないのではないか。かと言って担当ガイドが掃除をするのも無理があるのではないか。」 この件は、ジオサイトの近くに市の管理している公園、施設がある場合のみ、ガイド実施日に合わせて既存の清掃担当者に仕事として清掃を依頼する。その他のジオサイトに関しては今後検討していく。となりました。
ジオパークの運営がジオパーク推進団体と行政だけで進められており、現場で活動しているガイドが参加する場がない。また運営に関する情報も現場には届かず、ガイドをふくめた地元関係者の意見や要望を伝える窓口もないためジオパークの運営が現場サイドとジオパーク推進団体の間でちくはぐに乖離している。ジオパークの運営にあたりガイドがもっと運営に参加できる場作りと情報開示を引き続きジオパーク推進団体に求めていきたい。
ガイド組織が自立可能な予算の配分。
100 人超いるガイドが利用できるグループウエアの HP がお互いの情報交換には必須と思う。ガイド自体同じ市とか町にいるわけではないので連絡板・掲示板の有効利用が必須。また、簡単な会議はできるだけ Skype など電話会議でやるようなことを考えるべきである。
特に無し
組織、金銭面でのサポート。ボランティア任せでは活性化しない。
なし

地域にあるジオパークを、住んでいる県民に広く周知・普及できるよう、環境を整える努力をしてほしい。看板を増やしたり、広報などで魅力やツアー紹介を重ねてほしい。
サイトの看板や案内図を街頭に増やして欲しい。
一言でいえび、他者理解。 行政は、観光課、地域住民、ガイド、サポーターなどとの、コミュニケーションをよくして、他者理解してほしい。
特になし
日本ジオパーク協会や行政に、もっとジオパークの意義を PR して頂き、積極的にお客様を招いて頂きたい。 もちろん、ジオガイドの働きかけも大切。
将来的にプロのガイド、ガイドの産業化につながるような方向性と具体的な措置の提示
ジオパーク推進事務局体制を強化すること。事務局員の雇用体制（マンパワーや給与永年雇用保障など）を見直し、ジオパークを専門的に担当し、関係地域との連帯関係を向上すると共に、対外的にジオパークをＰＲする。推進事務局がガイド協会員の学問や安全教育及びガイド依頼受け入れ窓口として機能出来ること。そのためにはジオパーク推進団体や行政（国・県・市町村・国立公園・・・）の応援支援体制が絶対必要である。ジオパーク認定だけに注力する現体制ではジオパーク永続は難しいと思う。
地域にある山の登山道、看板の整備。
中長期視点での活動計画をつくり、それに基づいた活動実施が必要である。また、行政としてジオパーク活動をどう位置付け、どう評価していくのか、さらには行政組織内での担当者の育成（数年ごとに人事異動する制度自体の問題）が必要。
協議会の人手を増やす
プールしている資金は潤沢にあるにもかかわらず、有効な活用が為されていない。ガイド活用に資金援助が欲しい。
推進事務局員の増員。給与・報酬の拡大。 教育委員会とコミュニケーションを取り、各小中高校とガイドが関わる機会を設ける。 他ジオパークとの連携のための交流に費用を出して欲しい。 全国大会や JpGU への参加の補助。 地域学習へのガイドの講師としての参加。

トイレの設置　改修　道路の通行止　等
①ジオパークのブロック別大会や全国大会などが開催されるが、遠隔地の人と顔見知りになったところで、その後のガイドにはほとんど寄与しない。その金と時間をもっと普段の地元のガイディングに費やしていただきたい。　②イベントでの見てくれのための看板やパンフやＴシャツなど、本当に必要ですか？看板なんぞは模造紙に手書きでも十分ではないのか。　③科学的知識を身につけるには様々な資料や機器・道具も必要。ガイド個人ではなかなか購入できない機械や道具を団体の備品として用意していただき、必要とするガイドに貸し出し（もちろん有料で）してもらいたい。　④どんな仕事でも営業と宣伝が不可欠。ガイド個人もだが、協議会や行政などでちゃんと営業活動をしているのか、かなり疑問です。
ジオパークガイドの窓口にコーディネイターが出来て、ガイドも出来る人、地域大好きな若い人をみつけてほしい。専任ガイドを、職員として、雇ってください。お願いします。
要請する程ガイドをしていない
ジオパーク推進協議会、ジオパークサポーターの会等各団体と行政のもっと連携した取組が必要と思われる。
当ジオパークは複数市町村の行政の枠組みがあり、それぞれの市町村でジオパークに対する温度差が大きいのが見えすぎる。
地域にある化石産出の場所は集落の共有地、石灰岩の採掘権がついています。でも後 50 年は採掘されないと思います。景色も最高で最高のジオサイトです。残念自由に通行できません。
少子化、自然災害が多く、財政的に無理の面もあり、少しづつお願いしたい（特に道路）
当ジオパークでは皆様 10 年間頑張っているのでこのまま続けていただければと思います。
ジオパークガイドが本業に出来る様にとの事も聞きますが日本のジオパークガイドでいったい何人位の方がプロガイドとして成り立っているのでしょうか？
再認定時の指摘事項に「ガイドの自立」ということや「ガイド料で生計を立てられるようにしなさい」などがあったが、無理な要求です。「ボランティアガイドではなく有料ガイドで・・・」ということなら分かりますが・・・。
ジオパークにより利益、メリットを地元の人に実感してもらうような事を仕かけてもらいたい。

○ジオパーク推進体制側にガイドを重視しない感がある。ガイドはガイドだけで行動している。気は楽だが充実感は無い。　○トップダウン的な体制では，多様化した社会では通用しないだろう。そんなことも分かろうとせず，会議録だけが送られてくる。　○行政側にジオの価値は理解されていない。（32）の市の取り組みも，ホテルや旅館中小企業のための異文化対策も含めたガイド養成である。
ジオパークのためのガイダンス施設を用意してほしい。
①解説看板が未整備であること。　②ビジターセンター的機能、展示コーナーなど、雨対策も含め施設機能の充実が求められること。　③みちのく潮風トレイルと一体的に取り組むこと。④景観整備や現場の維持管理、情報発信等は広域的な取り組みが必要と考える。
①情報の共有：（３０）でも回答したが、全国大会やフォーラム等に出席された方（特に団体のトップや事務局クラス）の体験・知見が出席者個人に止まっている。彼らはジオパークの代表として出席したのであるから、出席できなかった我々ガイドレベルに対して情報を提供する責務がある。組織全体のレベルアップの視点からも重要である。
PR 用看板の設置
管轄するジオパークと行政との疎通がされていない。行政を飛び越えてガイド協会に通知があったりすることも多々ある。
所属民間団体は（地域のジオパーク推進連絡会）近年の台風で同居先事務所が浸水、事務機器も使用不能の大損害を被りました。それまで、同居先の配慮で経済負担が少なくて済みましたが、翌年台風浸水災害で使用不能の事務所から現事務所に移転しました。会費収入だけの運営で事務所維持・運営経費で手一杯の状況にあります。したがって、結成当時から先導してジオパークブロックエリア内外のジオサイトを住民と共に巡り、会員がジオガイド役の実践訓練とジオパーク普及啓発を兼ねた活動など自主事業の出来ない現状です。当該団体は「地域推進協議会」的 に位置付けられており、今後公的な「地域 or 広域推進協議会」への態勢整備が望まれます。また、ブロック内 or 広域エリア内のジオパーク連携・連絡調整を進める為には、常に連絡を取合い又は巡回しながらジオパーク推進の下地を整える人員配置（ブロックエリア内２名程度）が望まれます。当地域の認定ジオガイドクラブは、2017 年春から北部エリア･第１期認定ジオガイドで連携する緩い集いです。情報共有やジオサイト見分・当地域のジオパーク推進協議会事務局の配慮で、ガイド研修会や教育支援なども実施しております。オフィシャルガイドが活動を維持してゆくためには、ブロック市町村が事業予算をきちんと確保して、ジオパークツァー造成などで自地域ジオガイドを活用していただかないと「稼げないガイド」は長続きしない～ジオパーク活動が拡がらない～地域へのジオ パーク啓発が進まない悪循環に陥ります。

市は地域にある世界遺産に多くの予算を割り当てていますが、ジオパークを観光として取り組むことに関しては、どこかでブレーキがかかっているのが現状です。人口減少に歯止めがかからない当市で、果たしてジオパーク推進協議会に加盟する方が地方創生に繋がるのかどうかの見通しまでわかりませんが、せめて未来を担う子どもたちには、自然の美しさと恵み、相反する地球の厳しさや環境問題や命の大切さもジオパーク活動を通じて学べるように願っています。
ジオパーク協議会としての型は出来ているが実務に関わっている人間は数人で業務をこなしているように見えるのでガイド等を信頼して任せることが有っても作業のシェアが出来ると思うジオは観光ばかりではないことを首長に理解してもらうことも重要であり事業の為の予算等はしっかり担保して貰わないと縮小してしまうのでは
経済的自立を目指すための手段、人材を確保するための情報を、ネットワーク本部が助言するようなシステムは無いものかと思う。 専門員ではないので、見当違いの発想かもしれない。
JGN のご指導から隣接するジオパークとの統合に向かっていますが、その前段として当ジオパークを近隣の市まで拡大する申請が「保留」となりました。両市に関る課題が早く解決し、「認定」されるよう望んでいます。
年間計画と方向性を早めに出してほしいです。
定期的な勉強会の開催。※やってもらっています。将来にわたってやってもらいたい。
予算が足りないことです。歴史資料室の冷暖房が完備されていないことや 1 時間千円のガイド料は少ないと思います。ガイドするにあたり、魅力を伝えようと皆一生懸命頑張っています。その頑張りに見合う様なガイド料が必要です。

（34）最後に何か書きたいことがあれば、ご自由にお書きください。

特になし
日本ジオパークネットワークの皆さま、大変ご難儀をおかけしております。今後とも宜しくお願いいたします。
ジオパークという有り難い財産を得ている当地は恵まれているように感じます。 地域の方からももっとサポートしていただけたり、関心をもっていただけるよう努力しますし、ネットワーク様からの一層の支援もお願いしたいと思います。
若いガイドの育成を今後どうしていくのか、あるいは現在のガイドの高齢化は否めないし、今後どのようにガイドを育成していくのか不明なことなどが心配である。
もう少し、審査や、ジオパークの理論がわかるようにして欲しい。岩石、地質公園に、なっている。
日本ジオパークネットワークの 10 周年記念誌をよく読んで、考えたいと思います。
特になし
ガイドの若い世代の確保に苦労している。また、主に当ジオパークを研究して、ガイド活動に積極的に関わってくれている先生方も高齢化を迎えているので、後任の確保を心配している。また、ジオパーク又はガイドとして観光の活性化や地域振興にどの程度貢献しているのか比較するものがないので全く分からない。
なし
ジオパーク１０年。ガイドのあり方が細分化されつつあり、ボランティアガイドとプロガイドの選別も進んできている。それぞれで発展的展開をするために全国大会のガイド分科会を有償ガイド、無償ボランティア部門で分けてはどうか？また、全国大会の日程も本大会１泊２日、分科会半日～１日の２泊３日のコンパクトな形に戻して欲しい（次回宍道湖は３日間のようであるが・・・）。霧島大会のような集まりやすく解散しやすい日程でないとプロガイドは参加が厳しいのでは？
余りありません
ジオは非常に面白いんですが若い時に勉強しなかったんでいまだに中学、高校とかやってます。が、今まで生きてきたこと見てきたことの繋がりが分かった時は最高ですね？。
JGN が大学やその種のネットワークを確立して、どのジオパークにも、優秀な専門員を供給できる体制の強化を望みます。

学校の先生方が、ジオパークについての知識がないため、子供たちにも、伝わっていないと思います。
全国大会もマンネリ化。 その時期時期のテ-マを絞ってもらえたら！
ジオパークに参加して３年経過しましたが、ジオパーク全体の仕組み、目指している方向、活動状況等が少しづつ理解できるようになり、興味が深まってきておりますので、微力ながら今後の発展に尽力していきたいと思っております。
ジオパークが各地で認定され多くのガイドが誕生しているが、その組織や支援体制、活動運営は多くの場合ボランティアの努力に支えられている。本当の意味での観光産業の発展を期待するのなら、公民連携の確固たる体制づくりの強化が必要と考える。それがなければいずれ流行りもので終わってしまいかねない。
ガイドにも眼を向けて頂き，ありがとうございます。 遂に来たかという感じです。
多様性があっていいとおもいます。
地方では、従来の私達が理解していた観光は終わったと思っています。これから地方はグローバルな視点で自分たちの地域を俯瞰し、新たな観光を生み出さなければならないと感じています。それにはジオパークの理念は適していると思っていますが、まだまだ、先は長いです。
私は今年ガイドなりたてで、訳もわからないまま、大分の全国大会に参加しました。そこではじめて、ジオパークの深さ、広さ、素晴らしさを知り、ジオガイドの難しさを痛感しました。今は少し腰が引けてます。 でも、つたないガイドですが、お客様が楽しく聞いて下さったり、理解して頂けたり、「ありがとう」の言葉を頂いた時の嬉しさは何よりです。
このアンケートを有効に活用してください。
みんなが楽しくガイドできるといいなと思います。世界中と交流したいです。しかし年齢的引き際は自覚しなければならないと思います。
近隣のジオパーク地域を含んだ国立公園のさらなる利活用とこの地域の一帯となったジオパーク、富士山の文化遺産と自然遺産を合わせた複合遺産とし世界遺産、世界ジオパークに推進させる国の組織を作る事□□

推進協議会のメンバーは、地域の各団体の寄せ集めであり、ジオパークにはさほど興味があるわけではないのに名を連ねてる。こういう行政の意味のない組織づくりをＪＧＮなり再認定審査などで、指導してもらいたい。
ジオパークガイドはボランティア的性格が強いせいか、他のガイド職に較べて高齢化率が高いように感じる。そのため、新たな知識や経験を重ねて成長しようとする意欲に欠ける例が多いように思う。せっかく来られたお客様をジオの面から十分満足させ、リピーターに繋げられないままになっているのではないか。 市町村などの公的支援策と、ガイド個人の魅力の両面が上手く絡み合わないと、ジオパークによる地域性振興策は回って行かないように思う。
なし
殆どのガイドは手弁当の状態である。好きでやっていると言われればそれまでだが、新たな力や息吹を増やすには手弁当、持ち出しでは難しい
ジオパークの活動が地域振興の一翼を担えれば嬉しい。
旧観光ポイント→視点を変えてジオサイト、同じ観光資源でも新たな資源にブラッシュアップできるかどうかは当該エリアの構成団体しだいです。旅行業者は自然ベースの新資源に飢えています。ツアー等の商品造成に上手く協力してもらいましょう。オリパラ開催による健康維持や体力増強、2020 は自然志向と健康趣向の気運が国民に高まりますよ！因みに当方は海抜 0m→山頂のコース、ジオ・ロングトレイル構想の具現化に向けて準備しています。全国の地方都市がジオパークを通じ地域創生できますよう祈念申し上げます。
ジオパーク活動は地域活性化、あるいは地域文化の普及で大変意味があると思いますが、国からの補助はもらっているのでしょうか。
JGN 設立以来 11 年目になりますが、ガイドにはますます負担がかかり、ガイドの高齢化も進んできました。当初はジオパークガイドは花形的存在でしたが、苦労の割には得の少ないボランティア的性格になってきました。近年はガイドの応募者がめっきり減少しています。高齢化で死亡者で減員したり、体力の限界までガイドをやっている方も(自分を含めて)少なくありません。物珍しさでジオパークなるものを知った住民にも、ジオパーク効果が目に見えるような代物ではないので、人口減少効果が足を引く方が大であり、総合的な地域振興が進まない状況下では、「ジオパークを辞める現象」も当然起こり得るし伝染もすると思います。負担の大きい 4 年毎審査・厳し過ぎるのではないかと思われる JGN の審査でジオパークに嫌気を持つ方が現れてくることは不思議ではありません。魅力あるジオパークを構成するにはジオガイドの能力が大きな要因の一つだと思いますが、ガイド養成にもう少し配慮を・・・古狸ガイドの嘆き

認定を取り消されたことで、この２年間の苦しみは、はかり知れません。 行政、企業など多くの方に過大なご迷惑をお掛けした、損害は、償え切れません。どれだけの方々が、日本ジオパークを理解して頂くために、PR に関わって頂けたか、そのために、お金、時間、信用を積み立てて、持続可能にしてきた努力は、見られないのでしょうか？ 事務的な仕事は、あとでついてきます。しかし、一度壊れた、信用は、どんなに努力しても無理です。だから、取り消されて２年たってもめどが立たないのです。こころから信用を返して欲しい。その為には、日本ジオパークの努力はないのでしょうか？会費だけ取ればそれでいいのですか？無責任ではありませんか？行政や企業からの信用を取り戻すのには、日本ジオパークの方々が動かないで、どうするのですか？
地域内部の問題ですが、教育関係にはかなり支持されて定期的な学校支援活動も活発に行われている。微妙に活動内容がクロスする観光も、(当初、敵対さえ感じた観光協会も最近は理解してくれたのか)少しずつ歩み寄ってくださっているように思うが、一体となって活動すべきだと思う。 大人の事情が垣間見えるのは仕方のないことなのかしら。
今回の全国大会に戸惑いを感じました。分科会や口頭発表や招待講演等々のスケジュールが重なり選択が難しくどっちつかずになってしまった。やはり連休に大会が開催されたことがどうしてと思ってしまいました。
JGN の認知度向上に努力してください。
県と県トップの銀行が手をひいたのは、理由として理解できない説明で落とした日本ジオパークの責任です。だから自主返納するジオパークが出て来てしまうのです
ジオパーク活動が地域の活性化に繋がる事は少ないと思われる。行政とガイドが連携して楽しい活動ができればいいと思う。
ジオパークが広く日本中に浸透するべく JGN には期待しております。やはり『日本ジオパーク紀行』のような TV 番組を全国へ発信してもらいたい
ジオパークの認定を受けたものの、観光客や人員の流入に結びつかないとの理由で撤退するジオパークがあるようで心配だ。日本ジオパーク委員会と世界とはカテゴリーや位置づけが異なっているようだ。今後当地も世界を目指して欲しいと願っているが、日本委員会はどう考えられるのか、どこかで教えて欲しい。

ガイドが有償なのかボランティアなのか、両立するのであればどういうものがモデルケースとなるのか、全く示されない。このアンケート自体もそうであるが、どちらを前提としているのかわからない。ジオパークになっても特に活かされていないと考えている。行政が支援するか、ガイドが収入を得やすい形にしないと、地域の高齢者の「いきいき活動」の域を超えない。エコツアーなりの産業を起こし、既存の観光業を盛り立てる、地域資源として活かすなどの発想がなく、誰もついていかないものになりつつあると思う。行政もやっている価値を見出せなくなってくるのも当然で、今回ジオパークを辞めた地域が出るようなことは今後続々と続いてくるのではないか。そのことに関して危機感を持っているとは到底思えないし、持っていたとしてもあまりに後手に回っていると感じる。
アンケートで実態を把握して、今後に役立てることは素晴らしい。まとめはご苦労ですがありがたいです。
特にありません。
地域の需要が高まりつつあります。オリンピック前のこの時期早い取り組みを願います。若者やお年寄りなど広い世代の移住希望者の需要はあるが、空き家がうまく提供できないなどマッチングがうまくいっていないこと、行政の手続きの面倒さなどあるのではないでしょうか。また、店やゲストハウスを開くための規制も消防や衛生関係など厳しくなっても緩むことはないというジレンマがあるのでは？なかなか夢を実現するのに規制が多いのではないかと感じています。人口減対策が急を要する地域ですから、思い切った規制緩和で、移住したい人々を優遇して、新たな地域を築いていかなければならないでしょう。地域の価値や良さを伝える語り部としての役割も我々ガイドにはあると思います。何しろ、住民にもお客様にも居心地の良い地域にしていきたいです。
前問に記した通りです。
JGN がもっと主導的に行動を起こして欲しい。
特にありません。
もっと地域を巻き込みたいと思うのですが、全国大会のセッションで、教育とかガイド以外の農家の人が参加しやすい様な内容があると誘いやすいと思います。例えば農業から見たジオパークの例の紹介とか。各ジオパークから消防職員や防災担当の人に必ず集まってもらい意見交換をしてもらうように仕向けることができたらと思います。全国大会＝ガイドの集まり？でいいのでしょうか？　すみません。まだ、ジオパークになってもいないのに。 人集めや観光だけが目的では無い事をわかって欲しいと思います。
ジオパーク活動の発展を願うとともに、自身も携わっていきたいですね。

ゲストに楽しい思い出を残せるようなガイドをしたい
ない
推進団体やガイド団体が閉鎖的で事務局や役員だけですべてを決めてしまうことが最も不満です。「先生にやらせられている学校の委員会活動」のようになってしまっています。初回認定審査に挑んだころのような緊張感と活気がまったくありません。このままではジオパークの名を返上するしかないと感じています。
来訪者が容易に立ち寄れる鉄道の駅前などにジオパークの拠点施設、または地域のことを学べる博物館・資料館などをぜひ開設していただきたい。
ジオパークを目指していた地域がトーンダウン。私は近隣の町在住、近隣ジオパークとこの地域を舞台にしたジオストーリーを期待していたので、非常に残念。しかし、今後もこの地域を含めたガイド活動は続けていく。
ガイドを始めたばかりですが、自分の住んでいる大地のことを学んで、大地のお陰で、自分達や祖先が生活をしてきたことに感謝しています。 これからも、大地と向き合って生きていかなくてはいけないということにみんながきづいてほしいです。 高齢の人や、体が不自由な人もジオサイトとかにふれることや歩くことができたらいいなと思います。なかなか足元が悪い所を通らなければ、いけないところがたくさんあるので、、、。バーチャルで見るだけでなく、実際に感じる事ができたらいいなと思います。
台風でかなり遊歩道など荒れてしまいました。こうした自然だからこそ恩恵も災害も起きるわけですが実際ツアー中に地震が起きたらと頭をかすめることがあります。
再認定にイエローカードが出されて、みんなで力を合わせて何とかしようと思っているが、推進団体や行政からどんな事をするか示されていないように感じる。ガイドの認定講習は場所が遠くなり回数が減ったのは残念で、人に勧められないでいる（希望者は多い）。
行政は人事異動が避けられないとは思うが、ジオパーク担当部署の人員は熱意が必要。安定を求めるような人材では、再審査にも対応できない。そのことを今の首長は理解できていないように感じる。
ジオパークを退会した地域がでたことが残念です。これに追随する地域が出ないといいですね‼
・１個人微力ながら、学校＆地域の教育などを維持継続しながら地域の活性化につながればと考えています。

日本ジオパーク協会の全国的な宣伝。ブラタモリなども含めた国土の見直し・歴史文化紹介 地域行政は、確かに予算が少なくジオパーク活動に配分できる予算が限られていると思います。 日本ジオパークネットワークが直接政府に働きかけ予算を確保して頂きたい。 これを市に配分するのではなく各地区協議会に配分できないものでしょうか？ 国土保全整備の面からも環境庁や林野庁（営林署）や漁協会とも連携して、全市民がジオパークのメンバーに成れるような取り組みが必要です。自然防災や連絡網を含め市民レベルで変化しつつある国土保全に関心を持つことが必要と思われます。
ジオパーク活動を維持するにはおカネがかかる
ジオパーク活動が恒久的な活動であるよう願う。そのための官民協力体制の強化。
自分の時間を使って、ガイドの為に動いてくださっている、会の役員さんに、感謝致します。
地元では、以前に比べてジオパークに対する興味が薄れている。
自分は現役作業員だった頃、自分の地域が嫌いでした。今でも自分の生まれ育ったところは山村で好きでは無い。しかし市内全域を見た時に素晴らしいところがたくさんあることを初めて知った。それにしても廃れていくところが多い。
実は、ジオパークに認定される前から、地域の人々は過酷な自然と向き合い、大地の恵みを生かして生活していた。そこに地域独特の文化を育んできている。だからこそ地域の特性を生かして、地域の魅力を再認識し、経済活動を活発にしていくことが大切だと考えています。
特にありません。
地域の公民館長のジオパークに対する理解、地域住民の共感を得られる様に内容を作り上げる姿勢、いつもの愉快なガイドさん、募集すると２ー３日で定員２２人参加あります！
ガイドは専門家を目指し、専門家はガイドを目指すように。
多くの人にジオパークを理解してもらえるよう今後も頑張ります。よろしくお願いいたします。

【要望です】日本ジオパークの審査時に審査員らから、我々ガイドに求めるレベルのイメージを伝える際、判り易引き合いに出したのが、NHK の「ブラタモリ」でタモリやアシスタントを相手に説明する人たちのレベル・・・と言われました。確かに私も番組を視聴しながら、学びに引き込まれて楽しいです。
但し、あれらの方々は、学芸員や教授など、業務で専門知識を得ていられる方々であり、且つ、番組構成上、タモリさん等との掛け合いのシナリオが存在しその通りに進めることができているものです。時々セリフのカンペも映り込みます(笑い)。また、視覚に訴えでとても判り易いフリップや模型、動画などを制作しガイドグッズとしてそれらを交えているからできるレベルだと思います。私たちがかなりの努力や時間を費やしても、そこまで学んだり、ガイドグッズを揃えることができません。そういう現実を考慮の上、私たちガイドのレベル、ガイドの構成内容を求めたり、私たち職業ガイド以外でもできるアドバイスを頂きたいと思います。

ここに書いたところで、どうなる事ではないと分かっている。しかし、関係者(ガイド団体の方々)がそのような状況(気持ち)である事をご理解いただきたい。

ガイドの機会が少ない

私自身が後期高齢者なので、楽しみながらいつまで案内することが出来るか。
ジオパーク推進団体やお客様にご迷惑をおかけしないよう、現時点では、要請があれば喜んで活動したいと思っています。

（３３）にも記載したが、事務局体制や財政規模がぜい弱だが、確実に活動が定着しているジオパーク構想（活動）を支援する制度も検討願いたい。

ジオの事をしれば知るほど日々の生活にも深く関係があるのだと新たな気付きがあり思い白いです。それに自分の住む地区の成り立ちもすごく興味深くなりました。ガイドにかんしてもジオパーク推進協議会に関しても全然公認のガイドではありませんが少しでも役に立てればと感じて活動しております。

地質の現場で 50 年をこえ、今は井戸屋で生計。専門バカが身近な生活の場の語り屋として再生中です。今見つめているすがたを手のひらにのせてジオパークの世界に導く魅力を感じて頂きたいです。

ジオパーク活動で地域の学びを深めた小中学生は自らのルーツを自分の言葉で語ることができる。このことはジオパークの取り組みが生んだ貴重な成果である。

金をかけているのに、地域の経済効果が無いようです　商店の人に時々聞きますが　ジオパークは転換期のような気がします

特になし
あまりガイド料にこだわるのはいかがなものか。
このままの状態では、再認定は難しいと思う。
特になし
ジオパークに出会えたおかげで、自分の住んでいる所の成り立ちや人々の関わりを知ることが出来て、本当に感謝しています。 ジオパークのネットワークの繋がりで全国のジオパーク活動をしている仲間の皆様と出会え、その地域と自分の住んでいる所の違いや共通点を知ることができて本当に嬉しいです。 これからも色々なジオパークの皆様と一緒にジオパーク活動を楽しんでいけたら幸せです。 これからもよろしくお願いします。
仕事の都合もあるので、勉強会や講座は同じ内容でも何度かやってほしい。
市町村の資金面での負担が大きすぎると思います。
特になし。
ガイドの「やる気」の問題。
ジオパークの普及には教育との関係がたいせつであり、学校教育の中にもっとジオパークを入れるようにしたい。
ジオパークが地域の中にもっと入っていくべきと思っています。観光だけではなく、教育関係特に学校教育との連携を考えるのがよいではないか、と思います。・・・・・先ほど回答を送りましたが、それは破棄して、これと交換してください。
地域の人たちにもっとジオパークの周知を。地道ではあるが地域の学校登山を通じて子供たちに自分たちがどんなところにいるのかを教えていきたい。
「ジオパークとは何か、ジオパークで何をめざすのか？」をもっと具体的に的確に話ができる講師の派遣
どのような状況でも　ジオガイド道を歩きます。
ジオストーリーの定義をわかりやすく教えてほしい
(33)に同じ

特になし
目先の経済性から認定を返上した地域があるが、ＳＤＧＳなど大きな観点からジオパーク活動の目指すところを地道に探っていきたいと思います。
今回のガイド調査はよい機会だと思います。結果をまとめて伝えていただけるので楽しみにしています。
構成市町村側のサポート体制（人的、予算的）の拡充が必要
ジオをテーマにブログを書いています。白山市出身の加賀の千代女にちなんだブログで、千代女の俳句にも、ジオにかかわる句が沢山あるので、紹介しています。
日本におけるガイドの地位の確立、向上をお互いに望みます。
大分姫島ジオパークに参加。視野が広がり、ジオガイドの役割や存在の大切さを実感。他ジオパークとの交流は自分たちのジオパークを再認識する機会になり、是非、子供たちにも参加できる体制づくりを構築したい。
ジオパークガイドの観光ガイドとの差異が難しい。近年、客の興味を引くためガイドが「人の生活、地域特産品」にハイライトするような傾向が強くなり、ジオ色がなくなっていくようなところが残念。
8 年ジオパーク認定ガイドを行ってきて、活動体が当初の新鮮な活気が薄れてきて、ある種の停滞を感じる。持続可能な活動のための方策を考える必要を感じる
夫婦でガイドをやっています。ガイド終了後、一杯やりながら反省会をやってます。お客さんの「ありがとうね。楽しかった。勉強になったよ。」の言葉を励みに自分自身も楽しみながらやってます。
なし
なし
怒られるので正直なことは書けません
家業も含め、観光業から地域発展に貢献することを信条としています。 世界遺産と異なり「活用」を目的としたジオパークの理念に以前から共感し、関わりたいと思っていました。今後も微力ではありますが磐梯山ジオパークの発展に関わっていきたいと思っています。今回は個々の意見に耳を傾けてもらえる機会をいただき感謝しています。 ありがとうございました。

ジオの広報宣伝をもっともっと強化すべき。
60 代後半になって、ジオパークに出会い、現役時代と別の世界を、楽しんでいます。
ジオパークはネットワークです。いろいろな大会に参加させていただき全国にお友達が出来ました。ジオパークに参加して屋外での活動なども多いためか、身体も丈夫になりお医者様にもかからなくなりました。本当に良い物に出会えました。
マンパワー（住民の意識だけでも）で可能性がどんどん広がるジオパークの有用性を行政（市長）がもっと尊重して欲しい。ジオパークは、お金が少なくても盛り上げられるはずだ。
ツーリズム・教育・保護保全など、全国で頑張っている地域に対しての一定期間の投票制による表彰システム（ジオパークアワード）があっても面白いと思う。それにより得意分野・不足分野における視察などにつなげたい。
ガイド登録してあるのでアンケートの回答依頼が届いたので、回答していますが、あまりご協力てきずすみません。
ジオツアーでは集客力がなくジオガイドとして活動がほとんど出来ていない
ジオパークが属人的な一部の方の努力に頼らず，組織や地域全体で盛り上げる形になると素晴らしいと思います．また，かつてのディスカバージャパンのようなジオパーク巡りがブームになると素晴らしい．
今回、お答えしたことは苦情ではありません。 何とか良い思索はないものかと思い回答しました。
ガイドの方々はジオパークができる前から活動している方も多く、ジオパーク推進団体や行政のように数年で人がすべて入れ替わる組織と異なりこれまでの経過や現場の実情を熟知している方も多い。こういった方々がジオパーク運営に参加できていないことは大きな損失だと感じるので今後もジオパーク推進団体や行政には参加の場作りを求めていきたいと思う。
当地域のジオパークガイドの会というのがあるが、ICT をうまく使って情報の迅速な伝達を行うべき。また、長いスパンで考えるとガイドのやり方・interpretation の分野等のアクションをプロセスに入れていくべき。一言でいうと頼りない。
各ジオパーク、拠点整備をした方が良いと思う。
なし
これからも、ガイドの声を受け止めてもらえると嬉しいです。

防災、減災の点からも、住みやすい、楽しい地域にするためにも、ジオバークが担う責任は、重いと思う。行政が、てがけたジオバークを、回りの意見をききながら、ジオバークを、育てていってほしいです。ジオバーク関係者全体の、総会のようなものを、定期的に。開催してほしいです。
特になし
他のジオの事をまだ詳しく知りませんが、日本にも宝がこんなにある事がもっと広まるといいですね。
再度、若い現役世代がどんどん続くような持続的なガイド組織・活動をめざさないと自然消滅する恐れがある。ことを強調したい。
地域の来客者にジオパークってご存じですか？と質問するとほとんどの人（90 パーセント以上）が知らないと言われ、ジオパークは、国民に認知されていません。世界遺産や国立公園を求め旅する人は多いようですが、ジオパークを認知してもらうにはどうすれば良いのでしょうか？
ジオパーク活動が目指す姿が明瞭でない気がする。　文言で表した目標が、具体的姿としてどのような絵を描いているのか。　評価制度を持っている限り、あるべき姿が見えないといけないと思う。　その姿が見えれば、中途半端なジオパーク推進が解消されると思う（無理なら申請しないと思うので）。
ガイドの主力が退職後の人材という現状は、非常に危うい。若者が活動できる環境を作らねばならない。
取りまとめお疲れ様です。 色んな意識のガイドさんがいると思いますが、地域への愛はみんな同じくらいアツイ！と思ってます。 関わった人が、地域が、みんな幸せになる、ジオパークがそんな仕組みになるといいなとすごく思ってますので、これからの 10 年も引き続きよろしくお願いします！
毎年秋に小中高校生のジオ発表会があり 11 月 21 日に聞に行って来ました。子供達が一生懸命に取組んで勉強しているのが頼もしく、又、私達のガイドの参考にもなり、良い一日でした。
目標はジオガイドがせめて「副業」になるようにしていきたいですね。
私は東京から夫の定年で地域に帰り、冬になると太陽もなく鉛色の空をみて「うつ」になりそうでしたが、歴史や地域、地質や自然の勉強しガイドになり、今は市内の事や、いろんな所で友達も出来て充実した生活になった。ガイドのおかげです。

アンケート等、出欠の資料等めっきりふえて少し大変です。
日本海拡大の海底火山地質が自然のまんま保在されている所をどうにかしたい。秘境の地です。
「ブラたもり」みたいな「ジオたもり」の番組を作ったらどうですか？44ヶ所の日本ジオパークを回るような番組です。お金がかかるが、TV番組が一番いいと思います。
世界ジオパーク。世界の国々の貴重な自然をお互いに大切に守り後世に残し伝えましょう。戦争等で大切なものをなくすのは止めましょう。人の手で地球をこわさないよう手をつなぎ大切に守りましょうという意味と自分は思っています。
ジオガイドのハードルを上げすぎると次第に「私には無理」という人が増えそうです。もっと気楽に楽しんでガイドできるような環境づくりが大切と思います。
今のところ特にない。（都度、事務局などに意見を言っている。）
○再認定時の日本ジオパーク側との対話の時に強く感じたことは，一方的に我々が正しいのだからお前らが改善しなさいとしか聞こえなかった。日本ジオパークが偉いのでは全くないので，もっと地方に寄り添い，ガイドともコミュニケーションをとりながら相互理解ができないのかと思った。専門家が専門馬鹿になったら価値はありません。　　○親しみを持てなく，具体的な価値も無く，ただ認定だけを求めている今の姿では 我々市民にとって日本ジオパークも世界ジオパークも不必要である。
専門用語を避けて、解りやすい言葉で話すのはその通りだと思うが、断層、隆起、火山岩、 深成岩、等テレビで普通に出てくる（例えばブラタモリ）言葉まで、専門用語とするのはどうか。
①今回の調査結果を我々ガイドに対しても報告してもらいたい。　②同様の調査を事務局担当者を対象として実施してみたらどうか。両者を対比するとどのような結果になるか興味がある。
ジオパークとは何か？ジオの本筋ではなくジオサイトのある地域のためのことを第一に構築し個人所有していうジオサイトに手厚い支援が必要。
調査結果報告が欲しい！

１．JGN の HP に、全国ジオパークイベントカレンダーのようなものを載せていただけないでしょうか。どこか他地域のジオパークに行こうかと思うとき、できればイベントがあればそれに参加してみたいのですが、ジオパーク個々の HP をひとつひとつ見ないとイベントがわかりません。 JGN の HP にカレンダーがあり、任意の日をクリックすれば各ジオパークのイベント記事 にリンクして見られるととても便利です。

２．近頃、駅や神社、城等を巡るアプリゲームが流行っているようです。全国のジオパーク を巡る楽しいアプリがあると、ジオに興味の薄い人でも巡るようになるかもしれません。 なんの分野でも、マニア、おたくのパワーはすごく、経済効果も期待できます。 ジオパークのアプリもあるようですが、限られた地域しか載っておらず、「 知る・学ぶ」 ことはできますが、もう少しゲーム性が加わったものがあるといいなと思います。

3．他ジオパーク内の道の駅に立ち寄ると、そこのジオ関係のパンフなどが置いていないところが多いです。せっかくのジオエリア内なのに、ジオのジの字もないところもありもったいないです。 予算の都合や行政の関係などで、パンフ配布や看板設置などむずしいこともあるでしょう。 各ジオの主要関連施設に行けばのぼりや看板もあり情報は入りますが、ちょっと立ち寄った場所で「ジオ」がたびたび目に入れば、微妙な興味の人でもそのうち興味を持ってくれるかもしれません。 どこのジオパークもジオ学習やイベントなどを行い活発に活動されており、フォーラムや 他地域の交流も盛んに行われ、ジオパーク関係の人の行き来などで経済効果もあるでしょう。ただもっと一般の人の流れが加わると、さらに経済効果につながると思います。 経済効果はないよりもあったほうが良いです。 ジオパークは、「身近にある魅力的な場所」。多くの人にその魅力が伝わることを願います。

きちんとした推進組織を整え、事業予算を確保して、ジオパーク関係住民が集い、ジオパークをどう進めるか皆で考えてゆきたいものです。

当地域は、5 億年から現在まで日本列島を始め地球の営みが、まじかに観察できる特性を持つジオパークエリア、加えてはるか昔から繰返し大地震・津波災害を受け、そのたびに立ち上がって来た地域です。この災害の経験と教訓を伝えてゆく、多種多様な山海の恵み、生きる知恵が作りだしてきた歴史・文化・芸能・生活様式を世界に発信・提供しながら、地域のジオパークエリア連携の絆を強めてゆきたいものです。

前回審査の指摘事項など未解決部分も、多々あろうかと思います。東日本大震災で露呈したインフラのひ弱さ、復興の渦中で主要道路も未完、二度の台風災害で JR 鉄道路線も寸断中、ある地域は鉄道から BRT に転換という当ジオパークエリアは、地域住民・経済にとって非常に残念かつ深刻な「観光動線」の寸断・地域経済循環の悪化状態にあります。

どうか当ジオパークエリア住民の希望と連携の為にも、ジオパークとして不十分な 部分には大叱責を加えていただき、日本ジオパークとして強力なご指導・ご支援をお願いしたいと考えます。よろしくお願いいたします。

まだ 10 年 もう１０年 でも、船は浮いているが前に進んでいるのか実感がない ガイドとして一役を担っているからやりがいはあるものの わくわく感がいまいちでも楽しんでいるのは確かかも
今年の「日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会」に参加しました。基調講演、招待講演で貴重な情報を得、SDGs 分科会で取組に関る示唆を少し理解でき、またパビリオン等で他のジオパークの状況を知ることができ、大変有意義でした。時間をお金があればまた参加したい。
・自分自身、実際にガイドしたころがなく、座学で得た知識だけでは、ガイドに必要なスキルは備わっていないと感じている。　・しかし、観光客はガイドを通して、その地域を知ることが多いため、ジオガイドは必要な存在。・ガイドの高齢化など課題があるが、若い人にも興味をもってもらい、料金をとるなど、持続可能な体制を整えなければ、地域のためにならないので、時間はかかるが、取り組んでいく必要があると思う。